

令和5年度
事業報告書

施設一覧

施設等名	郵便番号	住所	電話番号	FAX
日本赤十字社岩手県支部	020-0831	盛岡市三本柳6-1-10	019-638-3610	019-638-3619
盛岡赤十字病院	020-8560	盛岡市三本柳6-1-1	019-637-3111	019-637-3801
岩手県赤十字血液センター	020-0831	盛岡市三本柳6-1-6	019-637-7200	019-637-4371
岩手県赤十字血液センター 盛岡大通り出張所	020-0022	盛岡市大通二丁目3-7 （「CT33」4F）	019-653-6511	019-653-6558
岩手県赤十字血液センター 奥州供給出張所	023-0062	奥州市水沢字小石田66-4	0197-47-4827	0197-47-4874
日赤岩手乳児院	020-0831	盛岡市三本柳6-1-10	019-614-0821	019-907-3612
特別養護老人ホーム 日赤鶯鳴荘	020-0573	岩手郡雫石町南畑第32地割15-30	019-695-2131	019-695-2576
本社	105-8521	東京都港区芝大門一丁目1-3	03-3438-1311	—

目 次

令和5年度の各施設の主要事業及び行事について	1
1 災害救護	2
(1) 救護活動	2
(2) 救護員育成	3
(3) 救護員の登録・編成状況	5
(4) 救護資材の整備状況	5
(5) 救援物資の整備状況	8
(6) 防災ボランティア・個人ボランティア養成状況	10
(7) 災害義援金の受付状況	12
(8) 防災減災の取組	12
(9) 復興支援活動	13
(10) 臨時救護	15
2 救急法等の講習	16
(1) 各講習の活動概要	16
3 赤十字奉仕団・ボランティア活動	26
(1) 地域包括ケア推進事業	26
(2) 赤十字奉仕団等編成・ボランティア活動概要	26
(3) 会議・研修・訓練	30
4 青少年赤十字	32
(1) 本社主催事業	32
(2) ブロック主催事業	32
(3) 支部主催事業	33
(4) 研究推進指定校	33
5 国際活動	37
(1) 全社の活動概要	37
(2) 海外救援金受付状況	39
6 医療事業・血液事業・社会福祉事業	40
(1) 医療事業	40
(2) 血液事業	44
(3) 社会福祉事業	56
7 赤十字思想の普及・広報	61
(1) 赤十字思想の普及啓発	61
8 会員・活動資金	65
(1) 会員・活動資金概要	65
(2) 社業の推進	67
(3) 表彰概要	70
9 有功会の育成及び活動	72
10 評議員会の開催	74
11 決算概要	76

付 録

○ 日本赤十字社岩手県支部現勢	78
○ 日本赤十字社岩手県支部組織図	79
○ 各施設等の職員数	79
○ 各施設の幹部職員	80
○ 岩手県支部のあゆみ	81
○ 日本赤十字社現勢	102
○ 用語解説	103
○ 赤十字標語一覧	

は じ め に

赤十字事業の推進につきましては、平素から県民の皆様並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆様から深い御理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、5類感染症になりました。

これにより、法律に基づき行政が様々な関与をしていく仕組みから、個人の自主的な取組をベースとした対応に変わりました。

このような状況の中で岩手県支部の各施設は、様々な工夫を凝らしながら、本来の事業を着実に実施して参りました。

支部事業につきましては、令和6年1月1日に発生した能登半島地震災害において、医療救護班5班、災害医療コーディネートチーム2班、こころのケア班1班を管内全施設から職員を選抜して現地に派遣いたしました。

また、青少年赤十字事業として「リーダーシップ・トレーニング・センター」を4年ぶりに宿泊を伴う日程で開催いたしました。

医療事業につきましては、信頼される医療を提供し、地域医療支援病院として医療・介護・福祉の連携に努めるとともに、救急医療および災害救護に貢献できる体制の整備を進めて参りました。

血液事業につきましては、広域事業運営体制の下、医療機関の需要動向を把握し、より安全な血液製剤を安定的に供給するため、輸血用血液製剤の Web 発注促進及び献血 Web 会員サービス「ラブラッド」による献血予約の推進に努めてまいりました。そして、FAX から Web 発注への移行とともに、積極的な献血推進により協力者が増加しました。

乳児院につきましては、身心ともに健やかに成長できる養育の提供に努めるとともに、新社会的養護の推進のため、家庭支援専門相談員と里親支援専門相談員が中心となり、早期の家庭引取や円滑な里親委託に重点を置いて取り組みました。また、子育て短期支援事業を実施し、地域の子育て支援に取り組んでおります。

鶯鳴荘につきましては、新型コロナウイルス感染対策を最優先事項として取り組みました。

また、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じた介護支援に努め、医療的ケアのニーズが高まってきたこともあり、看護職と介護職の職種間協働を図ってきました。更に、地域と積極的に交流を図り、地域における福祉の拠点として機能している状態を目指してまいります。

今後とも、関係各位の一層の御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和6年5月13日

日本赤十字社岩手県支部
支部長 達 増 拓 也

令和5年度の各施設の主要事業及び行事について

月	日	内 容
4月	3日	管内施設幹部職員及び新採用職員支部長辞令交付式（県庁第1応接室）
5月	1日	赤十字創立記念日・岩手日報に赤十字運動月間に関する全面広告掲載
	8日	青少年赤十字岩手県指導者協議会理事会・総会（支部会議室）
	18日	全国赤十字大会参加（東京：明治神宮）
	21日	北上川上流総合水防演習（一関市北上河川敷）
	23日	岩手県支部監査委員監査（支部会議室）
6月	6日	第1回評議員会（盛岡市エスポワールいわて）
	25日	赤十字ふれあいフェスティバル（イオンモール盛岡）
7月	1日～31日	愛の血液助け合い運動月間
	27日～28日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（国立岩手山青少年交流の家）
	28日～31日	秋田県大雨被害へこころのケア・避難所アセスメントチームを派遣予定だったがニーズ減少のため派遣中止
	31日	岩手県有功会連合会総会（支部会議室）
8月	1日～10日	夏の献血推進キャンペーン
	3日	さんさ踊り参加（管内全施設）
	6日	青少年赤十字親子サマースクール（支部会議室・救援センター）
	18日～20日	全国赤十字救護班研修（石巻赤十字病院）
9月	17日	赤十字ふれあいフェスティバル（イオンタウン釜石）
	22日	管内施設合同災害救護訓練（支部会議室・救援センター）
	上旬	盛岡市長選挙の結果により副支部長が交代することに伴い、評議員会文書審議を実施
10月	12日	高文連JRC委員会活動発表会（病院記念講堂）
	19日～21日	第1ブロック支部合同災害救護訓練（石巻赤十字病院）
	29日	次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー（釜石市陸中海岸グランドホテル）
	下旬	翌年度合同採用内定者決定
11月	1日～30日	献血ルーム35周年キャンペーン
	13日	青少年赤十字活動事例発表研究会（盛岡市サンセール盛岡）
	15日	本社事業局長来局（支部・乳児院・鶯鳴荘視察）
12月	2日～25日	クリスマス献血キャンペーン
	14日	有功会感謝の集い（サンセール盛岡）
1月	1日～2月末	はたちの献血キャンペーン
	10日～14日	能登半島地震支援活動派遣
	15日～19日	能登半島地震支援活動派遣
	21日～25日	能登半島地震支援活動派遣
	25日～27日	能登半島地震支援活動派遣
	30日～2/3	能登半島地震支援活動派遣
2月	3日～14日	バレンタイン献血キャンペーン
	6日	第2回評議員会（盛岡市エスポワールいわて）
	13日～17日	能登半島地震支援活動派遣
	19日～25日	能登半島地震支援活動派遣
3月	2日	次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー（ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング）
	18日～24日	能登半島地震支援活動派遣

1 災害救護

災害救護は、赤十字の重要な使命であり不測の災害に迅速に対応するため、盛岡赤十字病院に医師、看護師、主事等からなる常備救護班 8 班を置くとともに、発災直後の超急性期に活動する災害派遣医療チーム (DMAT)を育成し更なる救護体制の強化に努め、また、支部主催研修・訓練、ブロック合同訓練、県・市合同訓練参加により救護員の育成に努めた。

第 1 ブロック支部合同災害救護訓練は、毎年第 1 ブロック支部 (北海道・東北) で開催地を持ち回りで行っており、新型コロナウイルスコロナ感染拡大により延期されていたが、5 類に移行したことを受けて 10 月に宮城県支部 (石巻赤十字病院) にて実施された。事前訓練として、9 月の管内施設災害救護訓練で、災害救護時の基礎である知識と技術を確認し、救護班 1 班が参加した。

また、全国赤十字救護班研修を本社ではなく、各ブロックにて実施する方向で、5 年度は本社と第 1 ブロック支部が主催し、石巻赤十字病院にて実施され、救護班 1 班が参加した。

例年、岩手県と盛岡市の総合防災訓練に参加していたが、5 年度はそれに加え、一関市で開催された北上川上流総合水防演習、宮古市で開催された緊急消防援助隊北海道東北ブロック訓練に参加した。

災害対応については、令和 6 年 1 月 1 日 16 時 10 分に、石川県能登地方を震源地とする M7.6、最大震度 7 の地震が発生し、住宅倒壊、住宅火災、地盤災害、津波被害をはじめとした甚大な被害が発生した。発災直後から支部事業推進課職員が参集し、情報収集を行った。1 月 3 日に全国の支部に救護班派遣要請が出され、当支部からも医療救護班 5 班、災害医療コーディネートチーム 2 班、こころのケア班 1 班を派遣し、また支部と管内施設職員が支援要員として帯同し、救護員 57 名を派遣した。

その他、災害発生時に迅速に対応するための救護資機材等の整備に努め、災害時における自助・共助の意識向上と防災・減災を普及するため、地域住民への赤十字防災セミナー等を開催した。

(1) 救護活動

令和 6 年 1 月 1 日～3 月 25 日「令和 6 年能登半島地震災害」 第 1 次救護体制

救護班の派遣

第 1 班【1/10(水)～ 14(日)】能登町にて避難所の巡回診療や衛生環境確認を実施。

第 2 班【1/15(月)～ 19(金)】七尾市、志賀町にて避難所の衛生環境確認や整備を実施。

第 3 班【1/21(日)～ 25(木)】能登町にて、巡回診療や衛生環境確認、整備を実施。

第 4 班【1/30(火)～ 2/3(土)】珠洲市にて、救護所での診療や避難所の巡回診療を実施。

第 5 班【2/13(火)～ 17(土)】能登町にて、避難者のこころのケアや生活不活発病予防を実施。

災害医療コーディネートチームの派遣

第 1 班【1/24(水)～ 30(火)】七尾市能登中部保健医療福祉調整本部 (能登中部保健福祉センター内)

第 2 班【2/19(月)～ 25(日)】七尾市能登中部保健医療福祉調整本部 (能登中部保健福祉センター内)

こころのケア班の派遣

第 1 班【3/18(月)～ 24(日)】七尾市役所にて活動。

(2)救護員育成

① 研修

(単位:人)

主催		訓練の名称	実施日	会場	参加者数
赤十字	支部	救護員としての赤十字 看護師研修 概論	6月13日 6月14日	支部会議室	16名 16名
	支部・病院	災害救護基礎研修 基礎	6月30日	支部会議室・救援セ ンター	14名
	支部・病院	災害救護基礎研修 診療応用	7月21日	支部会議室・救援セ ンター	15名
	ブロック 本社	全国赤十字救護班 研修会	8月19日～20日	宮城県 石巻赤十字病院	13名
	本社	日赤災害医療コーデ ィネート研修	9月23日～24日	本社	1名
	本社	こころのケア指導者 養成研修会	10月11日～12日	本社	1名
	支部・病院	災害救護基礎研修 基礎	11月17日	支部会議室・救援セ ンター	11名
	支部・病院	災害救護基礎研修 診療応用	12月22日	支部会議室・救援セ ンター	14名
	支部	こころのケア要員研修	12月18日	支部会議室	19名
	本社	こころのケア指導者フ ォローアップ研修会	3月6日	WEB	能登地震対 応にて中止
	本社	日赤災害医療コーデ ィネートフォローアップ研修	3月20日	WEB	能登地震対 応にて中止
行政・ 外部	DMAT事 務局	東北ブロック DMAT 技能維持研修	8月7日	仙台国際センター	4名
	岩手医大	岩手 DMAT 隊員養成 研修	10月19日～20日	岩手医大災害時地域医 療支援教育センター	3名
	DMAT事 務局	日本 DMAT 隊員養成 研修	12月5日～7日	アクセス・サッポロ	3名
	DMAT事 務局	日本 DMAT 隊員養成 研修	12月13日～15日	仙台国際センター	1名
	岩手医大	岩手災害医療ロジス ティクス研修	R6年1月16日	岩手医大災害時地域医 療支援教育センター	2名
	DMAT事 務局	東北ブロック DMAT 技能維持研修	R6年2月1日	仙台国際センター	2名
	DMAT事 務局	東北ブロック DMAT 技能維持研修	R6年2月2日	仙台国際センター	3名

② 訓練

(単位:人)

主催	訓練の名称	実施日	会場	参加者数
赤十字	支部	支部職員災害対応訓練	盛岡市 北上川河川敷	35 名
	支部	管内合同災害救護訓練	支部	25 名
	ブロック	第1ブロック支部合同災害救護訓練	宮城県 石巻赤十字病院	10 名
	支部	救護員赤十字看護師研修 災害救護演習	支部	39 名
	支部	救護員主事通信等訓練	支部	
行政・外部	盛岡市	盛岡市総合防災訓練	きたぎんボールパーク いわぎんスタジアム	10 名
	国土交通省	北上川上流総合水防演習	一関市磐井川	8 名
	岩手県	岩手県総合防災訓練	八幡平市柏台小学校	8 名
	岩手県	緊急消防援助隊北海道東 北ブロック総合防災訓練	宮古市磯鶏藤原埠頭	7 名



日赤岩手県支部救護班第1班 1/10 出発式



こころのケア班 ハンドケア実施の様子



避難所で巡回診療の様子



避難所環境整備段ボールベッド設置

令和6年能登地震対応

(3) 救護員の登録・編成状況(令和6年3月31日現在)

① 救護員登録状況

(単位:人)

支部・施設	班数	救護班要員(人)						血液供給要員	本部要員	計
		医師	看護師長	看護師	助産師	主事	薬剤師			
支部	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11
盛岡赤十字病院	8	31	41	127	15	35	17	-	-	266
血液センター	-	-	-	-	-	-	-	6	3	9
日赤鶯鳴荘	-	-	-	-	-	-	-	-	15	15
日赤岩手乳児院	-								1	1
計	8	31	41	127	15	35	17	6	30	302

② こころのケア指導者登録状況(令和6年3月31日現在)

(単位:人)

支部・施設名	指導者登録者数	要員登録者 (指導者除く)
支部	3	5
盛岡赤十字病院	7	147
血液センター	0	1
日赤岩手乳児院	1	0
日赤鶯鳴荘	0	0
計	11	153

(4) 救護資機材の整備状況

近い将来、高い確率で発生が予想されている南海トラフ地震、首都直下地震等の地震災害や近年相次ぐ局地的な豪雨災害等に備え、救護資材等の強化を行った。

① 令和5年度新たに整備・更新

品名	数量	用途
地区分区災害救援車設置	一関市1台 住田町1台	地区分区の事務担当者の業務遂行
エアーテント6×6 エアコン付き	1張	災害時応急救護所他対応(本社財源整備)
除雪機(災害対応用)	1台	災害時救護班派遣時等の除雪作業
災害救護衣(白ベスト)	80枚	災害時救護班着用
災害救護衣(救護員用Tシャツ)	140枚	災害時救護班着用(本社財源整備)
発電機バッテリー(災害対応用)	5台	救護班等の救護所他で使用
血圧計	4台	医療救護対応資機材
非接触式体温計	3機	医療救護対応資機材
救護班用非常食更新		救護班要員の活動のため
無線基地局バッテリー更新		無線の確保
モバイルバッテリー	4機(アダプター2)	



平野事務局長 一関市地区長（佐藤市長）
災害救援車配備



平野事務局長 住田町分区長（神田町長）
災害救援車配備

② 救護装備及び資機材の整備状況

品 名	数 量	品 名	数 量
災害救援車	支部 9台	災害用移動炊飯器	支部 4台
	地区区分 50 台		地区区分 79 台
アマチュア無線局	固定局 1 局	救護服 夏用	105 着
	移動局 3 局	救護服 冬用	120 着
業務用無線局 150MHZ	基地局 1 局	救護服 メッシュタイプ	35 着
	陸上移動局 35 局	救護員用ベスト	90 着
業務用無線局 400MHZ	基地局 1 局	ヘルメット	65 個
	陸上移動局 15 局	雨具	59 着
天幕(組み立て式テント)	8 張	防寒具	68 着
エアーテント(大)	5 張	編上靴	85 足
エアーテント(中)	1 張	救護員用赤 T シャツ	134 着
大型テント(ドラッシュ)	2 張(大・小)	救護員用 T シャツ	140 着
クイックテント	4 張	ノート型パソコン	病院1支部2
自動体外式除細動器 AED	3 台	プロジェクター	1 台
浄水機	2 台	床置スクリーン	1 台
医療セット置台	3 セット	救護員用バッグ	50 個
スクープストレッチャー	2 台	ワンショルダーバッグ	30 個
担架	35 台	ヒップバッグ	30 個
ワンタッチパーテーション	283 台	臨場バインダー	15 個
発電機	21 機	二段式簡易ベッド	6 台
ドラムコードリール	16 巻	医用テレメーター	1 台
投光機(ライトボーイ)	1 機	トリアージシート	1 セット
投光機(dERU 資材)	2 機	自吸式エアー担架	20 個
ノーパンク折畳自転車	2 台	医療セット	3 セット
大型扇風機	5 台	携帯型医療セット	1 セット
ジェットヒーター	6 台	折りたたみ寝台(木製)	78 台

多目的テント	61 台	簡易ベッド(ステンレス製)	25 台
除雪機	3 台	防災ボランティアユニフォーム	20 着
パルスオキシメーター	5 台	防災ボランティアビブス(黄)	300 枚
折り畳み式ホワイトボード	3 台	トイレ用テント	3 張
記録用カメラ	1 台	携帯トイレ	3,000 個
衛星携帯電話	支部 4	トイレキット	3,000 枚
	病院 3	本部用マイクセット	1 台
	血液センター2	救護班用血圧計	6 台
	鶯鳴荘 1	屋内用テント(ひなんルーム)	300 張
災害用 Wi-Fi ルーター	2 台	救護所用パーテーション	6 台
災害用スマートフォン	2 台	タブレット・プロジェクター	各 1 台
現地災害対策本部用プリンタ	2 台	dERU 国内型緊急対応ユニット	1 台
ソーラーパネル 蓄電池	4 台 パネル 8 枚	救護班用拡声器	1 台
救護班車載用プリンタ	1 台	災害用携帯電話 更新	1 台
自動ラップ式トイレ	10 台	災害救護(臨時救護)用バッグ	2 個
応急救護所用石油ストーブ	7台	移動型リチウムイオン蓄電池(大)	2 台
モバイルバッテリー	4機	移動型リチウムイオン蓄電池(小)	3 台



モバイルバッテリー



救護員用 T シャツ



エアーテント (エアコン装備)

(5) 救援物資の整備状況

支部及び地区分区配備の災害救援車の更新、救援物資の整備を行い、水害、火災、雪害等により被災された方々に救援物資等の配布を行った。

① 救援物資の備蓄

救援物資の種類	備蓄数	
	支部	地区分区
毛布	2,260	2,252
緊急セット	654	875
バスタオル	1,629	2,257
タオルケット	1,379	－
安眠セット	1,306	309
ワンタッチパーテーション	283	－
多目的テント	61	－
屋内用テント	300	－
段ボールベッド(楽天イーグルス提供)	99	－



毛布



バスタオル



緊急セット



安眠セット



救援センター内備蓄の様子

② 救援物資の被災者への配布状況と在庫状況(地区区分毎)

地区区分	毛布		緊急セット		バスタオル		タオル ケット	安眠セ ット	救援車	弔慰金 支払金 額
	配布数	在庫数	配布数	在庫数	配布数	在庫数				
盛岡市	8	50	5	23	8	78	0	0	2	20,000
釜石市	4	54	3	44	4	54	0	0	1	0
宮古市	4	240	4	52	4	308	0	0	3	10,000
一関市	7	214	2	124	6	222	0	0	4	10,000
大船渡市	6	150	3	96	6	336	0	0	2	10,000
奥州市	24	342	10	30	24	69	0	0	5	0
花巻市	14	57	5	54	13	60	0	0	3	40,000
北上市	7	18	4	8	7	15	0	6	1	20,000
久慈市	0	282	0	98	0	370	0	198	1	0
遠野市	0	27	0	12	0	27	0	0	1	0
陸前高田市	4	110	1	23	4	66	0	0	1	0
二戸市	2	151	1	35	2	112	0	0	2	10,000
八幡平市	0	19	0	18	0	49	0	0	3	0
滝沢市	6	13	4	4	6	14	0	0	1	0
雫石町	0	3	0	6	0	14	0	0	0	10,000
葛巻町	0	11	0	6	0	10	0	0	0	0
岩手町	3	11	1	11	3	10	0	0	1	0
紫波町	3	8	2	10	3	6	0	0	1	0
矢巾町	0	198	0	6	0	96	0	0	1	0
西和賀町	1	13	0	12	1	21	0	0	2	0
金ヶ崎町	3	15	1	11	3	7	0	0	1	0
平泉町	5	15	0	12	5	26	0	0	1	0
住田町	0	9	0	11	0	9	0	50	2	0
大槌町	0	11	0	12	0	19	0	0	1	0
山田町	2	9	1	47	2	50	0	53	1	0
岩泉町	2	11	1	8	2	11	0	0	1	0
田野畑村	0	0	0	24	0	0	0	0	1	0
洋野町	0	24	0	5	0	18	0	0	2	0
野田村	0	39	0	6	0	29	0	2	1	0
普代村	0	100	0	60	0	100	0	0	1	0
一戸町	0	17	0	6	0	17	0	0	1	10,000
軽米町	0	13	0	6	0	13	0	0	1	0
九戸村	0	18	0	1	0	21	0	0	1	0
小計	107	2,252	50	881	105	2,257	0	309	50	
岩手県支部		2,260		648		1,629	1,379	1,306	8	
合計	107	4,512	50	1,529	105	3,886	1,379	1,615	58	140,000

(6) 防災ボランティア・個人ボランティア養成状況

防災ボランティアは、災害時に救援物資の輸送・配分、炊出し、避難所の支援など赤十字の災害時の支援活動に協力いただける方にボランティア登録をいただき、研修や訓練等を実施している。

5年度は新型コロナウイルスが感染症 5 類に位置付けられたことを受け、基本的な感染予防対策を実施しながら、養成研修・ボランティア研修、災害救護訓練を行った。防災ボランティア(養成)研修は、支部職員の災害対応訓練と同時開催とし、救護班派遣時に帯同し現地にて救護所を設営する訓練を令和 4 年度実施後の課題を改善しながら北上川河川敷にて実施した。連絡網(昨年登録した LINE 登録やメールアドレス)にて参集、現地での救護所の設営、炊き出し等の訓練を実施した。

防災ボランティア支援班については、防災ボランティアの中でも支部の協力依頼に即動いただける方に登録いただいている。盛岡市総合防災訓練、管内合同災害救護訓練、救護員看護師主事訓練に参加し、傷病者搬送や救護所設営等の訓練を行った。

地域の絆ボランティアは、地域奉仕団が無い地域等で、ボランティアをしたいという方々の受け皿として募集し、登録いただいた方を対象に養成研修を実施した。支部主催の研修や訓練、地域包括ケア事業へ参加していただいた他、今年度からは本社が推奨するプロジェクト型活動の研修会に参加し、「ボランティア増強と仲間づくり」を中長期的な目標とし、第 1 段階として絆ボランティアによる活動紹介チラシ作成のための取り組みを開始した。

① 研修・訓練

(単位:人)

主催	訓練の名称	実施日	会場	参加者数
支部	支部職員災害対応訓練、防災ボランティア研修・養成研修	8 月 29 日	盛岡市北上川河川敷	24 名
支部	管内合同災害救護訓練	9 月 22 日	支部	9 名
支部	救護員赤十字看護師研修 災害救護演習	9 月 15 日	支部	6 名
盛岡市	盛岡市総合防災訓練	11 月 18 日	きたぎんボールパーク	2 名
支部	地域の絆ボランティア養成研修	7 月 8 日	支部	5 名
支部	地域の絆ボランティアの集い	8 月 5 日	支部	8 名
本社	プロジェクト型活動研修会(3回)	8 月 5 日 10 月 23 日 R6 年 3 月 18 日	支部 (Web 参加)	延べ 7 名
支部	地域の絆ボランティアプロジェクト型活動ワークショップ	12 月 17 日	支部	4 名
支部	地域の絆ボランティアプロジェクト型活動(第 1 回)	R6 年 2 月 23 日	支部	5 名

② 防災ボランティア登録者数(地域別)

(単位:人)

地域別	リーダー	地区リーダー	ボランティア	合計
盛岡市	1	0	17	18
花巻市	1	0	3	4
矢巾町	0	0	0	1
奥州市	1	0	4	5
一関市	0	0	1	1
大船渡市	0	1	0	1
陸前高田市	0	0	1	1
釜石市	1	2	1	4
八幡平市	1	0	3	4
二戸市	0	0	1	1
宮古市	0	0	4	4
滝沢市	0	0	2	2
大槌町	1	0	2	3
雫石町	0	0	2	2
その他	0	0	1	1
合 計	6	3	43	52

③ 地域の絆ボランティア登録者数(地域別)

地 域 別	個人ボランティア (人)
盛岡市	5
紫波町	2
奥州市	1
花巻市	2
平泉町	1
一関市	1
宮古市	1
合 計	13

(7) 災害義援金の受付状況 (R5 年度岩手県支部取扱い額 義援金名と金額のみ掲載)

岩手県が被災地となる災害は発生しなかったが、全国各地で発生した自然災害により被害を受けた被災地の方々に対する義援金が寄せられた。
(令和 6 年 3 月 31 日現在)

救援金名	金 額
令和 5 年 5 月能登地方地震災害義援金	196, 035円
令和 5 年台風第 2 号等大雨災害義援金	62, 741円
令和 5 年 6 月 30 日からの大雨災害義援金	212, 645円
令和 5 年 7 月 7 日からの大雨災害義援金	334, 547円
令和 5 年台風第 6 号災害義援金	181, 912円
令和 5 年台風第 13 号災害義援金	180, 801円
令和 6 年能登半島地震災害義援金	3, 019, 477円
合 計	4, 188, 158円

(8) 防災・減災の取組

東日本大震災などの過去の災害から学んだ知識や教訓を今後の備えとして、多くの県民に広めるため、地域住民や学校を対象に「赤十字防災セミナー」を開催した。また、その普及のため、防災事業指導者養成を実施し、新たに 33 名の指導者を養成した。

防災セミナーの実施場所と参加者数

(単位:人)

期 日	区分	場 所	内 容	参加者
5/20	共通	県営南青山アパート集会所 「森のテラス」	災害への備え	20
6/26	共通	沢内甚句	災害への備え	10
7/11	共通	飯豊中学校体育館	災害への備え	79
7/24	共通	フタバ平泉	災害への備え DIG	20
7/31	支部	盛岡市立下橋中学校体育館	救援物資組立、設置	340
8/25	共通	岩手町ゆはず交流館	災害への備え	25
9/17	共通	本一町内会公民館	災害への備え	30
10/9	共通	JAいわて中央高松池口店	災害への備え	12
10/13	支部	千貫石温泉湯元東館	災害への備え、HL 講習	15
10/30	共通	盛岡南高校	災害への備え	200
11/10	共通	清温荘	ひなんじょたいけん	14
12/5	共通	東和コミュニティセンター	災害への備え	15
R6.2/7	共通	遠野市附馬牛地区センター	災害への備え	26
R6.2/20	共通	一戸中学校	災害への備え	120
R6.2/22	支部	盛岡医療大学校看護学部	日赤の災害救護対応と HL と救援物資の 使い方	30
R6.3/11	支部	長興寺小学校	おうちのキケン、ハイゼックス炊飯体験	28
赤十字防災セミナー12回 支部独自防災セミナー5回				984

(9) 復興支援活動

平成 31 年 3 月に海外救援金を使用した復興支援事業「ノルディック・ウォーキングとこころのケア」による仮設住宅訪問は終了したが、その後、奉仕団による「ふれあい交流会」として公営住宅等の訪問を年間 15 回から 20 回継続していた。令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が第 5 類に位置付けられたことにより、基本的な感染対策を行いながら実施した。



北上市地区赤十字奉仕団ふれあい交流会

① 奉仕団によるふれあい交流会

実施日	実施場所	内容	参加奉仕団、職員等	住民参加者
10/25	大槌町文化交流センターおしゃっち	ポールを使った体操、ノルディック・ウォーキング、ラジオ体操、踊り、お楽しみ抽選会・ゲーム	花巻市内 4 奉仕団(花巻、大迫、石鳥谷、東和)18名、岩手県ノルディック・ウォーキング奉仕団員 1 名、支部職員 1 名 大槌町担当 1 名	33 名
10/15	陸前高田市脇ノ沢団地集会所	炊き出し(はっと汁) 演舞による交流 じゃんけん大会	一関市川崎奉仕団員 13 名、一関市担当 1 名	35 名
10/21	大槌町赤浜地区(中央公民館赤浜分館)	ひつつみ、炊き込みご飯のお振舞 生活支援講習(健康体操)	遠野市奉仕団 4 名、遠野市有功会員 1 名、遠野市担当 1 名、大槌町奉仕団 10 名、大槌町担当 1 名、支部職員 2 名	200 名
11/15	北上市総合福祉センター	大型紙芝居 踊り 腹話術 南京玉すだれ マジック	北上市奉仕団員 14 名 北上市担当 2 名、支部職員 1 名	北上市在住 9 名

② 総合防災訓練等展示ブース出展

各地区区分区を通じて、総合防災訓練や各種イベントへ展示ブースを出展し、来場者へ赤十字事業や救援物資の紹介、救急法等のミニ講習を実施するなど広報活動を展開した。

実施日	実施場所	内容	ボランティア・職員	来場者
5/21	一関市磐井川	北上川上流総合水防演習での赤十字活動パネル・救援物資展示、ノベルティグッズ・広報誌配付	支部職員3名	約 50 名
9/10	北上市多目的催事場 (北上市総合防災訓練会場)	赤十字活動パネル・救援物資展示、救急法体験、ノベルティグッズ・広報誌配付	支部職員 2 名	約 80 名
11/3	大槌町文化交流センターおしゃっち(大槌町防災フェスタ会場)	災害救助犬のデモンストレーション、救援物資展示、救急法体験、ノベルティグッズ・広報誌配付	安全奉仕団員2名 支部職員1名	約 70 名



防災展の様子

(10) 臨時救護

公的機関等から依頼を受けた全県規模の行事への救護要員の派遣を行い、不慮の事故等による傷病者の救護にあたった。

① 臨時救護派遣場所と派遣人数

(単位:人)

期 日	行事名	場 所	派遣人員	患者数
5/14、21	北上川上流水防訓練	一関市北上川河川敷	2	1
6/2～4	高総体ボート競技	花巻市田瀬湖ボート場	3	0
6/3	岩手県障がい者スポーツ大会	岩手県営運動公園	1	0
6/24～25	卓球東北大会	岩手県営体育館	2	0
7/13～16	東北総合体育大会ボート競技	花巻市田瀬湖ボート場	4	0
7/27～28	JRC リーダーシップ トレーニングセンター	国立岩手山 青少年交流の家	2	2
9/1～3	県高等学校新人戦ボート競技	花巻市田瀬湖ボート場	3	3
11/23	第 82 回一関・盛岡間駅伝競走大会	JR 一ノ関駅前～北上市役所前	3	0

2 救急法等の講習

地域の方々が健康で安全・安心な暮らしを送るために、人命救助の方法と具体的な知識・技術を普及するための救急法、水上安全法、健康生活支援講習、幼児安全法の講習を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、基本的な感染防止対策（健康チェック、マスク着用、手指消毒、人と人との距離を取る）を講じ、一部の実技の方法を変更しながらの実施とした。

（新型コロナウイルス感染症が５類へ移行し、感染対策ガイドラインが廃止となる１０月３１日まで実施した）

(1) 各講習の活動概要

【 救急法 】

日常生活における事故防止の知識と、不慮の事故や急病に対して、医師や救急隊に引き継ぐまでの手当ての方法を指導し、地域での自助共助の意識を高めるもので、赤十字救急法基礎講習と、その一部を短時間で行う短期講習を実施した。

令和５年度は基礎講習、救急員養成講習、短期講習、指導員養成講習を開催した。

① 救急法基礎講習の実施主体と受講者数

（単位：人）

開催日	実施主体	受講数	備考
5/7、6/7、8/31、 3/14	日本赤十字社岩手県支部	74	
4/28	岩手県立大学看護学部	7	
5/16	岩手県警察学校	39	指導員企画
5/26	大原学園	16	
6/17	ざいもくちょう歯科	5	指導員企画
6/18	宮古市地域創生センター うみマチひろば	12	指導員企画
6/19	岩手県警察学校	44	指導員企画
7/8	宮古市地域創生センター うみマチひろば	15	指導員企画
7/25	一関修紅高等学校	12	
8/24	盛岡赤十字病院	9	指導員企画
10/8	宮古市地域創生センター うみマチひろば	5	指導員企画
10/19	岩手県社会福祉協議会	46	
10/27	みちのく・みどり学園	10	
11/13	介護労働安定センター岩手支部	28	
11/29	盛岡ヘアメイク専門学校	18	
11/30	盛岡赤十字病院	2	指導員企画
12/6	盛岡ヘアメイク専門学校	20	
12/13	盛岡ヘアメイク専門学校	17	
12/20	盛岡ヘアメイク専門学校	20	

1/11	北日本医療福祉専門学校	18	
2/1	盛岡赤十字病院	6	指導員企画
2/22	岩手県バス協会	8	
2/28	盛岡医療大学校看護学科	30	指導員企画
3/11	岩手県立盛岡第二高等学校	9	
救急法基礎講習 27 回		470	



救急法講習の様子

② 救急法救急員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
6/8～9 9/1～2 3/15～16	日赤岩手県支部	59	
5/18～20	岩手県警察学校	40	指導員企画
6/20～22	岩手県警察学校	43	指導員企画
8/24～25	盛岡赤十字病院	9	指導員企画
10/21～22	宮古市地域創生センター うみマチひろば	9	指導員企画
11/14～15	介護労働安定センター岩手支部	28	
1/17～18	北日本医療福祉専門学校	17	
2/2～3	盛岡赤十字病院	6	指導員企画
救急法救急員養成講習 10 回		211	

③ 救急法短期講習 依頼先と受講人数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
4/5	八幡平市立安代中学校	12	
4/22	滝沢市体育協会	21	
4/23	滝沢市体育協会	21	
4/26	岩手県警察学校	18	指導員企画
4/29	菊池技研コンサルタント	70	
5/12	盛岡赤十字病院	50	指導員企画
5/17	岩手労働基準協会	40	
5/18	岩手労働基準協会	40	
5/23	岩手県立盛岡青松支援学校	19	

6/1	盛岡市立城南小学校	18	
6/2	一関市千厩赤十字奉仕団	32	
6/2	日赤岩手県支部（JRC 指導者養成）	6	
6/5	雫石町分区	15	
6/8	岩手県立盛岡第二高等学校	30	
6/9	八幡平市立西根第一中学校	89	
6/18	とうわ野鳥の会	20	
6/21	岩手県警察本部運転免許課	40	
6/22	岩手県指定自動車教習所協会	38	
6/22	盛岡赤十字病院	8	指導員企画
6/23	岩手県指定自動車教習所協会	38	
6/23	盛岡赤十字病院	7	指導員企画
6/24	岩手県指定自動車教習所協会	38	
6/27	盛岡赤十字病院	164	指導員企画
6/30	岩手県立一関第二高等学校	3	
7/4	八幡平市立安代中学校	23	
7/5	宮古警察署	14	指導員企画
7/6	宮古警察署	13	指導員企画
7/5	盛岡市立中野小学校 PTA	25	
7/5	有限会社光成工業	91	
7/6	日赤釜石市地区	18	
7/9	盛岡 YMCA	72	
7/10	釜石警察署	9	指導員企画
7/11	釜石警察署	9	指導員企画
7/11	北上市立飯豊中学校	79	
7/12	釜石警察署	9	
7/12	滝沢市立滝沢第二小学校	87	
7/13	釜石警察署	9	
7/13	盛岡市立都南東小学校	17	
7/13	八幡平市立寺田小学校	18	
7/14	釜石警察署	10	
7/16	天理教岩手教務支庁	20	
7/16	日赤一関市地区（社協）	14	
7/18	滝沢市立篠木小学校	17	
7/20	岩手労働基準協会	40	
7/21	岩手労働基準協会	40	
7/24	フタバ平泉	16	
7/25	矢巾町立矢巾北中学校	39	
7/26	滝沢市立鶴飼小学校	30	
7/26	日赤大槌町分区	8	

7/27	日赤岩手県支部（JRC トレセン）	97	
8/4	八幡平市立松尾中学校	11	
8/6	金ヶ崎町分区（金ヶ崎町スポーツ少年団本部）	26	
8/23	盛岡赤十字病院	90	指導員企画
8/24	岩手労働基準協会	40	
8/25	岩手労働基準協会	40	
8/31	一戸町立一戸小学校	12	
9/2	宮古市児童相談所	12	指導員企画
9/8	陸上自衛隊岩手駐屯地	19	指導員企画
9/12	八幡平市立松尾中学校	98	
9/22	滝沢市立滝沢東小学校	88	
9/24	岩手県柔道整復師会	20	
9/25	(株)五藤光学研究所	24	
10/11	(株)メフレ	32	指導員企画
10/12	岩手県警察学校	23	指導員企画
10/14	岩手県営武道館	29	指導員企画
10/17	岩手県社会福祉協議会	56	
10/23	盛岡赤十字病院	104	指導員企画
10/30	岩手県立盛岡南高等学校	220	
11/7	岩手県社会福祉協議会	56	
11/8	岩手県警察学校	15	指導員企画
11/8	北上警察署	12	指導員企画
11/11	岩手県営武道館	63	指導員企画
11/11	滝沢市立柳沢小中学校	30	
11/15	岩手労働基準協会	40	
11/16	岩手労働基準協会	38	
11/23	盛岡市土淵活動センター	15	指導員企画
11/26	ボーイスカウト盛岡地区協議会	17	
11/27	富士大学	38	指導員企画
12/20	盛岡赤十字病院	122	指導員企画
1/17	陸上自衛隊岩手駐屯地	15	指導員企画
1/29	岩手県バス協会	18	
2/2	もなみの会	20	
2/6	岩手県警察学校	20	指導員企画
2/13	釜石警察署	8	指導員企画
2/14	釜石警察署	8	指導員企画
2/15	岩手労働基準協会	38	
2/15	釜石警察署	8	指導員企画
2/16	釜石警察署	8	指導員企画

2/16	岩手労働基準協会	38	
2/16	盛岡赤十字病院	83	指導員企画
2/15	岩手県立北上翔南高等学校	80	
2/16	岩手県立北上翔南高等学校	80	
2/18	いわて森林再生研究会	38	
2/19	岩手県立北上翔南高等学校	40	
2/29	岩手県バス協会	37	
3/7	岩手労働基準協会	40	
3/8	岩手労働基準協会	40	
3/23	(株)いんベクリーニング	21	
短期講習 98 回		3, 691	

④ 救急法 指導員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
事前研修 11/4～5	日本赤十字社岩手県支部	9
本研修 11/25～27 12/1～2		9
事後研修(新任研修)1/13		9
救急法講習 指導員養成講習 1回		9

⑤ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
基礎	27	470	
救急員養成	10	211	
短期講習	98	3,691	
指導員養成	1	9	
計	136	4,381	

【 水上安全法 】

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、応急手当などの知識と技術を指導するもので、令和 5 年度は水上安全法救助員 I 養成講習及び短期講習を実施した。

① 水上安全法短期講習

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
6/20	岩手県スポーツ振興課	9	短期 BLS 含
6/27	八幡平市体育協会	10	短期 BLS 含
6/30	岩手大学附属特別支援学校	33	短期 BLS 含
7/3	日赤雫石町分区	10	短期 BLS 含
8/28	遠野市立上郷小学校	20	着衣
8/29	遠野市立青笹小学校	69	着衣

8/30	遠野市立土淵小学校	30	着衣
9/4	遠野市立遠野小学校	87	着衣
9/7	奥州市立胆沢第一小学校	49	着衣
10/17	タカヤアリーナ	15	短期 BLS 含
短期講習 10 回		332	

② 救助員Ⅰ養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
9/9～11	日赤岩手県支部 (盛岡市総合プール)	7	

③ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
救助員Ⅰ養成	1	7	
救助員Ⅱ養成	—	—	
短期講習	10	332	
指導員Ⅰ養成	—	—	
指導員Ⅱ養成	—	—	
計	11	339	

【 健康生活支援講習 】

健やかな高齢期を過ごすための介護・支援の知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合うボランティアの心を育み、赤十字活動に積極的に参加してもらうことを目的とした講習である。

令和5年度は健康生活支援講習支援員養成講習とその一部を短時間でを行う短期講習を実施した。

① 健康生活支援講習支援員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
7/14～15	日本赤十字社岩手県支部	6
11/2～3	日本赤十字社岩手県支部	5
健康生活支援講習支援員養成講習 2 回		11

② 健康生活支援講習 短期講習 依頼先と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講者数	備考
5/25	住田町分区	50	
7/19	大船渡市赤十字奉仕団(WEB 開催)	6	
7/25	一関市花泉赤十字奉仕団	50	身近な赤十字説明訪問研修会
8/1	二戸市赤十字奉仕団	30	
8/17	陸前高田市赤十字奉仕団	9	身近な赤十字説明訪問研修会
8/23	盛岡市地区有功会	20	
8/30	一関市東山赤十字奉仕団	35	身近な赤十字説明訪問研修会
9/30	盛岡赤十字桐花会	40	

10/7	金ヶ崎町赤十字奉仕団	20	身近な赤十字 奉仕団サロン
10/9	盛岡市赤十字奉仕団	12	身近な赤十字 奉仕団サロン
10/18	金ヶ崎町赤十字奉仕団	15	身近な赤十字 奉仕団サロン
10/21	遠野市赤十字奉仕団	30	ふれあい交流会
11/11	矢巾町社会福祉協議会	14	
11/13	介護労働安定センター岩手支部	28	
11/21	花巻市地区有功会	18	
11/30	一関市室根赤十字奉仕団	14	身近な赤十字説明訪問研修会
1/30	奥州市地区	18	
2/6	矢巾町分区	60	身近な赤十字説明訪問研修会
2/7	花巻市赤十字奉仕団	19	
2/8	釜石市地区	20	身近な赤十字説明訪問研修会
3/21	二戸市地区	16	身近な赤十字説明訪問研修会
短期講習 21 回		524	

③ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
支援員養成	2	11	
短期講習	21	524	
指導員養成	—	—	
計	23	535	



健康生活支援講習の様子

【 幼児安全法講習 】

幼児期に起こりやすい事故の予防及び手当ての実際、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術指導を目的とした講習を実施するもので、令和5年度は幼児安全法支援員養成講習とその一部を短時間で行う短期講習を実施するとともに、4年ぶりに指導員養成講習を開催した。

① 幼児安全法 支援員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
6/3～4	日本赤十字社岩手県支部	16
8/29～30	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	18
10/13～14	日本赤十字社岩手県支部	5
幼児安全法 支援員養成講習 3 回		39

② 幼児安全法短期講習 依頼先と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講者数	備考
4/3、4、6、8、10、11、13	天昌寺保育園	32	指導員企画
5/29	二戸市地区	9	
6/1	ぎんがの里保育園	11	
6/2、6	巣子保育園	26	
6/5	日赤岩手乳児院	11	指導員企画
6/8～9	盛岡市ファミリーサポートセンター	23	
6/10	ふうりん保育園	19	
6/12	矢巾町ファミリーサポートセンター	10	
6/15	手代森保育園	16	
6/16	花巻市ファミリーサポートセンター	4	
6/20、23	久昌寺保育園	27	
6/22	乙部保育園	14	
6/22	岩手町立水堀保育所	22	
6/26、28	南巣子保育園	32	
6/27	釜石市地区	11	
6/29	本宮保育園	14	
7/5～7	ニチイキッズ北上むらさきの保育園	20	指導員企画
7/11	滝沢市ファミリーサポートセンター	8	
7/13、20	くりやがわ保育園	26	
7/20	小佐野保育園	9	
7/22、29、8/5	虹の保育園	41	
7/25	盛南ひまわり保育園	14	
7/25～26	宮古泉学園・宮古泉幼稚園	19	指導員企画
7/27	あづま幼稚園	10	
8/22	ふじなでしここども園	26	
8/31	釜石市立上中島こども園	10	
9/13	釜石市地域福祉部子ども課	17	
9/16	鵜飼保育園	23	
9/19	見前保育園	21	
9/21	日赤岩手乳児院	3	
9/25	二戸市地区	5	
10/4	盛岡市ファミリーサポートセンター	7	
10/11	JRC こども赤十字	6	
10/28	いわて生協宮古コープ西町コープ委員会	12	
10/31、11/9	元村保育園	36	
11/6、14	川前保育園	22	
11/8	いわて生協	7	
11/24、27	日赤岩手乳児院	10	指導員企画

12/2	宮古市社会福祉協議会	9	
12/4、6	きたくり保育園	23	
12/5	滝沢市ファミリーサポートセンター	5	
12/11	二戸市地区	6	
12/12～13	大沢保育園	15	
12/16	宮古市ファミリーサポートセンター	10	
1/16、2/20	盛岡日赤院内保育所	10	
1/24～25	聖光こども園	23	
1/26	滝沢市ファミリーサポートセンター	6	
1/31、2/5	西山保育園	18	
2/14	矢巾親和会ふどうこども園	8	
R6.2.21	釜石市地区	7	
R6.2.28	いわて生協	8	
R6.3.7	盛岡市中央公民館	10	
短期講習 76 回		793	

③ 幼児安全法 指導員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
事前研修 12/3	日本赤十字社岩手県支部	6
本研修 1/26～28、2/3～4		5
事後研修(新任研修)3/2～3		4
幼児安全法 指導員養成講習 1回		4



幼児安全法講習の様子

④ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
支援員養成	3	39	
短期講習	76	793	
指導員養成	1	4	
計	80	836	

【 各種講習の指導員在籍状況 】 (令和6年3月31日現在)

(単位:人)

所 属	救急法	水上安全法	健康生活支援	幼児安全法	雪上安全法
支 部	8	1	3	4	1
赤 十 字 病 院	15	0	7	9	0
血 液 センター	4	1	0	0	0
乳 児 院	1	1	0	1	0
日 赤 鶯 鳴 荘	0	0	0	0	0
ボランティア	64	12	12	21	0
合 計	92	15	22	35	1

【 指導員研修 】

(単位:人)

種別	開催日	参加者数
救急法指導員研修	2023.6.11、7.2	77
水上安全法指導員研修	2023.5.21	11
健康生活支援講習指導員研修	2023.5.27	21
幼児安全法指導員研修	2023.5.27	26



指導員研修の様子

3 赤十字奉仕団、ボランティア活動

1) 地域包括ケア推進事業

(1) 目的

地域包括ケアシステムの構築を支援するため、市と岩手県支部、盛岡赤十字病院が相互に連携し、特定の災害公営住宅等において一定期間事業を展開することによって、居住者等地域住民の健康で安全な生活の確保及び地域コミュニティの活性化等に寄与する。

(2) 活動内容

【宮古市での活動】

奇数月 第4金曜日 13:30～2時間程度

協力:宮古市社会福祉協議会、宮古市赤十字奉仕団、赤十字ノルディックウォーキング奉仕団

明治安田生命、地域の絆ボランティア

【陸前高田市での活動】

偶数月 第3火曜日 10:00～1時間程度

協力:陸前高田市地域包括支援センター、陸前高田市地域赤十字奉仕団

赤十字ノルディックウォーキング奉仕団、明治安田生命、地域の絆ボランティア

【これまでに実施した主な内容】

- ・ 健康チェック(ベジチェック、血管年齢測定)→明治安田生命提供
- ・ 赤十字講習(ロコモティブシンドローム予防体操)
- ・ ストレッチ、ノルディックウォーキング
- ・ 管理栄養士講話、言語聴覚士講話、薬剤師講話
- ・ 室内ミニゲーム
- ・ クリスマスリース作り



2) 赤十字奉仕団、ボランティア活動概要

(1) 活動内容(地域・青年赤十字奉仕団)

【会員増強】

活動資金募集のための訪問活動、資材準備の手伝い、広報誌等発送作業などを行った。

【災害救護・防災】

炊き出し指導・訓練・研修、防災セミナー受講、義援金募集などを行った。

【福祉】

- ・ 老人・児童等福祉老人施設訪問、子ども食堂参加、障がい者病棟における衣類補修などを行った。
- ・ 身近な赤十字推進モデル奉仕団活動(盛岡市、遠野市、花巻市花巻地区、金ケ崎町、大槌町)

地域住民対象のサロンを開催し、健康生活支援講習受講、災害食の紹介、季節の行事にちなんだ飾りづくりを行った。また、地域住民とともに救急法講習や防災セミナーの受講、ノルディックウォーキングの体験

を行った。

【献血推進運動・講習普及運動】

献血推進ショッピングセンター・スーパーなどの街頭献血における協力呼びかけ、講習普及、各種講習への参加を行った。

【その他】

赤十字奉仕団ふれあい交流会(災害復興支援活動)開催

東日本大震災被災市町村を奉仕団が訪問し、歌や踊り、じゃんけんゲーム等のコミュニケーションツール、炊き出しにより地域住民と交流を深めた。



身近な赤十字推進モデル奉仕団活動の様子

(2) 奉仕団等編成、人数等

① 奉仕団種別数及び合計団員数

種 別	団 数	団 員 数(人)		
		男	女	計
地域赤十字奉仕団	32 団	207	847	1,054
青年赤十字奉仕団	3 団	22	60	82
特殊赤十字奉仕団	14 団	462	93	555
合 計	49 団	691	1,000	1,691

② 地域赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名称	委 員 長	団 員 数			活動内容					
		男	女	計	会員増強	災害救護・防災	老人・児童等福祉	献血推進	講習普及	その他
盛岡市赤十字奉仕団	柴 崎 一 恵	5	24	29	○		○			○
宮古市赤十字奉仕団	金 丸 久 子	3	23	26			○			
大船渡市赤十字奉仕団	中 村 和 司	7	18	25	○	○		○		○
花巻市花巻地区赤十字奉仕団	木 村 博	3	14	17	○		○	○		○
花巻市大迫地区赤十字奉仕団	佐々木 偉 夫	5	14	19				○		○
花巻市石鳥谷地区赤十字奉仕団	南 館 唱 子	0	24	24				○		○
花巻市東和地区赤十字奉仕団	小 田 肇	8	8	16			○			○

北上市赤十字奉仕団	菅 原 洋 子	0	22	22		○				○
久慈市赤十字奉仕団	畑 村 由 夫	9	16	25		○		○		
遠野市赤十字奉仕団	海 老 糸 子	0	39	39		○		○		○
一関市一関赤十字奉仕団	吉 川 眞理子	6	72	78	○		○	○	○	○
一関市花泉赤十字奉仕団	佐 藤 みさ子	20	32	52	○			○		○
一関市大東赤十字奉仕団	増 沢 純	5	33	38	○	○		○		○
一関市千厩赤十字奉仕団	五 嶋 秋 子	20	61	81	○		○	○		○
一関市東山赤十字奉仕団	佐 藤 千賀子	0	73	73		○	○			○
一関市室根赤十字奉仕団	小 山 友 子	0	25	25	○					○
一関市川崎赤十字奉仕団	三 浦 千代子	5	14	19		○		○		○
陸前高田市赤十字奉仕団	菅 野 トシ子	2	11	13				○		
釜石市赤十字奉仕団	中 川 カヨ子	0	15	15		○	○	○		○
二戸市赤十字奉仕団	田 口 和 子	12	36	48	○			○		
八幡平市赤十字奉仕団	佐々木 幸 雄	19	23	42				○		○
奥州市水沢赤十字奉仕団	菅 原 宏 幸	1	0	1				○		
雫石町赤十字奉仕団	中 川 眞理子	0	46	46		○		○		○
矢巾町赤十字奉仕団	川 原 久 子	13	57	70						○
西和賀町赤十字奉仕団	照 井 満	29	45	74		○				
金ヶ崎町赤十字奉仕団	氏 家 富士子	8	34	42		○	○	○		
大槌町赤十字奉仕団	(欠)	0	20	20		○				○
岩泉町赤十字奉仕団	志 和 謙 一	13	17	30						
田野畑村赤十字奉仕団	上 村 牧 子	0	12	12		○				○
野田村赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0						
洋野町赤十字奉仕団	猪 石 悦 男	5	6	11	○		○	○		
九戸村赤十字奉仕団	若 山 秀 一	9	13	22	○	○	○			
計 32団		207	847	1,054						

③ 青年赤十字奉仕団

(単位:人)

奉 仕 団 名	委 員 長	団 員 数			活 動 内 容					
		男	女	計	会員増強	災害救護・防災	老人・児童等福祉	献血推進	講習普及	その他
岩手大学学生赤十字奉仕団	阿部 光希	5	4	9				○		
イーハトーブ学生赤十字奉仕団	荒井 こころ	2	17	19				○		
岩手県立大学宮古短期大学部赤十字奉仕団	佐々木 妃由里	15	39	54				○		
計 3団		22	60	82						

④ 特殊赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名称	委員長	団員数			主な活動内容
		男	女	計	
岩手県アマチュア無線赤十字奉仕団	中村 昌司	17	0	17	無線設備点検、通信訓練
岩手県水上安全法赤十字奉仕団	(欠)	14	2	16	水上安全法講習会指導協力
岩手県赤十字安全奉仕団	木村 博	44	58	102	救急法、幼児安全法、健康生活支援講習の講習会指導協力
岩手県青少年赤十字賛助奉仕団	小向 和秀	72	9	81	JRC 加盟校登録式へのメッセージ送付、JRC 指導者育成協力
日赤釜石市地区赤十字安全奉仕団	佐々 隆裕	4	5	9	救急法講習会指導協力
久慈ライフセービング赤十字奉仕団	久慈 剛史	18	1	19	着衣泳指導、海水浴場監視
胆沢スキーパトロール赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0	
むろね山岳赤十字奉仕団	小山 一成	14	0	14	山開き行事参加
大船渡ライフセービング赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0	
岩手県赤十字バイク奉仕団	田中 清也	104	3	107	災害を想定した走行訓練
岩手県赤十字ライフセービング赤十字奉仕団	伊藤 真悟	10	6	16	海水浴場監視
山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団	上野 祐一	11	4	15	通信訓練、炊き出し勉強会、防災訓練
岩手県柔道整復師会赤十字奉仕団	阿部 納	149	2	151	スポーツ競技大会における救護員派遣
岩手県ノルディック・ウォーキング赤十字奉仕団	太田 正孝	5	3	8	ノルディックウォーキング活用による健康生活支援活動
計 14 団		462	93	555	

⑤ モデル赤十字奉仕団

令和 3 年度指定 釜石市赤十字奉仕団
 令和 4 年度指定 久慈市赤十字奉仕団
 令和 5 年度指定 九戸村赤十字奉仕団

(3)会議、研修、訓練

① 本社主催

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
赤十字奉仕団中央委員会	6/1～2	日本赤十字社 本社	中央委員会常任委員の改選について、各ブロック委員長会議の報告について、日赤の防災教材について、テーマに沿った活動事例の紹介 など	支部委員会委員長 中村 和司
赤十字奉仕団支部指導講師研修会	R6 1/26～28	日本赤十字社 本社	プレゼンテーションを学ぶ、研修の考え方・手法、「赤十字」の講座展開、「ボランティアと奉仕団」の講座展開、「グループ・リーダーシップ」の講座展開 など	花巻市花巻地区 木村 博 釜石市 千葉 裕子

② ブロック主催、ブロック内支部主催

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
赤十字奉仕団第 1 ブロック委員長会議	10/3～4	日本赤十字社 青森県支部	各支部から提出の協議・照会事項について議論	支部委員会委員長 中村 和司
赤十字奉仕団リーダーシップ研修(秋田県)	10/26～27	秋田温泉さとみ	「地域包括ケアシステムへの貢献」について、「赤十字奉仕団活動について考える」、グループワーク「自分たちが、今出来ること」 など	花巻市花巻地区 安部 たか子 高橋 佳代子 一関市千厩 五嶋 秋子 金ケ崎町 氏家 富士子 鈴木 田鶴子

③ 支部主催

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
赤十字奉仕団リーダーシップ研修	11/9～10	清温荘	講演「奉仕団活動の活性化に向けて」(本社青少年・ボランティア課長)、グループワーク「地域包括ケア推進に向けた奉仕団活動」、防災セミナー「ひなんじょたいけん」 など	地域・特殊奉仕団員 17 名 指導講師 高橋 新悦
赤十字奉仕団岩手県支部委員会	R6 3/6	ホテルメトロポリタン盛岡 NEWWING	令和 6 年度指定モデル奉仕団について、今後の「モデル奉仕団」指定の考え方について、支部委員からのリーダーシップ研修参加について、支部職員と赤十字ボランティアによる被災者支援活動の実施について など	支部委員会 委員 11 名

赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議	R6 3/6	ホテルメトロポリ タン盛岡 NEWWING	令和 5 年度中央委員会等報告、令和 5 年度支部事業報告及び令和 5 年度事業計画、モデル奉仕団活動報告、「地域包括ケアへの貢献」について講演（秋田県支部職員） など	奉仕団委員長 28 名 事務担当者 16 名
-------------------	-----------	-----------------------------	--	---------------------------

4 青少年赤十字

将来を担う青少年が赤十字の精神を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、学校教育活動の中で青少年赤十字の活動を促進した。特に令和5年度は新規として「赤十字インターンシップ」及び「赤十字親子サマースクール」事業を開催し、参加者から好評を博した。トレセンも4年ぶりに宿泊を伴う日程で開催し、児童生徒・スタッフ等を合わせて128名の参加を得、多くの成果を挙げた。指導スタッフの不足が数年来の懸念材料だったが、令和5年度は若手の参加が増えた。

青少年赤十字事業内容

(1) 本社主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月30日	日赤本社	全国指導者協議会の副会長である泉澤会長（下橋中）が、全体会で本県JRC活動の報告を行い、各県参加者によるグループワークでは進行役を務めた。	青少年赤十字岩手県指導者協議会 会長 泉澤 毅
青少年赤十字 スタディー・センター	3月22日 ～ 3月26日	東照館 (山梨県 河口湖町)	国際的な課題について全国の高校生が参集して協議等を行った。特に気候変動をテーマとするプログラムが多く、重要課題に位置づいていることを実感する5日間となった。	盛岡第二高等学校 1年 岡田 琴さん 花巻南高校 2年 佐々木咲徠さん



全国指導者協議会で報告する泉澤会長



スタディー・センターにて全国の仲間たちと共に



全体場で自己紹介をする本県高校生

(2) ブロック主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
第1ブロック青少年赤十字高校生交流会	9月30日 ～ 10月1日	福島県 福島市	福島県支部主催の事業として2回目を迎えた。第1ブロックの高校生が参集し、各県の活動を交流した。また、国際人道法をいかに普及するかについて議論を深めた。	・盛岡二高 1年 五十嵐有紀 1年 岡田 琴 ・花巻南高 2年 釜本和奏 2年 君山稀愛来
第1ブロック青少年赤十字指導者研究会	10月3日 ～ 10月4日	秋田県 秋田市	秋田県支部が主催。学校教育において青少年赤十字をいかに活用するかを主題に、討議や情報交流等が活発になされた。	・盛岡市立中野小学校 細川浩史 教諭

(3) 支部主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
岩手県青少年赤十字 指導者研修会	6月2日	日本赤十字社 岩手県支部	今年度は若手教員の参加が目立ち、向学心を持って参加される様子が見られた。トレセンスタッフとしての参加意欲もあり、今後の指導者として期待を抱かせるものであった。一方で、学級経営や生徒指導といった現代的な課題について悩む様子も見られた。	小学校教員－2名 中学校教員－4名
リーダーシップ・ トレーニング・ センター	7月27日 ～28日	国立岩手山青 少年交流の家	国立岩手山青少年の家において4年ぶりに宿泊を伴う日程で開催された。参加者も百名を超え、非常に活気に満ちた2日間となった。3日間のプログラムを圧縮して実施したが、児童や生徒の反応は良く、成長が感じられた。参加者の地域に偏りがあり、改善が必要である。	小学生－67名 中学生－15名 高校生－10名 指導スタッフ－18名
こども赤十字 活動研究会	10月11日	岩手県赤十字 血液センター	盛岡地区での開催となり、血液センターを会場とした。ふじなでしこども園の先生からの話題提供を皮切りに、幼児教育の諸問題について情報交換がなされた。	保育教諭等6名
赤十字 インターンシップ	6月24日 7月1日 7月15日	日本赤十字社 岩手県支部	新規事業。高校生を対象とする職場体験である。多くの参加希望があり、3回に日程を分けて実施した。参加した高校生から大変好評であったことから、赤十字について広く周知を図る好機としても有効と思われた。	参加者22名
赤十字 親子サマースクール	8月6日	日本赤十字社 岩手県支部	新規事業。小学生親子を対象とした体験型イベントである。赤十字に触れる機会としてだけでなく、親子の触れ合いの場としても意味ある時間とすることが出来た。	参加者5組10名



トレセン:フィールドワークで山歩き



インターンシップ:非常食づくりに挑戦



親子サマースクール:救護服で敬礼!

(4) 研究推進指定校

指定年度	学 校 名	研 究 主 題
令和4年～5年度	盛岡市立仙北小学校	豊かな心をもち 自らを切り拓く児童の育成 ～ 思いやりの輪を広げる、児童主体の日常における教育活動を通して ～
令和5年～6年度	八幡平市立西根中学校	「やさしさ」や「思いやり」の心で社会に貢献する生徒の育成 ～地域に根ざしたJRC活動の推進～
令和2年～4年度	専修大学北上高等学校	地域に貢献する委員会活動を目指して

令和5年度 青少年赤十字加盟状況

☆新規加盟校

※令和6年3月31日現在

地区区分	校数	メンバー数	校 種	校数	メンバー数	加 盟 校(園・所)				
盛岡市	57	12,064	幼稚園	2	23	太田好摩				
			こども園	5	276	盛岡水道橋くるみ	なでしこ	都南	☆天昌寺	
			保育所	11	456	くりやがわ	見前手代森	乙部	あべたて	
						太田さくらがおか	☆ぎんがの里	☆くろいし	☆青山	
						きたくり				
			小学校	27	8,844	青山太田	太田東	河北	厨川	
						好摩桜城	山王	渋民	城南	
						仙北大慈寺	月が丘	手代森	都南東	
						杜陵中野	東松園	松園	北松園	
						緑が丘見前	見前南	向中野	本宮	
			中学校	6	1,730	山岸玉山				
						下橋城東	仙北	見前	米内	
						玉山				
			高等学校	3	672	岩手女子	盛岡第二	盛岡南		
釜石市	2	303	特別支援	3	63	盛岡聴覚支援	盛岡青松	岩大附属特別支援		
			小学校	1	287	小佐野				
宮古市	2	235	高等学校	1	16	釜石商工				
			中学校	1	31	重茂				
一関市	4	235	こども園	2	59	千厩小羊	花泉			
			中学校	1	150	☆藤沢				
			高等学校	1	26	一関第二				
大船渡市	16	1,852	こども園	2	106	あかさき	末崎			
			保育所	1	23	明和				
			小学校	8	1,103	猪川大船渡	大船渡北	盛	立根	
						末崎吉浜	綾里			
			中学校	3	602	大船渡第一中	末崎			
奥州市	9	864	高等学校	2	18	大船渡	大船渡高定時制			
			こども園	3	75	駒形	稲瀬わかば	もみじ		
			保育所	3	61	江刺南	田原	玉里		
花巻市	6	559	高等学校	3	728	岩谷堂	前沢	水沢		
			中学校	3	531	大迫	花巻北	矢沢		
北上市	10	820	高等学校	3	28	大迫	花巻東	花巻南		
			保育所	6	462	江釣子大通り	口内	鳩岡崎	二子	
						南				
						和賀東	☆飯豊			
久慈市	2	472	高等学校	2	57	北上翔南	専大北上			
			小学校	1	63	大川目				
遠野市	14	1,535	中学校	1	409	久慈				
			小学校	11	959	青笹綾織	小友	上郷	附馬牛	
						土淵遠野	遠野北	宮守	鱒沢	
						達曾部				
陸前高田市	6	315	中学校	3	576	遠野	遠野西	遠野東		
			保育所	2	98	小友	気仙			
			小学校	3	213	小友	竹駒	広田		
二戸市	9	1,492	高等学校	1	4	高田				
			小学校	6	961	石切所	金田一	浄法寺	中央	仁左平
						福岡				
八幡平市	16	1,480	中学校	3	531	浄法寺	福岡	金田一		
			保育所	1	15	畑保育園				
			小学校	10	885	安代	大更	柏台	平館	田山
						寺田	田頭	平笠	松野	寄木
八幡平市	16	1,480	中学校	4	448	安代	西根	西根第一	松尾	
			高等学校	1	132	☆平館				

地区区分	校数	メンバー数	校 種	校数	メンバー数	加 盟 校(園・所)				
滝 沢 市	26	5,476	幼 稚 園	1	209	つばめ				
			こども園	1	238	ふじなでしこ				
			保 育 所	9	274	巣 子 南 巣 子 大 沢 ふうりん 元 村 鶴 飼 一本 木 柳 沢 ☆ 川 前				
			小 学 校	9	3,120	一本 木 鶴 飼 篠 木 滝 沢 滝 沢 第二 滝 沢 中央 滝 沢 東 柳 沢 姥 屋 敷				
			中 学 校	6	1,635	滝 沢 第二 滝 沢 滝 沢 南 柳 沢 姥 屋 敷 一本 木				
雫 石 町	2	373	小 学 校	2	373	御 所 雫 石				
葛 巻 町	7	243	小 学 校	4	151	葛 巻 江 川 小 屋 瀬 五 日 市				
			中 学 校	3	92	葛 巻 江 川 小 屋 瀬				
岩 手 町	4	556	小 学 校	3	423	一 方 井 川 口 沼 宮 内				
			中 学 校	1	133	沼 宮 内				
紫 波 町	2	741	こども園	1	125	あ づ ま				
			中 学 校	1	616	紫 波 第一				
矢 巾 町	15	2,526	こども園	5	280	矢 巾 中央 ふ ど う や は ば こ ず か た 北 高 田				
			保 育 所	3	100	北 川 煙 山 徳 田				
			小 学 校	4	1,402	煙 山 徳 田 不 動 矢 巾 東				
			中 学 校	2	704	矢 巾 矢 巾 北				
			高 等 学 校	1	40	不 来 方				
住 田 町	2	136	小 学 校	2	136	有 住 世 田 米				
山 田 町	1	298	中 学 校	1	298	山 田				
岩 泉 町	1	84	中 学 校	1	84	岩 泉				
一 戸 町	3	367	小 学 校	2	202	小 鳥 谷 一 戸				
			中 学 校	1	165	一 戸				
軽 米 町	2	344	小 学 校	1	169	軽 米				
			中 学 校	1	175	軽 米				
九 戸 村	2	147	小 学 校	1	29	長 興 寺				
			中 学 校	1	118	九 戸				

総 計	220	33,517	幼 稚 園	3	232
			こども園	19	1,159
			保 育 所	36	1,489
			小 学 校	96	19,524
			中 学 校	45	9,329
			高 等 学 校	18	1,721
			特 別 支 援	3	63

【市町村ごとの加盟の状況】

-  加盟校・園とにもない市町村
-  小中学校のほとんどが加盟している市町村
-  1校(園)～半数程度が加盟している市町村

＜加盟学校を有していない町村＞

・平泉町 ・金ヶ崎町 ・大槌町 ・洋野町 ・西和賀町
・野田村 ・普代村 ・田野畑村

＜新規加盟校・園＞

・一関市立藤沢中学校
・株式会社ぎんがの里ぎんがの里保育園
・社会福祉法人天昌寺福祉会天昌寺保育園
・社会福祉法人岩手同胞援護会くろいしの保育園、青山保育園

＜活動再開校＞

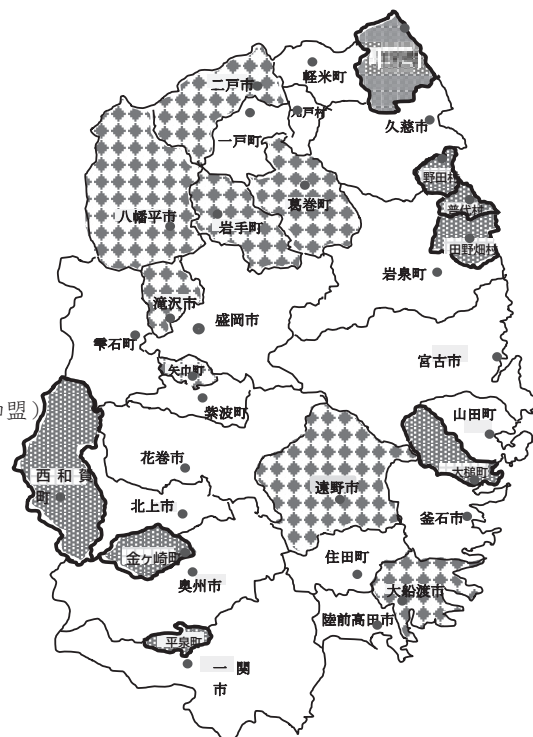
・学校法人岩手キリスト教学園きたくり保育園（経営者変更後、再加盟）

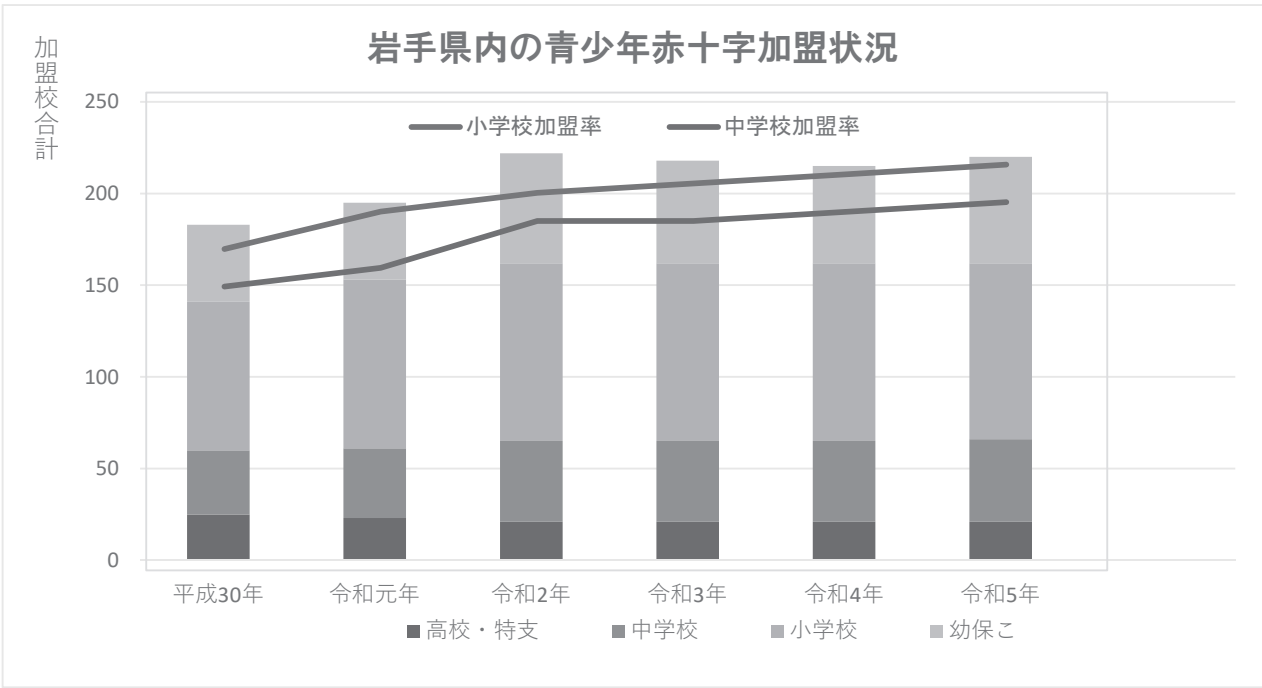
＜加盟辞退園＞（統合等による辞退）

・奥州市立江刺南保育所（R6.3.31閉所）

＜学校事情による脱退校＞

・紫波町立日詰小学校





※全権的に園児・児童・生徒の数が減少傾向にあり、メンバー数の伸び悩みの一因となっている。
 ※加盟率の変遷を見ると、緩やかな増加傾向が続いている。

一円玉募金(青少年赤十字活動資金)協力校

合 計 308, 373円 (令和6年3月25日現在)

保育所・幼稚園	小学校		中学校	高等学校・支援学校
ふじなでしこども園	河北小学校	陸前高田市立小友小	九戸中学校	前沢高等学校
千厩小羊幼稚園こひつじ園	仙北小学校	遠野北小学校	紫波第一中学校	釜石商工高等学校
あかさきこども園	一本木小学校	中野小学校	久慈中学校	盛岡青松支援学校
大通り保育園	向中野小学校	緑が丘小学校	米内中学校	盛岡聴覚支援学校
二子保育園	滝沢中央小学校	沼宮内小学校	姥屋敷小中学校	
口内保育園	本宮小学校	不動小学校	軽米中学校	
南保育園	長興寺小学校	青笹小学校		
江釣子保育園	柳沢小中学校			
鳩岡崎保育園	小屋瀬小学校			
都南幼稚園	滝沢第二小学校			
気仙保育所	徳田小学校			
盛岡市立好摩幼稚園	田頭小学校			
川前保育園	江刈小学校			
	広田小学校			
13	21		6	4

今年度は、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」への支援活動に取り組んだ学校が多かった。3月末現在、当支部が参列の要請を受けた義援金贈呈式は36を数え、うち23校が青少年赤十字加盟校である。
 募金活動に取り組んだ児童や生徒が、異口同音に「東日本大震災で多くの支援を受けた恩返しとして」と語る様子が印象的だった。

**青少年赤十字
海外支援事業**

青少年赤十字の実践目標の一つ「国際理解・親善」の一環として、青少年赤十字メンバーが集めた青少年赤十字活動資金（通称「一円玉募金」）を財源として実施される海外の対象国への支援事業。
 令和2年度からネパールとバヌアツへの支援が行われており、当面は継続される見通しである。

※ゴシックは複数回寄付をいただいた学校

5 国際活動

今日の国際情勢をみると、依然として、戦争や民族・宗教等の対立による武力紛争が生じており、多くの難民や避難民が発生している。また、気候の変動や環境破壊が及ぼす自然災害による被災者も多く発生している。

このような国際情勢に迅速に対応するため、日本赤十字社では人道危機に対する緊急救援から復旧・再建、開発協力までの中・長期的な取り組みを展開している。

本県支部としても、毎年NHKと共催で実施している「NHK海外たすけあい」の募金や海外救援金の募金を受け付け、また、支部国際活動参加事業に活動資金支援や指導員派遣などの支援を行っている。

(1) 全社の活動概要

① 令和5年度支部国際活動参加事業

	事業対象国	事業名
1	バングラデシュ	保健医療支援事業
2	ラオス	救急法普及支援事業
3	バヌアツ	青少年赤十字海外支援事業
4	インドネシア	コミュニティ防災強化事業
5	レバノン	プライマリーヘルス・スケールアップ事業
6	アジア・大洋州	給水・衛生災害対応キット整備事業
7	南スーダン共和国	紛争犠牲者支援事業
8	東アフリカ	地域保健強化事業
9	南部アフリカ	感染症対策事業
10	ルワンダ	気候変動等レジリエンス強化事業
11	アフガニスタン	気候変動対策事業

② 令和5年度 当支部負担額

令和5年度支部国際活動参加事業のうち、「救急法普及支援事業」「青少年赤十字海外支援事業」「気候変動等レジリエンス強化事業」「気候変動対策事業」について、第1ブロック支部として600万円(各県支部社資実績額に応じて按分)の支援を行った。

国名	支援事業	支援金額	備考
ラオス	救急法普及支援事業	1,500,000 円	
バヌアツ	青少年赤十字海外支援事業	1,500,000 円	
ルワンダ	気候変動等レジリエンス強化事業	1,500,000 円	
アフガニスタン	気候変動対策事業	1,500,000 円	
合 計		6,000,000 円	

■救急法普及支援事業

ラオスは、医療水準は近隣諸国と比べても極めて低い状況である。2015 年時点の人口 1,000 人当たりの医師数は 0.272 人であり、世界平均の 1.804 人を大きく下回っている。地域住民が自分たちで応急手当を実施できるようにすることが非常に重要となる。日赤は、2019 年 10 月からラオス赤が行う救急法普及事業に対して、財政支援や資機材整備支援等をはじめ、指導者のスキルアップのための技術指導の支援等を行っている。

■青少年赤十字海外支援事業

バヌアツは、自然災害リスクの最も高い国 (World Risk Repot 2021) で、オーストラリアの北東に位置する島国で 83 の島からなり、面積は新潟県とほぼ同じ大きさ、人口は 30 万人である。

バヌアツ赤十字社(以下、バヌアツ赤)は防災への意識が高いことから、日赤は 2017 年度から支援を行っている。この防災教育事業に関してバヌアツ赤とバヌアツ教育研修省との連携も積極的に行われている。

■ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業

ルワンダ赤十字社と連携し、気候変動の影響と考えられる災害、感染症や貧困などの社会課題に対し、住民が課題に取り組む「モデルビレッジアプローチ」を普及させ、レジリエンスを強化させるため、財政支援を行った。

■アフガニスタン気候変動対策事業

アフガニスタン赤新月社が主体となって行う、気候変動による自然災害へ対応するための「村落や学校での防災・減災活動」、「生活支援活動」に対し、財政支援を行った。



ワールドファーストエイドデーイベント
で応急手当を学ぶ学生◎ラオス赤



ワールドファーストエイドデーイベント
で心肺蘇生を実演する指導員◎ラオス赤

(2)海外救援金等受付状況（令和5年度実績 岩手県支部扱い分のみ掲載）

①NHK海外たすけあい

NHK と協働して実施する募金キャンペーンで、昭和 58 年から毎年 12 月に継続して実施している。世界各地での紛争、災害、病気に苦しんでいる人びとを支援する活動に役立てられている。

救援金名	受付期間	件 数	金 額
NHK海外たすけあい	R5.12.1～R5.12.25	635 件	691,437 円



令和5年度
NHK 海外たすけあいポスター



NHK 海外たすけあい 2023募金受付会場
NHK 盛岡放送局内の様子

②2023 年海外救援金（令和5年度岩手県支部取扱い額 救援金名と金額のみ掲載）

絶え間なく起こる災害や紛争—それらは人びとの尊い命や財産を一瞬にして奪い去ります。

世界の各地で自然災害や武力紛争等による被害が発生しており、被災者の状況は一層深刻なものになっています。こうした状況の中で苦しむ人々のために、日本赤十字社と世界の赤十字・赤新月社が行う緊急支援や開発協力活動の資金として、救援金は活用されています。

救援金名	金 額
ウクライナ人道危機救援金	164, 691円
2023 年トルコ・シリア地震救援金	2, 027, 677円
2023 年アメリカ・ハワイ火災救援金	45, 883円
2023 年モロッコ地震救援金	34, 000円
2023 年リビア洪水救援金	22, 000円
2023 年アフガニスタン地震救援金	40, 114円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	31, 149円
無指定海外救援金	10, 000円
合 計	2, 375, 514円

6 医療事業、血液事業、社会福祉事業

(1) 医療事業

令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症が新型インフルエンザ等感染症から5類感染症に移行したことに伴い、当院でも新型コロナウイルス感染症への対応の縮小を行い、令和5年9月末を以って入院受入病棟を閉鎖した。新型コロナウイルス感染症蔓延時の病院受診控えの影響もあり、入院患者数が前年度比14.2%減少、外来患者数が前年度比12.3%の減少と経営に深刻な影響を与えた。しかしながら盛岡医療圏における中核の公的病院として、また『地域医療支援病院』として、地域の医療・介護・福祉機関との連携を強化、救急患者受入れにも対応し、患者中心の医療を実践した。

1月1日に発生した能登半島地震においては、10日に第1班の医療救護班を派遣したのを始めとし、3月末までに医療救護班（5班）、災害医療コーディネートチーム（2チーム）、こころのケア班（1班）を派遣し、被害を受けた珠洲市、能登町、七尾市等において災害救護活動を行った。

患者に信頼される医療の提供については、9月に赤十字講習会等の開催を通して地域住民の命と健康を守り、自助・共助の意識の醸成及び地域コミュニティの活性化を目的とした、地域包括ケアの推進に関する協定書を宮古市・陸前高田市・岩手県支部・当院の三者共同で締結した。また同月に外来機能の明確化・連携強化による患者の流れの円滑化を目的とした紹介受診重点医療機関の指定を受け、外来患者の待ち時間短縮、患者のスムーズな検査・治療を行う体制を整備した。

安全で良質な医療の提供については、ここ数年、医療機関へのサイバー攻撃によって電子カルテの閲覧・利用が出来なくなる事案が発生していることから、厚生労働省から医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策の取組みを強化するよう通達があり、当院に関連する事業者へのサイバーセキュリティ対策状況の確認を行った。

令和5年度の経営収支は、入院患者数が大幅に減少したことで医業収益が前年度比1,214百万円減少し、医業収支は1,253百万円、収支差引額は863百万円の赤字と5期ぶりに赤字決算となった。令和6年度は4月から3テスラMRI装置の稼働を予定していることから、地域連携の強化および救急患者受け入れによる収入確保と材料費等の医業経費全般の見直しによる健全経営に努める。また、引き続き岩手医科大学附属病院との連携強化と環境変化に応じた病院運営体制を構築し経営基盤の強化を継続する。



（能登半島地震第1班出発式）



（地域包括ケア協定書締結式）

年度別患者数調べ

()内は一日平均

区 分 科 別 年度	入 院 患 者 数			外 来 患 者 数			外来新患延べ数(再掲)			健康診断受診数		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総合診療科	(6.2) 2,251	(3.9) 1,428	(4.5) 1,664	(15.7) 3,788	(14.0) 3,409	(13.3) 3,225	(1.2) 282	(0.7) 173	(1.1) 276			
精神科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(14.4) 648	(10.3) 472	(1.8) 438	(0.1) 3	(0.1) 3	(0.0) 1			
脳神経内科	(5.8) 2,128	(6.1) 2,211	(4.6) 1,675	(12.5) 3,026	(12.7) 3,097	(11.5) 2,772	(0.9) 226	(0.9) 223	(0.9) 206			
血液内科	(33.1) 12,070	(34.8) 12,710	(32.8) 11,989	(18.3) 4,429	(20.1) 4,882	(17.7) 4,282	(1.1) 259	(1.2) 294	(1.0) 242			
呼吸器内科	(4.6) 1,674	(4.8) 1,764	(5.0) 1,820	(9.2) 1,310	(9.8) 1,447	(4.5) 1,099	(1.5) 209	(1.8) 265	(1.4) 206			
消化器内科	(17.2) 6,292	(18.7) 6,837	(15.5) 5,666	(34.6) 8,375	(32.4) 7,869	(28.6) 6,916	(5.8) 1,414	(5.9) 1,424	(4.8) 1,168			
循環器内科	(12.7) 4,633	(13.2) 4,819	(13.6) 4,969	(27.3) 6,606	(27.3) 6,640	(25.5) 6,181	(2.1) 506	(2.3) 566	(1.7) 416			
小児科	(14.5) 5,278	(11.5) 4,212	(11.8) 4,331	(34.1) 8,256	(35.0) 8,497	(27.8) 6,738	(7.8) 1,882	(8.5) 2,063	(7.6) 1,841	(4.4) 1,068	(4.3) 1,058	(3.9) 939
外科	(20.8) 7,609	(18.3) 6,678	(13.5) 4,938	(37.9) 9,183	(38.3) 9,304	(30.7) 7,432	(2.8) 681	(3.1) 764	(2.3) 549	(2.5) 602	(2.7) 651	(2.6) 637
小児外科	(0.3) 115	(0.2) 73	(0.2) 72	(7.2) 351	(6.7) 329	(1.4) 331	(2.3) 111	(1.7) 83	(2.4) 114			
整形外科	(33.1) 12,077	(27.7) 10,125	(23.1) 8,469	(43.5) 8,398	(38.5) 7,594	(27.6) 6,683	(4.8) 1,136	(5.1) 1,009	(5.4) 1,036			
脳神経外科	(11.0) 4,003	(10.3) 3,746	(9.5) 3,475	(15.8) 3,728	(20.1) 4,880	(12.5) 3,035	(2.8) 681	(4.8) 1,172	(2.6) 630	(0.8) 196	(0.8) 183	(0.8) 196
皮膚科	(0.3) 209	(0.8) 292	(0.5) 169	(26.5) 6,409	(25.5) 6,200	(22.3) 5,401	(1.8) 441	(1.7) 401	(1.6) 379			
泌尿器科	(12.5) 4,576	(11.3) 4,125	(12.8) 4,677	(67.1) 16,245	(66.3) 16,119	(62.7) 15,169	(3.1) 758	(2.7) 655	(2.9) 692			
産婦人科	(32.1) 11,728	(28.1) 10,271	(24.8) 9,084	(89.2) 21,583	(89.2) 21,679	(83.3) 20,168	(6.8) 1,644	(6.2) 1,499	(5.5) 1,329	(3.2) 776	(2.9) 711	(2.9) 693
眼科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 15	(8.0) 1,422	(9.5) 1,843	(7.6) 1,838	(0.5) 86	(0.3) 67	(0.4) 70			
耳鼻咽喉科	(3.4) 1,245	(3.0) 1,108	(3.9) 1,443	(15.2) 3,667	(17.5) 4,255	(11.3) 2,739	(3.0) 727	(4.5) 1,084	(2.8) 678			
放射線科	(0.0) 9	(0.3) 123	(0.1) 24	(44.3) 10,713	(41.7) 10,133	(38.9) 9,419	(2.1) 517	(1.9) 456	(2.0) 493			
麻酔科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(5.1) 500	(5.6) 548	(2.3) 564	(0.1) 10	(0.2) 19	(0.2) 19			
リハビリテーション科	(0.0) 0	(0.0) 9	(0.0) 0	(13.2) 3,170	(10.0) 2,430	(10.0) 2,411	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0			
緩和ケア科	(13.6) 4,965	(9.9) 3,612	(13.5) 4,936	(1.2) 174	(1.1) 169	(0.5) 109	(0.4) 53	(0.3) 42	(0.2) 33			
健 診 部										(6.1) 1,485	(5.8) 1,427	(5.4) 1,318
合 計	(221.5) 80,862	(203.1) 74,143	(189.7) 69,416	(504.1) 121,981	(501.2) 121,796	(441.9) 106,950	(48.0) 11,626	(50.5) 12,262	(42.9) 10,378	(17.0) 4,127	(16.5) 4,030	(15.6) 3,783

健診部業務内容年度別実績表

健診部活動	(単位:人)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
子宮がん検診	受診者数	776	711	693
	要精検者数	93	68	55
	精検受診者数	33	27	34
	がん発見者数	0	0	0
乳がん・甲状腺がん検診	受診者数	602	651	637
	要精検者数	67	68	44
	精検受診者数	35	43	23
	がん発見者数	0	0	1
1泊人間ドック	受診者数	277	286	344
	要精検者数	125	116	147
	がん発見者数	1	1	2
1日人間ドック	受診者数	290	284	264
	要精検者数	126	117	116
	がん発見者数	2	3	0
脳ドック	受診者数	196	183	196
	要精検者数	60	70	47
成人病健診(協会けんぽ)	受診者数	734	691	671
	要精検者数	94	198	174
	がん発見者数	2	0	1
一般健康診断 職域健康診断	受診者数	468	459	389
	がん発見者数	0	0	0
肺がんCT検診	受診者数	0	0	0
	がん発見者数	0	0	0
集団健診(学校等)	受診者数	3,260	3,922	4,022
乳児健診(受診券)	受診者数	1,061	1,058	939
妊産婦健診(受診券)	受診者数	3,793	4,013	3,088
肺がん検診(喀痰検査)	受診者数	547	547	579
	要精検者数	0	0	0

医療社会事業部業務内容実績表

(令和5年度 相談援護関係実施状況)

1 入退院支援部門の人員配置

社会福祉士	実人員	4	人
	換算人員	4	人
看護師	実人員	6	人
	換算人員	5.4	人

2 相談救護関係の実施状況

区分			実件数
取扱件数	年度実件数		2,037
	継続実件数		65
	新規実件数	入院	1,596
		外来	441
年度延件数	年度延件数		8,625
新規ケース の紹介経路	医師		29
	看護職		1,848
	リハビリ職		0
	その他院内職員		20
	本人		22
	家族・親戚縁者		26
	院外関係機関		149
	近隣者・知人		1
	医療チーム		0
	ソーシャルワーカー		7
介入の時期	受診前		19
	外 来		304
	入院前		52
	入院中		1,694
	その他		33
社会的背景	独居		227
	経済困窮		46
	家族疎遠・身寄りなし		36
	ハイリスク妊産婦		6
	精神疾患		50
	認知症		162
	家庭内暴力・虐待		10
	自殺企図		1
	無保険		1
	身元不明		0
	ホームレス		0
	外国人		0
相談担当者 職種および 人数	MSW(再掲:社会福祉士)		4
	精神保健福祉士(PSW)		0
	看護師		3
	その他		0

区分			実件数	延件数
援助内容	受診・受療		359	537
	経済的問題		21	80
	制度活用		227	368
	入院療養生活		27	39
	退院支援		1,688	5,773
	在宅療養・介護		210	435
	医療者との関係		8	12
	家族関係		25	82
	日常生活		48	99
	就労・就学		12	24
	身元保証・権利擁護		9	31
	死後対応		7	17
	その他		21	30
援助方法	面談	本人	776	
		家族	978	
		友人・知人	2	
	電話	本人	38	
		家族	821	
		友人・知人	1	
	訪問	家庭	3	
		その他	0	
	同行・同伴・代行		8	
	連絡調整・院内		3,863	
	連絡調整・院外:面会		160	
	連絡調整・院外:電話		4,453	
	連絡調整・院外:その他		1,160	
	カンファレンス (院内職種のみ)		560	
	カンファレンス (院外職種含む)		36	
チーム医療	合同カンファレンス (院内職種のみ)		16	
	合同カンファレンス (院外職種含む)		36	
	退院支援チーム		2,461	
	認知症ケアチーム		52	
	患者サポートチーム		1	
	リエゾンチーム		0	
	緩和ケアチーム		157	
	虐待対応チーム		136	
	倫理コンサルテーションチーム		1	
	その他		0	

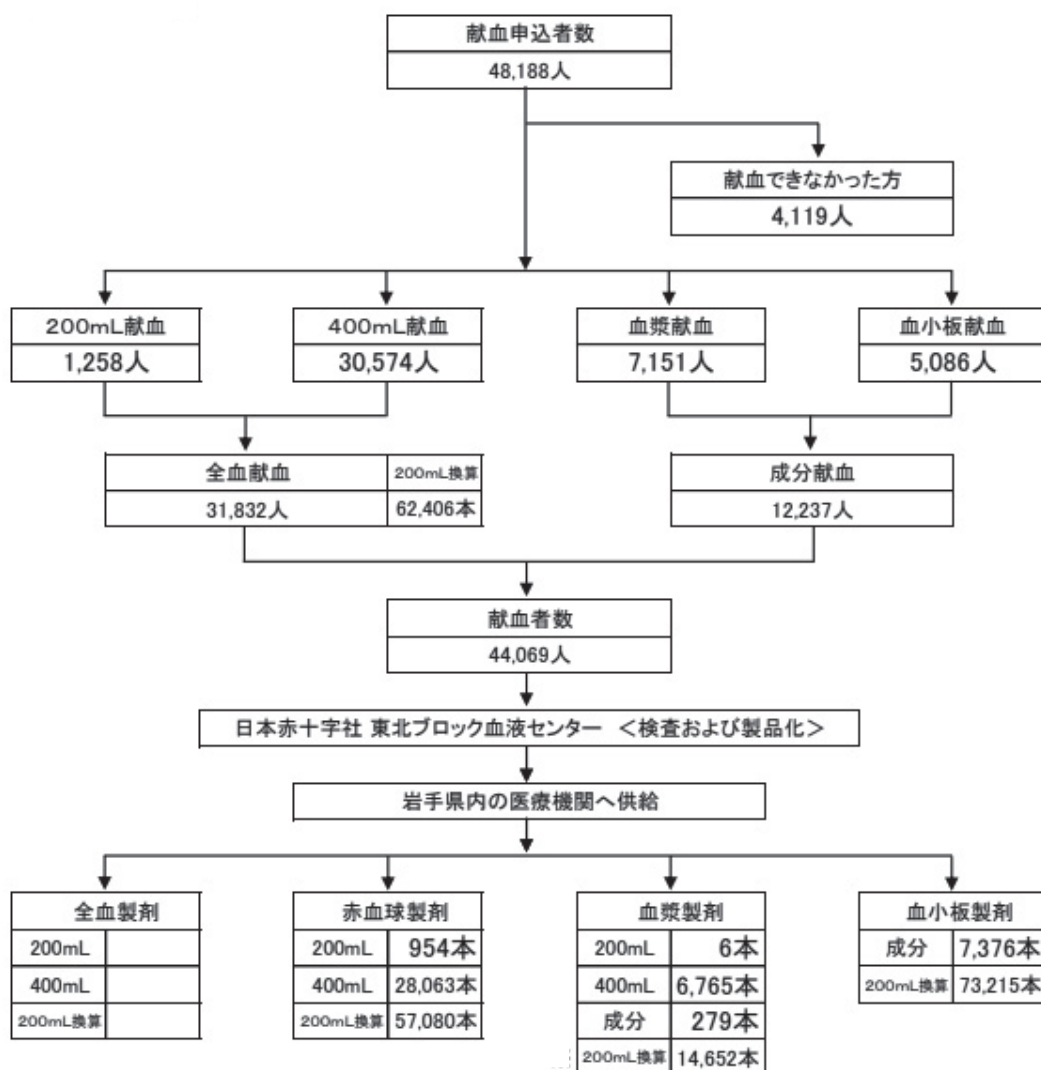
(2) 血液事業

日本赤十字社は病気やけがで苦しみ、血液製剤を必要としている方の尊い命を救うため需要に応じた献血血液を安定的に確保し、安全性・品質向上に取り組み、献血者の皆様の思いをお届けするという使命を担い、血液事業に取り組んでいる。

令和5年度の県内における血液事業の状況

医療機関の需要に見合った血液の確保に努め、令和5年度は、全血献血 31,832 人（前年度比 104.1%）、成分献血 12,237 人（前年度比 97.7%）、合計 44,069 人（前年度比 102.2%）の方々から献血のご協力をいただいた。

また、全血献血の 400mL 献血率は 96.0%と目標（97.1%）を下回ったものの、医療機関が必要とする輸血用血液製剤は、安定して供給することができた。



① 献血協力者への新たなアプローチ

ア 輸血を必要とする患者さんへ安定的に輸血用血液製剤をお届けできるよう、継続的に献血に協力いただける方を募集するため、令和4年度から献血 Web 会員サービス「ラブラッド」に、スマホアプリが導入され、献血の事前予約、事前問診回答、血液検査の確認、会員特典（献血してためたポイントでオリジナル記念品と交換できる他、イベントやキャンペーン情報を案内）などについて県民に周知を行い、登録者を増やすことにより献血予約率向上に取り組んだ。

イ 効果的に献血協力依頼を行う仕組みの確立

日々の必要献血者数を予約によって事前に確保できる体制を整えることを目指していく。令和5年度は、全国の予約率は70%が目標であった。当センターは、年度を通じての予約率は63.8%で目標を達成できなかったが、令和4年度（51.6%）と比較して大幅に向上した。

② 献血思想の普及啓発

ア 献血キャンペーンの実施

広く県民に対し献血思想の普及啓発を図り、献血血液による血液製剤の医療機関への安定供給を図るため、県、市町村、血液センターが相互に連携し、また、医療機関での需要が増加している 400mL 及び成分献血由来の血液を確保することを目的に各種献血キャンペーンを実施した。

キャンペーン内容	期間	期間中の献血者数（人）			
		成分	400mL	200mL	合計
愛の血液助け合い運動 	R5. 7. 1～7. 31	1, 012	2, 433	86	3, 531

クリスマス献血キャンペーン 	R5. 12. 2～12. 25	854	1, 214	57	2, 125
はたちの献血キャンペーン 	R6. 1. 1～2. 29	2113	5, 319	175	7, 607
バレンタイン献血キャンペーン 	R6. 2. 3～2. 14	483	1, 144	39	1, 666

イ 若年層を対象とした普及啓発

(ア) 小学生への普及啓発

例年開催していた「親と子の血液センター見学会」は、新型コロナウイルス感染症拡大などの影響を鑑み、当面、今後の開催を見送ることとした。

(イ) 高校生への普及啓発

高校生対象の献血セミナーは、8校の生徒を対象に実施した（日赤岩手県支部主催の赤十字インターンシップでの複数校の生徒の参加を含む）。

また、文化祭等におけるパネル展示は2校で実施した。高校献血については、延べ16校で実施し252名から献血協力をいただいた。

ウ 献血会場の告知

新聞、ラジオにおいて翌日又は当日の献血会場の告知を行い、また、市町村広報誌、血液センターホームページで当月の告知を行った。

新聞	・(株) 岩手日報社 ・(株) 東海新報社 ・(株) 盛岡タイムス社
ラジオ	・(株) I B C 岩手放送 ・(株) ラヂオもりおか ・特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク ・えふえむ花巻 (株) ・奥州エフエム放送 (株) ・一関コミュニティFM (株)
その他	・各市町村の広報誌 ・血液センターホームページ

エ 報道各社への献血啓発依頼

本社作成の献血啓発CMを、民放テレビ局（４社）、民放ラジオ局（６社）において冬期間を中心に放送していただいた。また、NHK盛岡放送局においては、毎週金曜日に献血情報の放送をしていただいた。

テレビ	・(株) I B C 岩手放送 ・(株) 岩手朝日テレビ ・(株) 岩手めんこいテレビ ・(株) テレビ岩手
ラジオ	・NHK盛岡放送局 ・(株) I B C 岩手放送 ・(株) エフエム岩手 ・(株) ラヂオもりおか ・えふえむ花巻 (株) ・奥州エフエム放送 (株) ・宮古エフエム放送 (株)

オ 各種リーフレットを活用した献血推進と健康啓発

血液センターで作成した各種パンフレットを献血者や各企業に配布し、健康増進や献血推進に活用した。(献血リピーターブック、団体献血パンフレットは岩手県で作成)



③ 成分献血・400mL 献血の推進

輸血を必要とする患者さんに対する輸血リスクの軽減を図るため、輸血用血液製剤の高単位化が求められていることから、血小板成分献血・400mL 献血の推進を行っている。

[献血種別献血状況]

区分		献血者数（人）		対前年度比	
		令和5年度	令和4年度	人数（人）	率（%）
全血	200mL	1,258	1,267	△9	99.3
	400mL	30,574	29,318	1,256	104.3
成分	血 漿	7,151	8,291	△1,140	86.3
	血 小 板	5,086	4,228	858	120.3
合 計		44,069	43,104	965	102.2

※献血ルーム 365 日開設、移動採血 653 稼働（前年度 648 稼働）

④ 複数回献血協力確保事業の普及

献血バス及び献血ルームにおいては、メールや LINE 及びハガキで献血の依頼を行った。また、予約状況によっては、電話依頼をするなど協力者の確保を行った。

令和4年に Web 会員サービスの「ラブラッド」にスマホアプリが導入され、献血の WEB 予約を働きかけるとともに、予約による献血者の利便性向上に努めた。

※複数回献血クラブ「ラブラッド」会員数（令和6年3月末時点）

22,104 人（うちアプリ会員数 10,082 人） *エラー会員を除く

⑤ ボランティアの育成と活動

献血制度の啓発や献血ボランティア団体の育成（研修）について参集して開催した。

各種ボランティア団体等の献血研修会

団 体 名	開催日	場 所	参加人数 （人）
東北ブロック内血液センター 学生献血奉仕団	4/29	Web 会議	1
	6/24～6/25	東北ブロック血液センター	1
	10/15	Web 会議	1
	3/23～3/24	イオンモール名取（宮城県）	2
北上市赤十字奉仕団	10/13	日赤岩手県支部	12
久慈市赤十字奉仕団	12/8	久慈市総合福祉センター	8

各種献血キャンペーン参加団体

キャンペーン名	実施期間	協力団体
クリスマス献血 キャンペーン	R5. 12. 2～12. 25	大船渡ライオンズクラブ 大船渡五葉ライオンズクラブ 大船渡赤十字奉仕団 前沢ライオンズクラブ 岩手県立前沢高等学校 一関ライオンズクラブ 一関修紅高等学校 釜石ライオンズクラブ 釜石リアスライオンズクラブ 釜石レオクラブ 釜石市赤十字奉仕団 江釣子ライオンズクラブ 岩手県立北上翔南高等学校 北上市赤十字奉仕団 花巻東ライオンズクラブ 花巻市花巻地区赤十字奉仕団 北上ライオンズクラブ 和賀ライオンズクラブ 北上国見ライオンズクラブ 北上ロータリークラブ 北上西ロータリークラブ 北上和賀ロータリークラブ 盛岡南ライオンズクラブ イーハートーブ学生赤十字奉仕団 盛岡市保健推進員協議会 盛岡不来方ライオンズクラブ 岩手教区献血たすけあいの会 岩手女子高等学校 JRC 部
バレンタイン献血 キャンペーン	R6. 2. 3～2. 14	花巻ライオンズクラブ 花巻市花巻地区赤十字奉仕団 一関中央ライオンズクラブ

		陸中宮古ライオンズクラブ 二戸ライオンズクラブ 二戸市赤十字奉仕団 釜石市赤十字奉仕団 盛岡中津川ライオンズクラブ 岩手教区献血たすけあいの会 金ケ崎ライオンズクラブ 金ケ崎町赤十字奉仕団 江釣子ライオンズクラブ 陸前高田ライオンズクラブ 盛岡市保健推進員協議会
--	--	---

⑦ 医薬情報活動充実・強化

各医療機関へは、訪問、メール、オンラインツールなど状況に応じ効率的に使い分け、情報提供、遡及調査、苦情品調査報告を行い、電話での問い合わせにも対応した。

県内主要医療機関の院内輸血療法委員会には、可能な限り出席し情報収集に努めた。

12 月には県内の医療機関に勤める輸血検査を担当する臨床検査技師を対象としオンラインツール（zoom）による研修会を行った。内容は岩手県赤十字血液センター学術情報・供給課中村課長による「輸血副作用について」、東北ブロック血液センター伊藤品質副部長による「DAT 陽性時の解釈と自己抗体吸着による同種抗体の鑑別」の講演を行った。参加者は 45 名と想定数を上回り、研修会終了後のアンケートでは「勉強になった、オンラインの開催がよかった」など良好な回答が多かった。次年度以降も続けたい。

岩手県合同輸血療法委員会は 5 年ぶりに参集形式で開催され活発な意見交換が行われた。

活動件数

	令和 5 年度		令和 4 年度	
	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
検査技師	410	77.5	378	81.8
医師	58	11.0	44	9.5
薬剤師	32	6.0	24	5.2
看護師	21	4.0	12	2.6
事務	5	0.9	3	0.7
その他	3	0.6	1	0.2
合計	529		462	

活動内容

	令和 5 年度		令和 4 年度	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
情報収集	359	23.1	46	7.7
遡及調査	278	17.9	97	16.3
情報提供	231	14.9	143	24.1
院内輸血療法委員会参加	131	8.4	36	6.1
配送支援	130	8.4	63	10.6
WEB 発注システム	123	7.9	57	9.6
使用動向情報の入手	110	7.1	2	0.3
問い合わせ処理	58	3.7	53	8.9
副作用処理	42	2.7	38	6.4
依頼検査関連	41	2.6	28	4.7
説明会・研修会等	8	0.5	7	1.2
苦情対応	6	0.4	10	1.7
血液事業広報	2	0.1	4	0.7
合同輸血療法委員会関連	2	0.1	0	0.0
技術協力	2	0.1	0	0.0
回収処理	1	0.1	1	0.2
その他活動	27	1.7	9	1.5
合 計	1,551		594	

※複数項目にまたがる活動もあることから、活動内容の合計は活動件数の合計より多い。

また、令和 5 年度は一度の活動で複数項目活動した内容が多い。

⑧ 輸血用血液の医療機関への供給状況

安全性の高い血液を安定的に医療機関に供給するため、平成 24 年度から新たに実施している血液事業広域事業運営体制（全国 7 ブロックでの運営体制）により、北上地区以南・沿岸南部・西和賀地区医療圏は奥州供給出張所から、県北医療圏（二戸・久慈地区）は青森県赤十字血液センター八戸出張所からの供給体制を整えたことによって迅速な供給が可能となり、令和 5 年度は岩手県内 97 の医療機関に下図のとおり血液製剤の供給を行った。

令和 5 年度事業モニタリングでは、目標とする定時発注率の達成と Web 発注率が掲げられ、令和 5 年度の定時発注率は目標値 80%に対して 87.0%、Web による発注率は目標値 80%に対して 98.9%となり、目標値を達成する事ができた。

血液センターの供給地域

令和 5 年度供給数

赤血球 17,414 本
(県内供給数の 60.0%)
血 漿 5,435 本
(県内供給数の 77.1%)
血小板 5,410 本
(県内供給数の 73.3%)

八戸センターの供給地域

(二戸・久慈地区)

令和 5 年度供給数

赤血球 1,664 本
(県内供給数の 5.7%)
血 漿 98 本
(県内供給数の 1.4%)
血小板 51 本
(県内供給数の 0.7%)

令和 5 年度岩手県内供給数

赤血球 29,017 本
(前年度比 97.5%)
血 漿 7,050 本
(前年度比 95.1%)
血小板 7,376 本
(前年度比 96.7%)



奥州供給出張所の供給地域

(県南・沿岸南部地区)

令和 5 年度供給数

赤血球 9,939 本
(県内供給数の 34.3%)
血 漿 1,517 本
(県内供給数の 21.5%)
血小板 1,915 本
(県内供給数の 26.0%)

輸血用血液の岩手県内供給状況 (単位:本)

区 分	供給数		比較増減	
	令和 5 年度	令和 4 年度	本数	前年度対比
全 血	0	0	—	—
赤血球	29,017	29,759	△742	97.5%
血 漿	7,050	7,413	△363	95.1%
血小板	7,376	7,628	△252	96.7%

合 計	43, 443	44, 800	△1, 357	97. 0%
-----	---------	---------	---------	--------

⑨ 献血表彰

献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる実績を示した献血推進団体及び献血団体に対して、厚生労働大臣表彰等の贈呈を行った。

【厚生労働大臣表彰状：2団体】

団 体 名	所在地
医療法人社団松誠会 滝沢中央病院	滝沢市
盛岡中央高等学校	盛岡市

【厚生労働大臣感謝状：8団体】

団 体 名	所在地
株式会社ヤマデン岩手工場・岩手営業所	奥州市
花巻市消防本部	花巻市
岩手県宮古警察署	宮古市
岩手県土地改良事業団体連合会	盛岡市
株式会社ミスズ工業 岩手工場	北上市
株式会社 照甲組	花巻市
紫波ライオンズクラブ	紫波町
イオンモール株式会社 イオンモール盛岡	盛岡市

【知事及び日赤岩手県支部長感謝状：11団体】

団 体 名	所在地
UBE 三菱セメント株式会社 岩手工場	一関市
岩手トヨペット株式会社 本社	盛岡市
岩手県警察本部	盛岡市
株式会社ジャパンセミコンダクター	北上市
岩手県岩泉警察署	岩泉町
東北運輸局岩手運輸支局	矢巾町
東北労働金庫岩手県本部	盛岡市
岩手女子高等学校	盛岡市
えふえむ花巻株式会社	花巻市
イオンタウン株式会社 イオンタウン北上	北上市
一般財団法人盛岡地区勤労者共同福祉センター	矢巾町

⑩ 骨髄ドナー登録事業

法に基づく造血幹細胞提供支援機関である日本赤十字社の事業所として、次の指定業務を行った。

○ドナー登録手続き（献血併行型ドナー登録会も含む）

骨髄登録者の状況

	岩 手 県		全 国	
	登録者数(人)	対前年度比(%)	登録者数(人)	対前年度比(%)
令和元年度末	3,191	100.3	529,965	104.1
令和2年度末	3,171	99.4	530,953	100.2
令和3年度末	3,174	100.1	537,820	101.3
令和4年度末	3,084	97.2	544,305	101.2
令和5年度末	3,069	99.5	544,123	101.2

※令和5年度新規登録 1人 161人

(3) 社会福祉事業

①日赤岩手乳児院

令和5年度の乳児入退所状況は、入所6名、退所6名で、年度末在籍は13名であった。入所理由は虐待が3名、養育困難3名であった。退所理由は、家庭引取が2名、養護施設等への措置変更が2名、里親委託2名であった。参考までに、昭和9年創設以来の総養育乳児数は1,993名となっている。

近年、少子化や核家族化、離婚増加など子どもを取り巻く環境が大きく変化し、社会的養護を必要とする子どもが増加傾向にある中、当院では全クラスの小規模グループケアを実施するとともに、家庭的な養育を目的とした担当養育制を実施している。

医師、看護師、心理士、保育士、栄養士といった職員を配置し、高い養育機能を保持するとともに、よりきめ細かな養育を必要とする病虚弱児童も積極的に受け入れている。

児童虐待やDV（ドメスティックバイオレンス：保護者や交際相手からの暴力）などにより、乳幼児の養育とともに保護者への支援も重要であることから、家庭支援専門相談員を中心に児童相談所と密接に連携を行い、家族への相談援助を行っている。

また、入所児のより家庭的な生活を実現するための里親制度への支援として、里親支援専門相談員による里親同士や里親と職員との交流を実施し、マッチングへの支援とともに専門機関との連携に努めている。

さらに、地域貢献として、市町村からの「子育て短期支援事業」の受託や保護者・家族を対象とした「もぐもぐ食育体験教室」の実施、個人や赤十字有功会などボランティアとの活動や看護師・保育士を目指す学生の実習の受け入れなど、地域に貢献する施設として専門機能の提供に努めている。



花壇で種まき

ア 日赤岩手乳児院入退所状況

(単位：人)

児童相談所 (市町村名)	4年度末現在					入 所 児					退 所 児					5年度末現在				
	男		女		計	男		女		計	男		女		計	男		女		計
	措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時	
福祉総合相談センター	6		3		9	1	9	2	4	16	1	9	1	3	14	6		4	1	11
盛岡市	2		1		3			2	2	4				2	2	2		3		5
花巻市	1				1											1				1
北上市	1				1	1	1		2	4	1	1		1	3	1			1	2
紫波町			1		1								1		1					
洋野町	1		1		2											1		1		2
宮古市	1				1											1				1
							8			8		8			8					
一関児童相談所	1		2	2	5		1	2	2	5		2	3	1	6	1		1	2	4
奥州市			1	1	2				1	1		1	1		2				1	1
一関市								1	1	2								1	1	2
平泉町	1		1	1	3			1		1			2	1	3	1				1
他県							1			1		1			1					
宮古児童相談所	1	1			2	1				1	1	1			2	1				1
宮古市		1			1	1				1		1			1	1				1
釜石市	1				1						1				1					
他県委託																				
合計	8	1	5	2	16	2	10	4	6	22	2	12	4	4	22	8		5	3	16

イ 初日在籍児数及び延べ人数の状況

(入所定員 20 人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度比
初日在籍児数	17	15	15	15	14	14	17	18	17	17	16	16	191	34
延べ人数	450	465	468	458	428	468	532	494	501	524	476	506	5,770	836

(2) 特別養護老人ホーム日赤鷺鳴荘

ア 施設入所

日赤鷺鳴荘では、1ユニット10名の完全個室・小規模グループとしたユニットケアを実施し、プライバシーの配慮、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるように介護支援を行っている。また、要介護度の重度化や認知症の増加傾向にある中、利用者の安心と安全で笑顔あふれる生活が送れるよう入居者同士の関係や職員との信頼関係・なじみの関係が構築できるよう努めている。潤いのある施設生活を送っていただくため、新型コロナウイルス感染症等の感染予防に努め、近隣の小中学校、地域住民・ボランティア等との交流を行い、園内行事やユニット毎の季節行事などを開催した。



(園内夏祭りの様子)



(餅つきの様子)

長期入所における令和5年度の新規入居者は26人、退居者26人（うち死亡15人）、年度末在籍者は79人で、開設以来の入居者は927人、また、短期入所の利用者数は延べ4,381人（1日平均12.0人）となっている。

なお、長期入所の要介護度別の入居者数は下記のとおりである。（単位：人）

要介護度別	4年度末			入 居			退 居			年度途中の 介護度変動			5年度末		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護度2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
要介護度3	3	16	19	3	2	5	2	1	3	0	△3	△3	4	14	18
要介護度4	2	17	19	4	12	16	3	7	10	0	3	3	3	25	28
要介護度5	5	35	40	3	2	5	3	10	13	0	0	0	5	27	32
計	11	68	79	10	16	26	8	18	26	0	0	0	13	66	79

イ 日赤鷺鳴荘デイサービスセンター

平成30年4月から雫石町の指定を受け、単独事業として地域密着型通所介護を行っている。介護保険法に規定する在宅の要介護者等に対し、通所の方法により各種のサービスを提供することによって、要介護者等の自立的生活の助長、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族介護者の身体的、精神的な負担の軽減を図ることを目的に実施した。

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用者実数（人）	48	49	48	45	43	46	47	47	44	41	40	42	540
利用者延数（人）	381	362	373	330	346	365	378	323	322	266	225	328	3,999
実施日数（日）	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	19	25	289

ウ 指定居宅介護支援事業所

在宅の要援護高齢者若しくは要援護となるおそれのある高齢者、また、その家族に対し、在宅介護等に関する総合的相談に応じ、地域の要援護高齢者及びその家族等の福祉の向上を図ることを目的としたサービスを提供した。

なお、令和5年度の相談件数は2,662件、介護保険法に規定された在宅要介護者に対するケアプランの作成件数は、延べ828件（うち在宅要支援者55件）であった。

（単位：件）

区 分	本 人	家 族	関係機関	相談協力員 (民生委員)	その他	合 計
電 話	28	574	652	0	0	1,254
訪 問	777	370	141	2	0	1,290
来 所	13	41	8	0	0	62
そ の 他	18	23	15	0	0	56
合 計	836	1,008	816	2	0	2,662

エ 「日本赤十字社長期ビジョン（第二次中期事業計画（R5～R7）」）における取組み

地域への福祉サービスの向上として、当施設が「超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求」の一助となるために、利用者からも介護を志す人からも選ばれる施設となって安定的に施設運営を継続するとともに、施設運営以外の部分における地域の福祉ニーズにも応えていく必要がある。

そのため、効果的な人材確保対策及び充実した教育環境の整備を通じて優れた人材を確保・育成するとともに、ボランティアが事業運営に積極的にに関わり、職員が自らの専門スキルを最大限に生かせる環境を整えることにより、福祉サービスの質を向上させ、また、地域貢献活動を積極的に実施する。「日本赤十字社長期ビジョン（第二次中期事業計画）」における当施設の取組みについて、次のとおり実施した。

(1)介護職員の確保・教育環境の充実

施 策 内 容				備 考
- 超少子高齢化社会を踏まえ、介護等職員の人材確保に当たっては、介護等実習生の受入れ、就職説明会等の人材確保対策に継続して取り組むとともに、地域住民等を対象に介護現場説明会を実施する。 - また、介護・看護等の直接処遇職員のスキルアップのため、職務内容及び経験年数に応じ、職場内研修の実施や各種研修会に積極的に参加させる。				※介護現場説明会 1. 小学校 1回 2. 中学校 0回 3. 介護希望者 0回
活動指標	R 5 実績／計画	R 6 計画	R 7 計画	
①介護等実習生の受入れ	2回／2回	2回	2回	
②介護現場説明会	1回／3回	3回	3回	
③介護職員初任者研修参加	1人／2人	2人	2人	
④実務者研修会等受講助成	1人／2人	2人	2人	

(2) ボランティア等による施設運営への参画促進

施 策 内 容				備 考
これまで職員に限定されてきた業務の一部に積極的にボランティアが関わることにより、職員の専門スキルを最大限に生かせる環境を整えることを目指し、ボランティアが担える活動範囲について地域住民等を対象とした説明会を開催し、介護業務ボランティアを積極的に受け入れる。				※ボランティア説明会は開催できなかったが、関係者等へは適宜説明
活動指標	R 5 実績／計画	R 6 計画	R 7 計画	
①ボランティア説明会	0回／3回	3回	3回	
②介護業務ボランティア受入数	2人／3人	3人	3人	

(3) 地域貢献活動の推進

施 策 内 容				備 考
地域における福祉の拠点として機能している状態を目指し、地域ニーズを再確認するとともに、地域貢献活動を行う。				
活動指標	R 5 実績／計画	R 6 計画	R 7 計画	
①医療・介護に関するシンポジウムの開催	1回／1回	1回	1回	
②近隣小中高生等の学習体験受入	2回／2回	2回	2回	

7 赤十字思想の普及・広報

(1) 赤十字事業の普及啓発

赤十字に対する理解を深め、社業発展の基盤を確立するために、さまざまな機会や媒体を活用した積極的な情報の発信が必要であることから、次のような赤十字思想の普及啓発に努めた。

ア 支部における広報活動

(ア) 広く県民に対して赤十字事業への理解と協力を求める必要があることから「赤十字ふれあいフェスティバル」を開催し、赤十字事業に対する県民の認識を高め、赤十字思想の普及を図ることを目的としている。令和5年度は盛岡市、釜石市の2カ所で開催した。



6/25（日）盛岡市、9/17（日）釜石市で開催したフェスティバルの様子

(イ) 広報紙「赤十字いわて」の発行及び赤十字 NEWS 等の配付

- ・赤十字いわて 年2回各 6,500 部（会員約 5,000 件への送付を含む）
- ・赤十字 NEWS（新聞） 毎月1回各 1,500 部
- ・赤十字いわて特別号 年1回全世帯配布 422,300 部



「赤十字いわて」
（左 夏季・秋季号・右 冬季・春季号）



「赤十字いわて」特別号（各戸配布用）

- (ウ) 赤十字運動月間に新聞広告（全地区分区の協賛を含む）と民放各社の協力を得て、テレビ・ラジオCMスポット放送による広報を行い、県民に運動の周知を行った。また、テレビスポットについては、通年でのCMスポット（30秒）放送を民放放送局（4社）に依頼した。



岩手日報誌面での広告(5月1日)

各地区分区と協賛各社の協力により
全面広告を行った



令和5年度日本赤十字社テレビCMスポット
民放4社の協力を得て5月を中心に通年放送した

- (エ) ラジオ媒体を使って通年にわたり、県民へ各赤十字施設の事業内容を周知した。
- IBC 岩手放送ワイドステーション内の「身近な赤十字」(月1回 第一月曜日 15時15分～放送)を実施した。



- FM 岩手朝の情報番組内で赤十字のラジオCMを月2回 第2、4火曜日 7時40分～放送)を実施した。

- (オ) 令和5年度岩手日報社主催の「いわて防災サミット」への後援・協賛を行い、令和6年能登半島地震における赤十字の活動報告を行った。

- (カ) 5月の赤十字運動月間期間中、アイーナ6階と岩手県庁県民ホールに当支部活動パネルとチラシを展示した。



- (キ) 令和5年度は、ホームページの他Instagram、X、フェイスブックでの広報活動を行い、特に若年層へのアプローチを強化するなど、積極的に県民に発信した。



令和5年度投稿数 155件
フォロワー 1,443人
(令和6年3月31日現在)



Facebook



- (ク) 日本赤十字社のマスコットキャラクター「ハートラちゃん」のノベルティグッズや、岩手県支部独自で作成した広報用グッズをイベントで配布したほか、赤十字会員など法人へのCSR・SDGs活動の推進に向けて積極的に活用した。

令和5年度作成 ハートラちゃんを活用したノベルティグッズ ①タオル ②ウェットティッシュ

①



②



- (ケ) 広報活動の評価・検証を管下施設の広報業務連絡調整会議広報委員会（3月）で行った。

イ 地区・分区における広報活動

地区・分区を通じ、赤十字運動月間用チラシの全戸配布とポスターの掲出依頼を行ったほか、市町村広報紙を活用した広報活動を促進した。また、産業まつり等の地域イベントに赤十字活動紹介ブースを出展し、救急法ミニ講習や災害救援物資の展示など地域に密着した広報活動を可能な限り展開した。

令和5年度 運動月間ポスター

各自治会・町内会の掲示板に掲出された



ウ 本社主催の広報活動

(ア) 防災・減災プロジェクト

東日本大震災から13年が経過したが、毎年のように甚大で広域な災害が発生している。日本赤十字社では、令和2年度から災害や感染症からいのちを守り、家族や地域で多くの方々に災害の備えに取り組む行動のきっかけとなることを目的に、3月1日からの1か月間、趣旨に賛同する企業に寄付の協力等を依頼している。(ホームページ上で協賛企業の紹介あり)

岩手県支部として、各企業にキャンペーンの理解促進と協賛金の募集を行った。

令和5年度 日赤岩手県支部協賛企業実績数 9社



防災・減災プロジェクトシンボルマーク



令和5年度 防災・減災キャンペーンポスター

8 会員・活動資金

(1) 会員・活動資金概要

赤十字活動の財政基盤をより強固にするため、毎年5月を赤十字会員増強運動月間として、地区・分区役職員や協賛委員・地域奉仕団・有功会などの赤十字関係者の理解と協力を得て、活動資金の募集活動を実施するとともに赤十字思想の普及を図った。

令和5年度は一般活動資金で、地区分区扱いが減少したものの、高額寄付が多くあり、結果、目標を達成した。

日赤岩手県支部 会員数（会費2,000円以上の納入）

令和6年3月31日現在

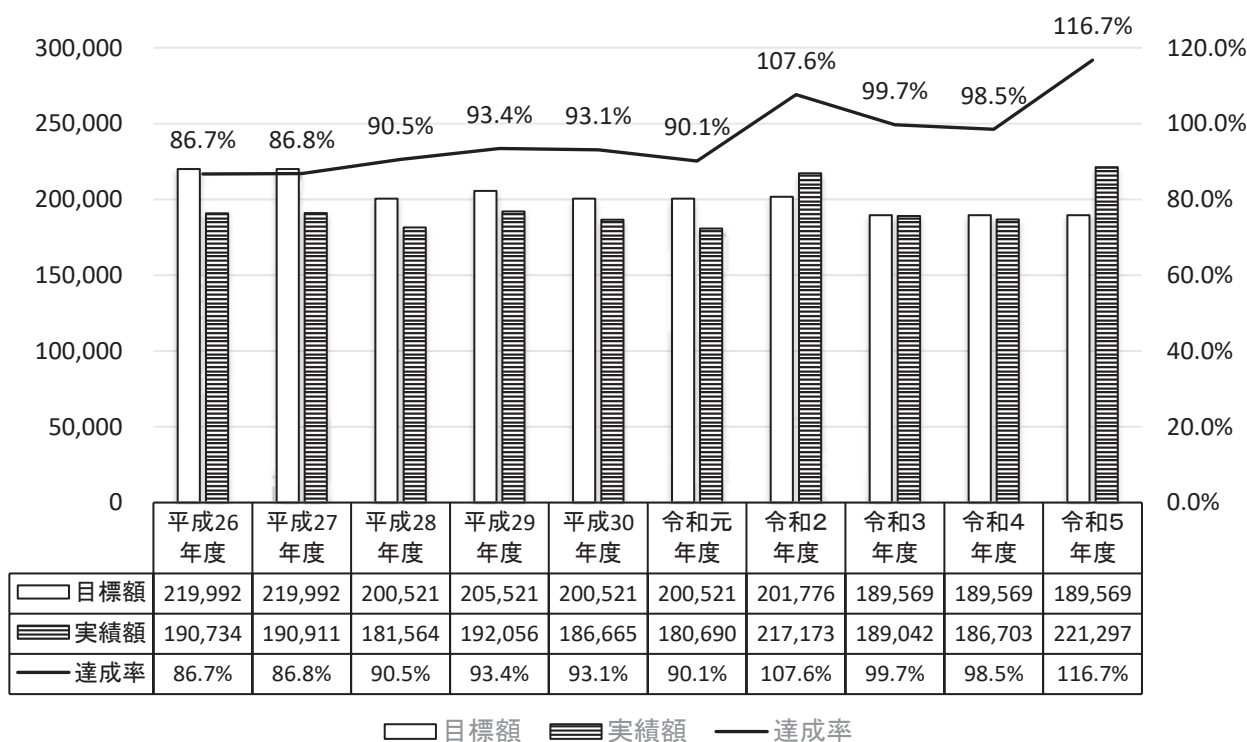
会 員 数	一 般 会 員	法 人 会 員
	1,420 人	2,286 社

令和5年度 活動資金募集実施結果

区 分	目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達 成 率 (%)
一般活動資金	168,888,000	199,562,858	118.2
法人活動資金	20,681,000	21,733,821	105.1
合 計	189,569,000	221,296,679	116.7

単位：千円

直近10年の活動資金推移



※平成29年度は日赤鶯鳴荘新築移転特別寄付金の募集があったため、目標額が増加していること。

令和５年度活動資金収納状況一覧表

令和６年３月31日現在

地区・分区	一 般 活 動 資 金			法 人 活 動 資 金			総 額			前年度 実績額
	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	
盛岡市	40,529,000	17,477,740	43.1%	3,816,000	4,132,869	108.3%	44,345,000	21,610,609	48.7%	22,095,326
宮古市	7,101,000	6,760,950	95.2%	669,000	140,500	21.0%	7,770,000	6,901,450	88.8%	6,953,982
大船渡市	4,713,000	4,717,200	100.1%	627,000	150,000	23.9%	5,340,000	4,867,200	91.1%	5,096,700
花巻市	12,609,000	12,053,282	95.6%	1,401,000	1,425,000	101.7%	14,010,000	13,478,282	96.2%	13,889,100
北上市	12,750,000	10,818,296	84.8%	2,126,000	2,353,020	110.7%	14,876,000	13,171,316	88.5%	13,173,600
久慈市	4,981,000	4,950,650	99.4%	525,000	548,000	104.4%	5,506,000	5,498,650	99.9%	5,699,110
遠野市	3,462,000	5,014,100	144.8%	345,000	352,500	102.2%	3,807,000	5,366,600	141.0%	4,517,400
一関市	15,088,000	17,629,080	116.8%	1,371,000	1,076,803	78.5%	16,459,000	18,705,883	113.7%	19,033,895
陸前高田市	2,398,000	2,772,000	115.6%	197,000	0	0.0%	2,595,000	2,772,000	106.8%	2,867,400
釜石市	4,601,000	2,904,020	63.1%	454,000	316,000	69.6%	5,055,000	3,220,020	63.7%	3,274,377
二戸市	3,799,000	4,003,400	105.4%	1,091,000	1,247,000	114.3%	4,890,000	5,250,400	107.4%	4,787,063
八幡平市	3,502,000	3,618,500	103.3%	305,000	155,000	50.8%	3,807,000	3,773,500	99.1%	3,943,500
奥州市	15,058,000	15,614,400	103.7%	1,398,000	933,000	66.7%	16,456,000	16,547,400	100.6%	16,937,000
滝沢市	7,770,000	4,938,436	63.6%	353,000	136,000	38.5%	8,123,000	5,074,436	62.5%	4,714,806
地区計	138,361,000	113,272,054	81.9%	14,678,000	12,965,692	88.3%	153,039,000	126,237,746	82.5%	126,983,259

雫石町	2,187,000	2,257,550	103.2%	181,000	113,000	62.4%	2,368,000	2,370,550	100.1%	2,421,700
葛巻町	855,000	1,142,500	133.6%	73,000	130,000	178.1%	928,000	1,272,500	137.1%	1,277,500
岩手町	1,802,000	2,051,000	113.8%	128,000	189,500	148.0%	1,930,000	2,240,500	116.1%	2,250,500
紫波町	4,376,000	4,691,900	107.2%	267,000	115,000	43.1%	4,643,000	4,806,900	103.5%	4,683,207
矢巾町	3,528,000	3,105,000	88.0%	388,000	203,000	52.3%	3,916,000	3,308,000	84.5%	3,386,300
盛岡地区	12,748,000	13,247,950	103.9%	1,037,000	750,500	72.4%	13,785,000	13,998,450	101.5%	14,019,207
西和賀町（北上）	724,000	904,300	124.9%	245,000	274,000	111.8%	969,000	1,178,300	121.6%	1,216,005
金ヶ崎町（水沢）	2,122,000	2,023,000	95.3%	135,000	250,000	185.2%	2,257,000	2,273,000	100.7%	2,330,500
平泉町（一関）	892,000	1,034,000	115.9%	100,000	171,000	171.0%	992,000	1,205,000	121.5%	1,231,000
住田町（大船渡）	686,000	822,600	119.9%	55,000	0	0.0%	741,000	822,600	111.0%	833,700
大槌町（釜石）	1,595,000	1,565,200	98.1%	105,000	0	0.0%	1,700,000	1,565,200	92.1%	1,687,000
山田町	1,999,000	2,147,900	107.4%	152,000	0	0.0%	2,151,000	2,147,900	99.9%	2,143,500
岩泉町	1,310,000	1,555,400	118.7%	288,000	314,000	109.0%	1,598,000	1,869,400	117.0%	1,948,600
田野畑村	450,000	462,000	102.7%	31,000	0	0.0%	481,000	462,000	96.0%	517,000
宮古地区	3,759,000	4,165,300	110.8%	471,000	314,000	66.7%	4,230,000	4,479,300	105.9%	4,609,100
野田村	561,000	655,100	116.8%	77,000	54,000	70.1%	638,000	709,100	111.1%	728,500
普代村	362,000	410,500	113.4%	34,000	31,000	91.2%	396,000	441,500	111.5%	443,500
洋野町	2,273,000	2,494,000	109.7%	313,000	300,500	96.0%	2,586,000	2,794,500	108.1%	2,877,700
久慈地区	3,196,000	3,559,600	111.4%	424,000	385,500	90.9%	3,620,000	3,945,100	109.0%	4,049,700
軽米町	1,259,000	1,418,000	112.6%	218,000	319,000	146.3%	1,477,000	1,737,000	117.6%	1,727,500
九戸村	726,000	937,500	129.1%	55,000	0	0.0%	781,000	937,500	120.0%	937,000
一戸町	1,804,000	2,346,295	130.1%	138,000	50,200	36.4%	1,942,000	2,396,495	123.4%	2,401,700
二戸地区	3,789,000	4,701,795	124.1%	411,000	369,200	89.8%	4,200,000	5,070,995	120.7%	5,066,200
分区計	29,511,000	32,023,745	108.5%	2,983,000	2,514,200	84.3%	32,494,000	34,537,945	106.3%	35,042,412

地区分区計	167,872,000	145,295,799	86.6%	17,661,000	15,479,892	87.7%	185,533,000	160,775,691	86.7%	162,025,671
支部扱い	1,016,000	54,267,059	5341.2%	3,020,000	6,253,929	207.1%	4,036,000	60,520,988	1499.5%	24,677,793
総 計	168,888,000	199,562,858	118.2%	20,681,000	21,733,821	105.1%	189,569,000	221,296,679	116.7%	186,703,464

（単位：円、達成率：％）

※（ ）は郡地区

(2) 社業の振興

赤十字事業は、会員や篤志者など多くの奉仕者の協力によって支えられているが、赤十字事業を円滑に推進するためには、組織基盤を拡充・強化していくことが重要であるため、具体的取り組みを下記のとおり行い、活動資金を増強した。

ア 法人へのDMによる依頼

商工会、商工会議所等各種団体に加盟している法人へのDMによる活動資金の寄付依頼を継続する。令和5年度は、これまでの各種団体に東北税理士会岩手県支部連合会を加え、さらには本社から提供された海外たすけあいや海外救援金寄付者データを活用し、DMによる活動資金の寄付依頼を行った。

イ 赤十字と連携した企業のCSR・SDGs活動の推進

新規開拓や有功章を受章した法人を中心に、赤十字事業への理解促進、活動資金募集を目的として、具体的には、赤十字支援マークの活用、赤十字支援マーク 寄付つき商品等導入、支部事業（救急法の講習や防災セミナー等）の活用等、CSR やSDGs の提案を取り入れながら、92 件の企業訪問を行った。

赤十字支援マーク



寄付つき商品



いわて門崎丑牧場(有)【一関市】



日本ハムマーケティング(株)



(株)オンワードパーソナルスタイル

ウ 赤十字寄付金付き自動販売機の設置

法人会員を中心に**赤十字寄付金付き自動販売機**（飲料用）の設置が、累計 72 台となっており、着実に支援の輪が広がっている。赤十字マークがより県民の目に触れられる機会を増やし、活動資金の安定確保と支援の意識の醸成を図る。



エ 赤十字会員への活動資金の依頼

赤十字会員(年額 2,000 円以上の支援者)には、年 2 回、広報誌を発送するなど情報提供を行い、事業への理解促進を図るとともに、活動資金の振込用紙を同封して資金確保に努めた。

才 遺贈・相続財産寄付の推進

近年、遺贈（遺言による寄付）、相続財産寄付（相続人が相続により取得した財産による寄付）により、「自分が築いた財産を社会に役立てたい」、「故人の遺産を社会に役立てて欲しい」という申し出が増えており、そのような申し出に迅速に対応できるよう令和３年１０月２０日に岩手県司法書士会と連携協定を締結した。その後、岩手県司法書士会との共催で「次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー」を次のとおり開催し、遺贈・相続財産寄付の獲得に向けた取り組みを実施した。

開催日	場所	参加人数	内容
10月29日	陸中海岸グランドホテル（釜石市）	30名	司法書士による相続・遺言講座 日本赤十字社の活動について
3月2日	ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング（盛岡市）	52名	

若手県司法士会・日本赤十字社若手県支部連合会

次世代へ繋ぐ
社会貢献セミナー

参加費
(ランチ料)
無料

「私の財産を社会に還元できないかな...」
「過るも多く、困る」の思いを持って欲しい！

ご自身や友人の思いを、ぜひこのセミナーで、セミナーで知り、講師・
相談員と語り合ってください。

● ランチ 12:00～13:00
*ランチは自由にお食事を楽しんでいただけます。

● セミナー第1部 13:00～13:50
司法士による「相続・遺言講座」

● セミナー第2部 13:55～14:30
日本赤十字支部による「日本赤十字社の活動について」

● 個別相談会 14:40～14:50
*希望者において、個別に相談いたします。

【会場】 若手県司法士会・日本赤十字社若手県支部
【会場】 日本司法士会連合会

【主催】 日本赤十字社若手県支部 電話 019-638-3610
※お申し込みは、お申し込みの2週間前まで、お申し込みください。
※お申し込みは、お申し込みの2週間前まで、お申し込みください。

お申し込み
お申し込み

お申し込み
お申し込み



カ 地区・分区事業の推進

(ア) 地区・分区における事業が円滑に推進されるよう地区分区交付金を交付するとともに、赤十字事業について、地域での理解を得るための助言を行った。

(イ) 地区・分区事務担当者会議を開催し、担当者及び担当課長レベルでの各事業説明と重要連絡事項の伝達、意見交換などを行い、事業の推進を図った。

名称	日程	場所	主な内容
地区・分区担当課長 及び事務担当者説明会	4月19日	奥州地区合同庁舎	・重点事業の説明 ・赤十字事業の概要 ・令和5年度事業計画 ・赤十字活動資金募集 ・地区分区事務処理 ・表彰事務 ・義援金、救援金募集 ・国際人道法 ・災害時の対応 ・赤十字奉仕団の活動 ・赤十字講習、防災セミナー
	4月20日	釜石市民ホール TETTO	
	4月21日	盛岡地区合同庁舎	
	4月24日	久慈地区合同庁舎	

(ウ) 県民から寄付されている活動資金が、各地区・分区において適正に管理運用されているか、隔年で訪問による事務調査を行った。

名称	日程	対象（訪問順）
地区・分区 事務調査	11月1日	一関市地区 平泉町分区
	11月2日	紫波町分区 矢巾町分区
	11月7日	一戸町分区 二戸地区
	11月9日	洋野町分区 久慈市地区 久慈地区
	11月15日	大槌町分区 釜石市地区 釜石地区
	11月16日	西和賀町分区 北上市地区 北上・水沢・一関地区
	11月20日	滝沢市地区 盛岡市地区
	11月22日	野田村分区 普代村分区

(3) 表彰概要

有功章等贈与規則により表彰を実施し、寄付者及び功労者に感謝の意を伝達した。

ア 全国赤十字大会

全国赤十字大会は、コロナ禍を経て4年振りに通常開催となり、赤十字事業の進展を図るため、寄付者及び功労者とともに参会した。



イ 地区・分区主催の表彰伝達式

寄付者及び功労者に感謝の意を表すため、次のとおり地区・分区主催の表彰伝達式に参加した。

開催日	主催	場所
10月2日	釜石市地区	釜石市民ホール TETTO
10月31日	盛岡市地区	盛岡市役所
11月21日	花巻市地区	東和温泉
11月24日	北上市地区	北上市役所本庁舎



盛岡市



北上市

有功章贈与規則による表彰一覧表

(単位:件)

地区区分名	社 資 功 労							業 務 功 労					献血功労	
	紺綬褒章	厚生労働大臣感謝状	社長感謝状	金 色 有功章	銀 色 有功章	支部長 感謝状	特別社員	社長感謝状	金 色 有功章	銀 色 有功章	支部長 感謝状金枠	支部長 感謝状銀枠	金 色 有功章	銀 色 有功章
盛岡市			2	1	2	3	34						41	42
釜石市						1	6		1	2	5	8		
宮古市					1		2		3	1	10	10	2	1
一関市					4	6	16		5	10	21	9	3	2
大船渡市					1									
奥州市						3	2		1	1	12	4	4	3
花巻市					4	3	3		2	3	14	9	2	11
北上市				1	10	8	7		1	1			1	7
久慈市										5	2	24	1	
遠野市			1		1	1				3	1	9	3	2
陸前高田市							1						1	1
二戸市					1		2		3	4	3	8	1	
八幡平市													3	3
滝沢市													4	6
雫石町														2
葛巻町														
岩手町							1							1
紫波町						1							2	5
矢巾町													3	1
西和賀町														1
金ヶ崎町							2						1	1
平泉町			1										1	
住田町														
大槌町							1		1					
山田町														1
岩泉町						1	2							1
田野畑村														
洋野町														1
野田村														
普代村														
一戸町						1				1	1	7		
軽米町														
九戸村														
計	0	0	4	2	24	28	79	0	17	31	69	88	73	92
支部扱い	1	0	4	4	6	21	133	7	6	2	11	7	0	0
合計	1	0	8	6	30	49	212	7	23	33	80	95	73	92
総計	306							238					165	

9 有功会の育成及び活動

有功会は、地域において赤十字精神を広く普及する様々な活動を行なう任意のボランティア組織であり、赤十字に対する最大の応援団である。

年々会員の減少による地区有功会の休会が相次いでいるが、赤十字思想の普及、会員増強活動等、赤十字事業の推進に大きな役割を担っている支部有功会連合会及び地区有功会の活動が積極的に展開されるよう支援した。

(1) 有功会の育成強化

ア 県内の有功会会員や有功章受章者が一堂に会する「日赤岩手県支部有功会感謝の集い」を開催し、表彰や懇談、講演会を行うなど、日々の活動への感謝を表すとともに、会員同士の情報交換や研修を兼ねた場を設け、地区有功会活動の活性化を図った。



2023. 12. 14 に開催した有功会感謝の集い

イ 有功会員の赤十字事業への理解促進や活動に対する意欲向上を目指し、宮城県支部の視察研修を企画し、宮城県赤十字有功会との交流を図った。



2023. 11. 7 に開催した視察研修

ウ 全国赤十字大会（東京都開催）への派遣を行うほか、地区有功会が実施する総会等に参加し、地域における有功会活動の活性化に努めた。

岩手県支部有功会連合会

(R6.3.31 現在)

有功会名	会長名	加盟数	設置年月日
県支部有功会連合会	齊藤 洋美	9	昭和 63 年 3 月 14 日

地区分区有功会名簿

有功会名	会 長 名	会 員 数	設置年月日
1 遠 野 市 地 区	佐々木 達郎	127	昭和 51 年 4 月 19 日
2 北 上 市 地 区	高橋 祥元	108	昭和 55 年 2 月 1 日
3 二 戸 地 区	山崎 雄一	11	昭和 60 年 10 月 18 日
4 陸前高田市地区	鈴木 康文	22	昭和 62 年 1 月 24 日
5 盛 岡 市 地 区	春山 一男	72	昭和 62 年 10 月 26 日
6 大船渡市 地 区	大和田 恭子	145	昭和 63 年 11 月 21 日
7 花 巻 市 地 区	齊藤 洋美	61	平成 1 年 3 月 29 日
8 二 戸 市 地 区	國分 敏彦	27	平成 10 年 11 月 6 日
9 奥 州 市 地 区	熊谷 孝一	32	平成 18 年 7 月 24 日
計 9地区		605	

10 評議員会の開催

令和5年度の評議員会は次のとおり開催され、支部並びに施設における事業、予算、決算等について審議した。

評議員会	期 日・場 所	審 議 等 事 項
第1回評議員会	令和5年6月6日（火） エスポワールいわて	協議事項 1 令和4年度事業報告 2 令和4年度一般会計歳入歳出決算 3 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出決算 4 令和4年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算 5 令和5年度事業計画、取組
第2回評議員会	令和6年2月6日（火） エスポワールいわて	協議事項 1 令和5年度補正予算 2 令和6年度事業計画 3 令和6年度一般会計歳入歳出予算 4 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出予算 5 令和6年度社会福祉施設特別会計歳入歳出予算 報告事項 1 各施設の事業運営

日本赤十字社岩手県支部役員、評議員名簿

(令和6年4月20日現在)

役 員 名 等	氏 名	職 業 名 等	摘要(選出区分等)
支 部 長	達 増 拓 也	岩 手 県 知 事	
副 支 部 長	内 舘 茂	盛 岡 市 長	
〃	野 原 勝	岩手県企画理事兼保健福祉部長	
本社常任理事・代議員	守 谷 祐 志		
代 議 員	石 川 健 正		
〃	齊 藤 洋 美		
〃	木 戸 口 敏 男		
監 査 委 員	十 文 字 悦 子		
〃	三 浦 千 代 子		
〃	國 分 敏 彦		
評 議 員	藤 原 哲	(株)岩手日報社常務取締役執行役員総務局長	支 部 長
〃	鎌 田 英 樹	(株)IBC岩手放送代表取締役会長	支 部 長
〃	石 川 健 正	(株)岩手銀行取締役専務執行役員	支 部 長
〃	守 谷 祐 志	岩手県支部有功会連合会顧問	盛 岡 市
〃	小 枝 指 好 夫	盛岡市町内会連合会会長	盛 岡 市
〃	十 文 字 悦 子	盛岡市赤十字奉仕団員	盛 岡 市
〃	長 沢 雅 彦	農 業	宮 古 市
〃	中 村 和 司	大船渡市赤十字奉仕団委員長	大 船 渡 市
〃	齊 藤 洋 美	岩手県支部有功会連合会会長	花 巻 市
〃	菅 原 洋 子	北上市赤十字奉仕団委員長	北 上 市
〃	木 戸 口 敏 男	久慈市赤十字奉仕団事務局長	久 慈 市
〃	菅 原 直 徳	岩手県支部遠野市地区有功会理事	遠 野 市
〃	辻 山 慶 治		一 関 市
〃	三 浦 千 代 子	一関市川崎赤十字奉仕団委員長	一 関 市
〃	泉 進	自 営 業	陸前高田市
〃	佐々木 亨	釜石市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	釜 石 市
〃	國 分 敏 彦	二戸市議会議員・岩手県支部二戸市地区有功会会長	二 戸 市
〃	佐々木 幸 雄	八幡平市赤十字奉仕団委員長	八 幡 平 市
〃	熊 谷 孝 一	岩手県支部奥州市地区有功会会長	奥 州 市
〃	鈴 木 明 夫	岩手県支部奥州市地区有功会副会長	奥 州 市
〃	主 浜 照 風	農 業	滝 沢 市
〃	猿 子 恵 久	雫 石 町 長	盛 岡
〃	鈴 木 重 男	葛 巻 町 長	盛 岡
〃	高 橋 昌 造	矢 巾 町 長	盛 岡
〃	内 記 和 彦	西 和 賀 町 長	北 上
〃	高 橋 寛 寿	金 ヶ 崎 町 長	水 沢
〃	青 木 幸 保	平 泉 町 長	一 関
〃	神 田 謙 一	住 田 町 長	大 船 渡
〃	平 野 公 三	大 槌 町 長	釜 石
〃	佐 藤 信 逸	山 田 町 長	宮 古
〃	岡 本 正 善	洋 野 町 長	久 慈
〃	大久保 勝彦	九 戸 村 長	二 戸

(評議員任期 令和4年2月14日～令和7年2月13日)

11 決算概要

(1) 一般会計歳入歳出決算報告(日本赤十字社岩手県支部)

一般会計 (歳入)	1 社資収入	221,772,679 円
	2 補助金及び交付金収入	2,519,545 円
	3 繰入金収入	476,000 円
	4 資産収入	0 円
	5 雑収入	4,002,565 円
	6 前年度繰越金	16,217,428 円

歳入合計	244,988,217 円
------	---------------

一般会計 (歳出)	1 災害救護事業費	災害義援金 災害救護訓練への参加 救護装備の整備 救援物資の整備	29,316,361 円
	2 社会活動費	救急法等講習の普及 講習資材の整備 青少年赤十字の普及	20,470,249 円
	3 国際活動費	国際救援活動、国際開発協力 海外救援金	1,085,000 円
	4 指定事業地方振興費	救護班関係装備品整備	2,976,000 円
	5 地区分区交付金支出	市町村での赤十字事業の促進	30,547,370 円
	6 社業振興費	広報活動の促進 活動資金募集及び会員管理	44,639,849 円
	7 基盤整備交付金 ・補助金支出	医療施設基盤整備 血液事業普及整備 社会福祉施設基盤整備	0 円
	8 積立金支出		22,579,372 円
	9 業務管理運営費等		35,494,454 円
	10 本社送納金支出		32,009,501 円
	11 翌年度繰越金		25,870,061 円

歳出合計	244,988,217 円
------	---------------

(2) 医療施設特別会計歳入歳出決算報告

盛岡赤十字病院

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
	円		円
医 業 収 益	6,967,713,750	医 業 費 用	8,220,828,481
医 業 外 収 益	534,540,344	医 業 外 費 用	46,352,687
医 療 社 会 事 業 収 益	186,642	医 療 奉 仕 費 用	93,015,709
特 別 収 益	844,808	特 別 損 失	6,399,349
		法 人 税 等	0
		当 期 利 益 剰 余 金	△ 863,310,682
歳 入 合 計	7,503,285,544	歳 出 合 計	7,503,285,544

(3) 社会福祉施設特別会計歳入歳出決算報告

日赤岩手乳児院・日赤鶯鳴荘

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
日赤岩手乳児院分	円		円
措 置 費 収 入	225,556,205	人 件 費 支 出	181,920,450
補 助 金 事 業 収 入	775,850	事 務 費	11,562,936
受 託 収 入	5,069,955	事 業 費	15,723,283
寄 付 金 収 入	416,750	固 定 資 産 取 得 支 出	261,300
他 会 計 繰 入 金 収 入	300,580	そ の 他 の 支 出	10,520,134
そ の 他 収 入	196,557		
前 年 度 繰 越 金	50,629,474		
小 計	282,945,371	小 計	219,988,103
日赤鶯鳴荘分	円		円
介 護 保 険 事 業 収 入	520,837,170	人 件 費 支 出	355,884,242
寄 付 金 収 入	57,000	事 務 費	31,197,852
補 助 金 収 入	2,027,956	事 業 費	77,581,454
受 取 利 息 配 当 金 収 入	1,424	借 入 金 償 還 支 出	13,913,000
他 会 計 繰 入 金 収 入	15,406,615	固 定 資 産 取 得 ・ 除 却 支 出	142,000
そ の 他 の 収 入	2,602,754	フ ァ イ ナ ン ス ・ リ ー ス 債 務 返 済 支 出	3,768,120
前 年 度 繰 越 金	91,996,306	そ の 他 支 出	15,964,757
小 計	632,929,225	小 計	498,451,425
歳 入 合 計	915,874,596	歳 出 合 計	718,439,528

歳入歳出差引額 197,435,068円（翌年度繰越金）

日赤岩手乳児院 62,957,268円

日赤鶯鳴荘 134,477,800円

付 録

日本赤十字社スローガン
人間を救うのは、人間だ。

◎赤十字の基本原則

·人道·公平·中立·独立·奉仕·单一·世界性

1. 沿革

明治20年(1887) 11月12日・・・日本赤十字社岩手委員部創立
明治29年(1896) 5月20日・・・日本赤十字社岩手支部に改称
昭和27年(1952) 8月14日・・・日本赤十字社岩手県支部に改称

2. 会員

個人	1,420人
法人	2,286社

3. 評議員

32人 (定員32人)

4. 役員（令和6年4月1日現在）

支部長	達増拓也
副支部長	内館 茂、野原勝
本社理事	守谷 祐志
本社代議員	石川健正、齊藤洋美、木戸口敏男
支部監査委員	十文字悦子、三浦千代子、國分敏彦

5. 青少年赤十字 (令和6年3月31日現在)

幼稚園・保育所	58校	2,880人
小学校	96校	19,524人
中学校	45校	9,329人
高等学校	18校	1,721人
特別支援学校	3校	63人
計	220校	33,517人

6. 赤十字ボランティア (令和6年3月31日現在)

地域赤十字奉仕団	32団	1,054人
青年赤十字奉仕団	3団	82人
特殊赤十字奉仕団	14団	555人
計	49団	1,691人

7. 有功会 (令和6年3月31日現在)

組	織	数	会	員	数
	9				598人

8. 講習普及活動

區 分	指 導 員 登 錄 者 數
救 急 法	92人
水 上 安 全 法	15人
雪 上 安 全 法	1人
健 康 生 活 支 援	22人
幼 兒 安 全 法	35人
計	165人

9. 国際活動

NHK海外たすけあいキャンペーン

635件	691,437円
------	----------

海外救援金

2,365,514円

◎ジュネーブ条約締結国

○国際赤十字・赤新月社 192社

10. 災害等救援

救 護 班	8班 48人
無 線 局	基地局 2、移動局 50
救 護 車 両	8台
R5年度取扱義援金額	7災害 4,188,158円
配布救援物資(令和5年度)	262個(毛布、緊急セット、バスタオル)

11. 医療事業

施設数	
病院	1
病床総数(令和5年度)	354床
総患者数(令和5年度)	
入院	69,416人 (189.7人/日)
外来	106,950人 (441.9人/日)

12. 血液事業

施設数		車両台数	
血液センター	1	献血バス	4台
献血ルーム	1	血液運搬車	10台
奥州供給出張所	1	その他車両	17台
献血者数(令和5年度)		供給本数(令和5年度)	
成分献血	12,237人	赤血球	57,080本
400mL献血	30,574人	血漿	14,652本
200mL献血	1,258人	血小板	73,215本
合計	44,069人	合計	144,947本

13. 社会福祉施設

事業の区分	施設の種類	施設数
児童福祉施設	乳 児 院	1
老人福祉施設	特別養護老人ホーム	1

14. 施設及び職員数（令和6年4月1日現在）

区分	施設数	職員数
支部	1	12人
病院	1	608人
血液センター	1	80人
乳児院	1	37人
特別養護老人ホーム	1	82人
合計	5	819人

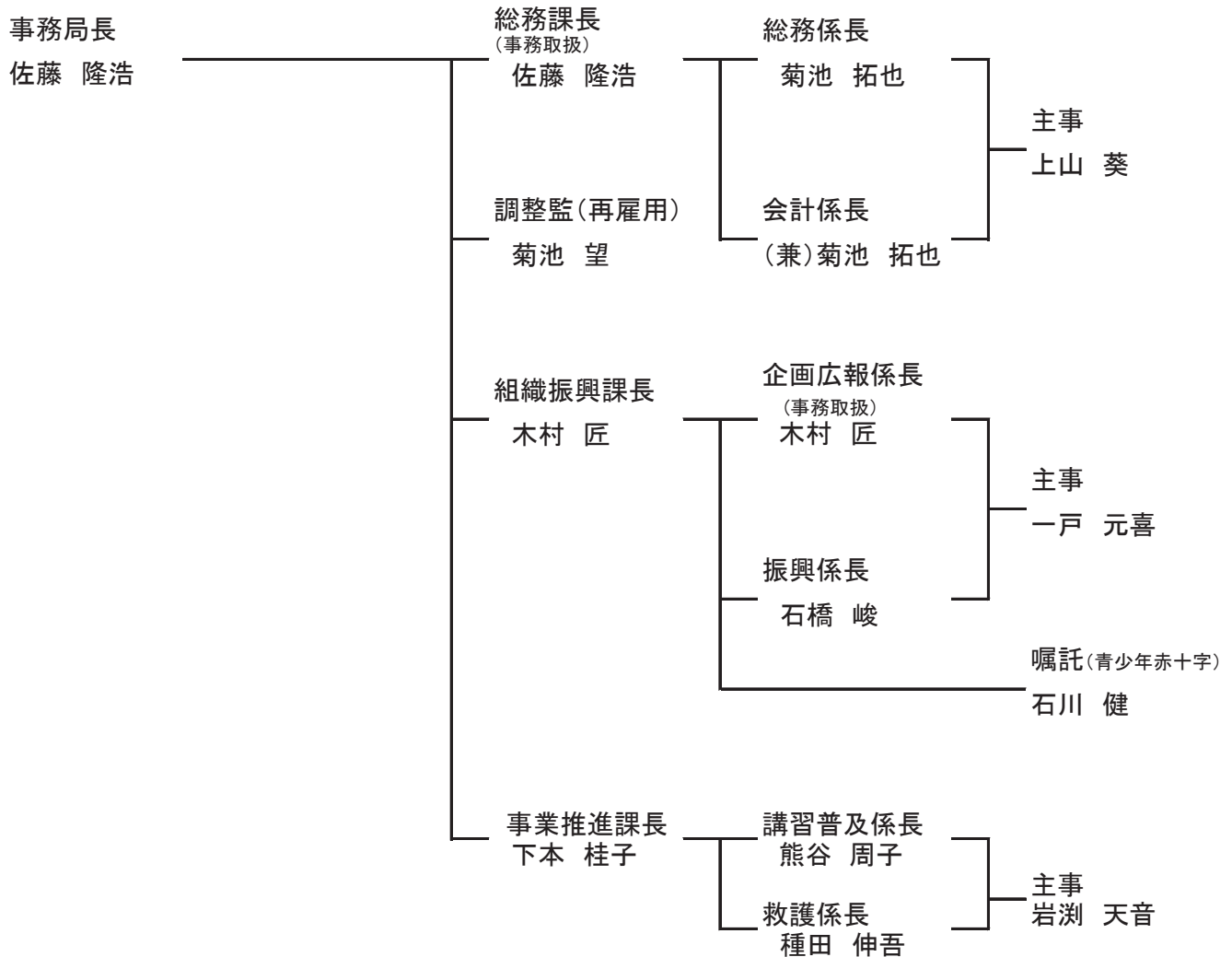
15. 会計（令和6年度当初予算）

一般会計（支部）	215,322千円
社会福祉特別会計	978,519千円
医療事業特別会計	8,760,732千円

※血液事業特別会計は、ブロック化に伴い岩手センター単独での計上はなし

日本赤十字社岩手県支部組織図

令和6年4月1日現在



各施設等の職員数

施設等名	正職員	嘱託	臨時職員等	計
日本赤十字社岩手県支部	10人	2人	0人	12人
盛岡赤十字病院	478人	20人	110人	608人
岩手県赤十字血液センター	44人	28人	8人	80人
岩手県赤十字血液センター盛岡大通り出張所	(9人)	(4人)	(0人)	(13人)
岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所	(2人)	(3人)	(3人)	(8人)
日赤岩手乳児院	28人	6人	3人	37人
特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘	33人	35人	14人	82人
合 計	593人	91人	135人	819人

各施設の幹部職員

「盛岡赤十字病院」

(令和6年4月1日現在)

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
病 院 長		久 保 直 彦	第二産婦人科部長		畑 山 伸 弥
副 院 長		藤 原 純	眼 科 部 長		欠
副 院 長		一 戸 克 明	耳 鼻 咽 喉 科 部 長		佐 藤 尚 徳
			放 射 線 科 部 長		欠
総 合 診 療 科 部 長		欠	第 一 麻 酔 科 部 長		西 嶋 茂 樹
第 一 血 液 内 科 部 長		峯 貴 浩	第 二 麻 酔 科 部 長		永 田 博 文
第 二 血 液 内 科 部 長		泉 田 亘	ヘインクリニック科部長		星 有 己 枝
精 神 科 部 長		欠	リハビリテーション科部長	兼	久 保 直 彦
脳 神 経 内 科 部 長		米 澤 久 司	健 診 部 長		鎌 田 弘 之
呼 吸 器 内 科 部 長		田 村 伸 夫	病 理 部 長		欠
第 一 消 化 器 内 科 部 長		藤 原 隆 雄	薬 剤 部 長		鈴 木 弘 文
第 二 消 化 器 内 科 部 長		安 孫 子 幸 人	医 療 技 術 部 長	兼	一 戸 克 明
循 環 器 内 科 部 長		小 澤 真 人	医 療 社 会 事 業 部 長	兼	藤 原 隆 雄
第 一 小 児 科 部 長		小 西 雄 華	医 療 技 術 部 技 師 長		浅 沼 匡 介
第 二 小 児 科 部 長		梶 原 和 華			
消 化 器 外 科 部 長		欠	看 護 部 長		藤 根 美 知 子
第 一 外 科 部 長		大 山 健 一	看 護 副 部 長		山 口 裕 子
第 二 外 科 部 長		欠	看 護 副 部 長		斉 藤 美 香
小 児 外 科 部 長		欠	看 護 副 部 長		赤 川 理 佳
緩 和 ケ ア 科 部 長		欠	事 務 部 長		赤 平 寛 彦
第 一 整 形 外 科 部 長	兼	一 戸 克 明	総 務 課 長		畠 山 誠 次
第 二 整 形 外 科 部 長		欠	企 画 管 理 課 長		及 川 伸
第 一 脳 神 経 外 科 部 長		和 田 司	管 財 課 長		畠 山 誠 次
第 二 脳 神 経 外 科 部 長		船 山 雅 之	医 事 課 長		生 内 正 悦
皮 膚 科 部 長		馬 場 由 香	施 設 管 理 課 長		砂 子 澤 誠 一
泌 尿 器 科 部 長		瀬 尾 崇	医 療 社 会 事 業 課 長		沼 田 佳 子
第 一 産 婦 人 科 部 長		本 田 達 也	健 診 課 長		鷹 薨 康 之

「岩手県赤十字血液センター」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
所 長		増 田 友 之	採 血 課 長		中 島 み どり
事 業 部 長		佐 藤 泉 悦	品 質 情 報 課 長	兼	乳 井 和 夫
事 業 副 部 長		西 海 枝 武 志	医 務 課 長	兼	増 田 友 之
総 務 課 長		乳 井 和 夫	盛岡大通り出張所長	兼	西 海 枝 武 志
献 血 推 進 課 長	兼	西 海 枝 武 志	奥州供給出張所長		中 野 宏
学 術 情 報 ・ 供 給 課 長		中 村 秀 一	参 事		佐 々 木 孝 司

「日赤岩手乳児院」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
院 長	兼	梶 原 和 華	事 務 長		三 上 浩 二

「特別養護老人ホーム鶯鳴荘」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
園 長		千 葉 豊 重	事 務 長	兼	千 葉 豊 重

岩手県支部のあゆみ

()内は月

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治10年	1877	博愛社創立
20年	1887	「博愛社」を「日本赤十字社」と改称(5月) 「日本赤十字社岩手委員会」を創立(11)社員数14人
27年	1894	日清戦争が起こり救護活動開始(8月) 日清戦争の間、盛岡駅等主要駅に救護員を派遣し傷病兵の救護、各駅に休憩所を設け茶菓等を提供(27.10～28.5)
29年	1896	本社規則の改正により「岩手委員会」を「岩手支部」と改称(7月) 三陸大津波発生(6月)被災者救護のため医員、看護婦等延102人を派遣。救護人員3,542人 岩手、稗貫、和賀3郡の地震被災地に医員2人を救護のため派遣。現地に診療施設を仮設して25人を救護(8月)
30年	1897	本年度社員数5,239人
(10周年)		看護婦生徒養成細則を定め看護婦養成を開始。初年度入学10人
31年	1898	達曽部村の水害被災地に医員、看護婦4人を派遣し13人を救護 岩手、宮城、福島3支部共同で看護人教育を仙台陸軍衛戍病院に委託(岩手3人)
32年	1899	第1回岩手支部総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員3,244人。この総会の際第1回救護演習を盛岡城跡等の会場にて実施(12月)
33年	1900	北清事変の救護として、本社の召集により模範看護婦1人を広島予備病院に派遣 看護婦養成所を盛岡市内丸に移転。実務練習は私立盛岡病院に委託(10月)
35年	1902	沼宮内町火災の被災地に医員、看護婦等8人を派遣し20人を救護(5月)
36年	1903	第2回岩手支部社員総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員約3,500人。この総会の際第2回救護演習を盛岡城跡等の会場にて実施(11月)
37年	1904	日露戦争が起こり救護活動を開始(2月)本社及び各県支部で教護班149人派遣 第50救護班を大阪予備病院(のちに弘前予備病院)に派遣 第51救護班を姫路予備病院に派遣 同戦争中盛岡駅等に患者休憩所を設け、支部職員及び篤志看護婦人会員などによる傷病兵の救護、送迎等を実施
39年	1906	東北飢饉に米国から義援金を受ける
40年	1907	本年度社員数20,681人
(20周年)		過去10年間の看護婦養成実績入学80人卒業61人
41年	1908	支部本館等の建設敷地を盛岡市仁王内丸に取得。面積2,550.65坪、価格6,750円
42年	1909	支部本館、看護婦生徒寄宿舍等新築建坪188.5坪建築価格23,800円
43年	1910	支部に救護看護婦養成所を設け本年から養成開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治45年	1912	看護人教育を盛岡衛生病院に委託
大正 2年	1913	岩手支部「結核予防撲滅規程」制定(2月)衛生劇、講演会等実施。診療取扱患者235人(大正11年までの延患者取扱数9,921人)
5年	1916	日本赤十字社岩手支部病院設立計画本社承認 青森県下田・古間木駅間で本県入営兵の搭乗列車が貨物列車と衝突。死亡29人重軽傷100人の事故が発生。医員13人を救護のため派遣(11月)
6年 (30周年)	1917	岩手支部病院工事着工(10月)
7年	1918	盛岡市内に流行性感冒大流行のため臨時救護班等により延309人救護(11月)
8年	1919	弘前第8師団各隊に流行性感冒大流行。同師団軍医部長の依頼により救護看護婦長等5人を派遣し553人を救護(12月)
9年	1920	岩手支部病院落成(4月)(内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科98床工事費18万円余) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ開院式を挙(6月) 第3回岩手支部社員総会に総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ岩手公園で開催。参加入員4,800人(6月) 支部病院開院に看護婦養成を同病院で実施
12年	1923	支部病院に小児科設置、病床数132床に増床(6月) 関東地方大震災の救護のため、本社要請に応じて医員(4人)等27人の救護班を派遣し救護活動。篤志看護婦人会、学童の義援金、救援物資による救援も実施 岩手支部病院看護婦長峰谷カツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
13年	1924	山田町大火にあたり、被災地に医員等3人を派遣11人救護(4月) 日本赤十字社岩手県支部少年赤十字結成(9月)
昭和 3年	1928	総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ御親授式を支部楼上において開催。さらに少年赤十字団御親閲式を岩手公園において挙(10月) 岩手支部病院看護婦長長谷川トミ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
4年	1929	岩手支部病院看護婦宿舎を改築(7月)
5年	1930	岩手支部病院附属産婆養成所開所(2月) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ第4回社員総会、御親授式、支部病院創立10周年記念式及び少年赤十字団御親閲式を挙(9月)
6年	1931	満州事変派遣救護班鉄嶺衛戍病院(昭和7.8.20解散)に救護看護婦3人派遣
7年	1932	岩手支部病院看護婦長沢田キヌ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
8年	1933	秋田県尾去沢鉱山の沈殿池堤防決壊による被災救護に救護班を派遣(11月) 三陸大津波被災者救護のため4班(釜石町、山田町、小本村及び八木村各方面)の救護班を派遣し、臨時教護所を開設して延1,310人の患者を救護(3月)(東京支部、新潟支部からも救護班の派遣あり)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和 9年	1934	岩手支部病院に乳幼児保育所(現日赤岩手乳児院)を開設(日本赤十字社の最初の児童福祉施設)
10年	1935	本年度少年赤十字結成状況366団体103,295人
11年	1936	秋田県尾去沢鉱山事故に救護班を派遣。17日間救護活動(11月) 日本赤十字社の社旨普及の映画開催19か所参観者23,600人
12年 (50周年)	1937	日華事変が起こり、救護活動を開始(7月) 赤十字病院の補助制が実施され、支部病院が陸海軍の戦時衛生業務を補助することとなる。(第1次昭14.1.10～15.5.15、第2次昭20.4.20～20.8.30、この間の収容治療延42,800人) 岩手支部病院看護婦菱川ハツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
14年	1939	松尾鉱山の坑道が崩壊。生埋め者(246人)の救護のため医療班(医員3人、看護婦27人、書記1人)を派遣。救護患者数延1,397人
15年	1940	高松宮殿下より岩手保育所に対して500円を援助金として下賜(有栖川宮記念厚生資金)
16年	1941	青森県三本木町の大火に救護班を派遣(5月) 第2次世界大戦が起こり、救護活動開始(12月)
18年	1943	支部病院規則改正により、岩手支部病院を盛岡赤十字病院と改称(1月)
19年	1944	大戦救護に全力を傾注するため平時事業中止
20年	1945	第2次世界大戦終る(8月) 第2次世界大戦の救護本部廃止(11月) (日華事変(昭12.7)から大戦終結までに派遣した救護班17班657人)
21年	1946	引揚者救護のため派遣救護班岩手第1班を編成し浦賀検疫所に派遣(5月)
22年 (60周年)	1947	皇后陛下を日本赤十字社名誉総裁に推戴(1月) 日本国憲法施行(5月) キャサリン台風による被災地(一関市)に救護班を派遣、被災者救護の街頭募金を実施(9月) 盛岡駅に赤十字ハウスを開設し病弱な旅行者等を救護(9月) 社員の社費年額を10円以上と改正(1月) 社員の社費年額を30円以上と改正(10月)
23年	1948	アイオン台風による被災地(死亡393人、行方不明316人、被災者180,117人、被害総額127億円余)に対し、救護班9班を派遣延5,983人の患者を救護(9月) 日赤岩手乳児院が児童福祉法に基づく福祉施設として認可(11月) 岩手支部家庭看護法講習開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和25年	1950	共同募金と分離し赤十字単独で募金運動開始(白い羽根赤十字募金)(5月) 岩手県と日赤岩手支部共催で身体障害者巡回相談を開始 看護婦養成所を盛岡赤十字看護学院と改称(3月)。さらに11月盛岡赤十字高等看護学院と改称
27年	1952	「日本赤十字社法」制定。特殊法人となりこれを契機に募金運動より社員増強運動に移行(8月) 「日本赤十字社岩手支部」を「日本赤十字社岩手県支部」と改称
28年	1953	日本赤十字社「新定款」制定(3月) 社員の社費年額を100円以上と定款改正(4月) 岩手県支部事務局長が第5次帰国船興安丸の日本赤十字社代表として乗船(天津より1,192人帰国)(8月) 日本赤十字社「支部規則」制定(9月)
30年	1955	本年度社員数128,496人 本年度社費募集額13,233,881円 本年度末赤十字奉仕団の結団状況 地域奉仕団143団12,839人 学生奉仕団1団50人 職域奉仕団1団130人 計145団13,019人
31年	1956	岩手県支部創立70周年記念事業として盛岡市大志田地区に赤十字山林造成開始 盛岡赤十字病院血液銀行を開設し、開所式を挙行(1月) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ第5回社員大会並びに御親授式を県公会堂において開催(9月) 社員制度改正、法人社員を新設(有功章を金色、銀色の2種とする)(4月)
32年 (70周年)	1957	浄法寺町火災の被災16世帯に医療班を派遣(4月) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ親授式を支部において開催(11月) 和賀、胆沢地方の強風災害に災害救助法が適用され、被災世帯に救援金を贈る(12月)
33年	1958	21号及び22号台風の被災に対して盛岡地区及び久慈地区に災害救助法が適用され、日赤県支部は報道機関、岩手県社会福祉協議会とともに「水害義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(支部扱い義援金5万円余、義援品1,720点) 盛岡赤十字病院附属藪川診療所開設(6月) 本社主催の日赤奉仕団中央指導者講習会を花巻市志戸平において開催(第1ブロック各支部から43人参加)
34年	1959	15号台風の被災地への救援のため「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集。愛知県等に義援金品を分配 三陸村及び田老町の豪雨災害に災害救助法が適用され、救援品を送付。 イタリア赤十字から贈られたソルフェリーノの記念樹「糸杉」の種子の配布があり、小山苗圃で愛育管理(62年現在県内には育成していない)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和35年	1960	チリ地震津波の被害が甚大なことから「義援金募集委員会」を設置して募集。県内外から多大の義援金品が寄せられ、配分委員会によって7,545万円余、2万5千余個の配分を決定し被災地に送付 赤十字による在日朝鮮人の帰還業務が開始され、岩手県支部に臨時帰還業務岩手県対策本部を設置。市地区、町村分区に日赤窓口を設置して帰還業務にあたる。第1回帰還30人
36年	1961	三陸沿岸大火強風災害による被災者(1,008世帯 5,211人 死者5人)に救護班(8班延169人 取扱い患者2,300余人)を派遣したほか、「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(義援金2,104万円余、義援品7,718個)(5月) 日赤、郵政省、NHK共催によるNHK夏季移動相談(医療等)を山田町において実施(8月)
37年	1962	第1回赤十字奉仕団及び青少年赤十字大会を盛岡市下ノ橋中学校において開催。参加者200人(5月)
38年	1963	盛岡赤十字病院第1期改築工事完成(1月) 国際赤十字百周年記念岩手県大会を県公会堂において開催(10月) 在日朝鮮人の帰還業務を日赤単独で実施。38年の帰還者11人 累計124世帯494人
39年	1964	東京オリンピック県内聖火リレーに救護班を派遣 協賛委員制度の充実を図るため、社業推進地区として5町村分区を指定 「岩手県献血推進協議会」設置(11月)
40年	1965	「岩手県赤十字血液センター」開所(3月) 名誉副総裁高松宮妃殿下の御臨席を仰ぎ有功章御親授式並びに社員大会を県公会堂において開催(9月) 本年度社員数192,025人 本年度社費募集総額28,349,416円 本年度献血者4,105人
41年	1966	県北・沿岸豪雨災害発生。久慈市に救護班を派遣。県内外から義援金品の送付。 地域代表協賛委員研究会を4地域で開催(初年度)
42年 (80周年)	1967	岩手県献血推進員制度発足。県内15保健所に駐在(9月) 盛岡赤十字病院第2期病棟改築工事完成(12月) 釜石地区に水上安全奉仕団(25人)結成
43年	1968	岩手県赤十字会館新築落成(鉄筋コンクリート造4階建延2,643㎡支部事務局、血液センター及び乳児院)(1月) 盛岡赤十字高等看護学院新築落成(鉄筋コンクリート造4階建1,554㎡)(1月) 赤十字会館、高等看護学院及び赤十字病院第2期工事の完成を祝して落成式を挙(7月)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和44年	1969	名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、岩手県赤十字社員大会を県公会堂において開催。参加約1,000人(10月)
45年	1970	山形、大野両村の林野火災の被災地に救護員を派遣し、義援金品を贈る
46年	1971	岩手アマチュア無線クラブに赤十字奉仕団結成(団員208人)
		社員の社費額を300円以上と定款改正(5か年間の経過措置を設ける)(4月)
		雫石町上空における全日空機墜落事故にあたり、赤十字病院医師、看護婦による死体処理作業班(4班72人)を派遣。アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団は情報通信連絡等で救援活動(7月)
		北朝鮮帰還援助。第6次帰還船ですべての帰還業務終了
47年	1972	家庭看護法講習会に第3部(老人看護)を新設
		本県初の有功会結成(都南村分区)
48年	1973	青少年赤十字岩手県大会を県公会堂において開催。参加者800人(10月)
		和賀地方豪雪被災地に全国から食料品の援助
49年	1974	主要国道事故多発地帯に「交通事故救急連絡所」を4カ年計画で設置(62カ所のうち初年度15カ所)
50年	1975	本年度社員数216,020人
		本年度社費募集額81,460,873円
		本年度献血者46,629人
		本年度赤十字奉仕団状況7団689人
		本年度青少年赤十字加盟校64校13,998人
51年	1976	中国から永久帰国者に対する日本語習得のための講師派遣等の事業を県の委託で本年度から実施(本年3世帯)
		盛岡赤十字高等看護学院が看護専門課程の設置認可を受け、盛岡赤十字看護専門学校と改称(4月)
		遠野市地区有功会結成(4月)
52年	1977	日本赤十字社新社屋落成(4月)
(90周年)		日本赤十字社創立100周年記念事業を実施
		1.日赤100周年記念座談会を岩手日報社と共催で開催(4月)
		2.赤十字事業についての史実、現況等を収録した日赤100周年記念特集号の発行(5月)
		3.赤十字「岩手のつどい」開催。参加400余人(5月)
53年	1978	献血予約登録(現献血登録)制度発足(7月)
		宮城県沖地震により仙台赤十字病院の給食設備が被害を受け、岩手県支部は救援車によりパン(390食)牛乳(300本)を輸送して救援
		主要スキー場にスノーボードを配置(初年度6台)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和54年	1979	水沢市地区有功会結成(3月) 特別養護老人ホーム「日赤鶯鳴荘」開設(鉄筋コンクリート造平屋建2,314㎡工事費4億2,800万円余、入所定員80人)(5月)
55年	1980	北上市地区有功会結成(2月) 紫波町同(6月) 日赤救護車を3市地区に配置(4カ年計画で全13市地区に配置する計画) 救護用天幕を20町村分区に配置(3カ年計画で全13市地区、62町村分区に配置する計画)
56年	1981	家庭看護法講習に幼児家庭看護法が追加 台風15号本県縦断。被災者に本社を経て義援金の寄託があり、遠野市ほか4地区に配分 盛岡赤十字病院移転用地の売買契約締結
57年	1982	「愛の血液助け合い運動月間」に県南地区を対象として献血キャラバン隊によるPR実施(7月) 岩手県Rh(一)友の会連合会結成。会員600人
58年	1983	国際赤十字創設120周年並びにNHKテレビ放送30周年にあたり、NHKと日本赤十字社で「海外たすけあい」を実施(2月) フェーン現象のもとで林野等の火災が県内各地に発生(4月)。被害甚大な久慈市に医療救護班(7人)の派遣並びに救援物資配布(1,000人分)のほか義援金品の募集(18,243,000円、40,400個)
59年	1984	陸前高田市芸能奉仕団結成(2月) 江刺市地域奉仕団結成(4月) 西磐井地区有功会結成(4月) 北部3県支部災害救護訓練。参加者450人(うち奉仕団250人)(10月) 東磐井地区有功会結成(11月) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンを歳末たすけあいと同時に初めて実施(12月)
60年	1985	県総合防災訓練に花巻市赤十字奉仕団非常炊き出し訓練に初めて参加(8月) 災害用移動炊飯器を地区分区に配置開始 矢巾町、大東町、紫波町、室根村の4地域奉仕団結成 二戸地区有功会結成(10月) 本年度社員数 303,958人 本年度社費募集額 178,721,869円 本年度有功会結成状況 9有功会 457人 本年度赤十字奉仕団状況 28団 1,082人 本年度青少年赤十字加盟校 116校 33,443人 本年度献血者 95,143人

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
昭和61年	1986	社員の社費年額を500円以上と定款改正(3ヵ年間の経過措置を設ける)(4月) 花巻地区有功会結成(3月) 盛岡赤十字病院移転工事着工(3月) 岩手県機構改革に関連し、日赤郡地区の名称及び所管区域変更(4月) 宮古地区有功会結成(8月) 陸前高田市、北上市に地域奉仕団結成		
62年 (100周年)	1987	陸前高田市地区有功会結成(1月) 赤十字フェスティバル開催(5月) 盛岡市地区有功会結成(10月) 水沢地区有功会結成(11月) 盛岡赤十字病院、盛岡赤十字看護専門学校及び災害救援センター新築落成(11月) (病院) 鉄筋コンクリート5階 延29,244㎡ 61億円 (学校) 鉄筋コンクリート2階 1,998㎡ 3億2,000万円 (センター) 鉄筋平屋建 569㎡ 3,000万円 敷地90,573㎡		
63年	1988	岩手県支部有功会連合会結成(3月) 名誉副総裁三笠宮寛仁親王妃殿下のご臨席を仰ぎ支部創立100周年記念岩手県赤十字大会を岩手県民会館において開催。参加者約2,000人 支部事務局組織改正(総務課、振興課、事業課)(7月) 大船渡市地区有功会結成(10月) 盛岡市大通りに血液センター献血ルーム開設(11月) 遠野市赤十字奉仕団(3月) 住田町アマ無線赤十字奉仕団結成(8月)		
平成元年	1989	皇后陛下を名誉総裁に推戴(1月) 花巻市地区有功会結成(3月) 東山町赤十字奉仕団結成(3月) 赤十字フェスティバル開催(5月) 日赤鶯鳴荘創立10周年記念式挙行(9月)		
2年	1990	北上地区有功会結成(1月) 江刺市地区有功会結成(3月) 日赤鶯鳴荘老人短期保護施設建設 岩泉町赤十字奉仕団(2月)、江刺市赤十字芸能奉仕団(3月)結成 血液センター移転新築工事着工(7月) 北部3県支部合同災害救護訓練。参加者700人(10月) 台風による被害甚大(9月18号 11月28号)救援物資等の救援活動 久慈地区有功会結成(11月)		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成3年	1991	田野畑村赤十字奉仕団結成(2月) 葛巻町分区有功会結成(3月) 北上市地区、和賀町分区、江釣子村分区合併(4月) 中村直支部長退任(4月)、工藤巖支部長就任(5月) 雫石町分区有功会結成(5月) 赤十字フェア大船渡市において初めての地方開催(5月) 新北上市地区有功会結成総会(7月) 血液センター新築落成(7月)。鉄筋コンクリート造5階 延4,495.09㎡ 10億5千万円余 赤十字会館改装成る(12月)		
4年	1992	九戸村赤十字奉仕団、一戸町アマチュア無線赤十字奉仕団結成(2月) 浄法寺町赤十字奉仕団結成(4月) 盛岡市地区と都南村分区合併(4月) 盛岡市地区有功会と都南村分区有功会合併(4月) 盛岡赤十字病院診療棟増築(リハビリ、透析)(4月) 盛岡赤十字病院が社団法人日本病院建築協会主催第1回病院建築賞受賞(4月) 支部が雫石町から受託し、デイサービス事業(D型)開始(7月) 二戸市赤十字奉仕団結成(7月) 「'92赤十字フェア」二戸市で開催(10月) 大韓赤十字代表団が来県(11月) 盛岡赤十字病院平成4年度都市景観賞受賞(11月)		
5年	1993	'93アルペンスキー世界選手権に積極支援 (救護、通訳、旗門審判、医療セット配備)(2月3日～4日) 大船渡地区有功会結成(3月) 金ヶ崎町赤十字奉仕団結成(3月) 支部事務局組織5年ぶりに改正(4月) 支部初の献血功労・金色功労楯表章者誕生(献血350回)(4月) 「'93赤十字フェア」(一関市)(5月 日) 第29回献血運動推進全国大会に全国から2,000名参加。成功裡に終了(7月) 皇太子、同妃両殿下岩手県血液センター、盛岡赤十字病院ご視察(7月) 北海道南西沖地震(7月12日地震発生)被災者救援に盛岡赤十字病院の医師、看護婦 及び支部職員を救護班として派遣。義援金1億2百万円余集まる 支部がデイサービスセンター(雫石町)の経営を受託し、地域との連携大きく前進(工事着 工8月、完成12月、業務開始6年2月)		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 5年	1993	北海道南西沖地震被災者に対する見舞金贈呈式(具志堅用高氏から工藤支部長に) (10月) 献血ルーム「メルシー」開設5周年(一日所長にグレートサスケを迎える)(11月4日) ネパール給水事業の現地確認と周辺赤十字の視察研修に支部職員派遣(12月13日～ 25日)		
6年	1994	献血ルーム70,000人達成(1月7日) 千厩町赤十字奉仕団結成(3月) 種市町赤十字奉仕団、野田村赤十字奉仕団結成(3月) 支部受託の雫石町デイサービスセンター(B型)完成し、事業開始(4月1日) 盛岡赤十字病院診療棟増築工事完了(4月30日) 世界赤十字デー蘇生法普及全国統一イベント(盛岡市)(5月8日) 「'94赤十字フェア」(北上市)(5月) 血液事業全国統一システム導入(6月) 本社主催青少年赤十字ネパール派遣事業に全国10人の1人として岩手女子高生が選 出される(8月3日～17日) 献血ルーム成分献血の日キャンペーンに城南小学校生(JRC)が一日所長(9月) 宮城県豪雨災害に際し、救援物資(毛布1,000枚、日用品セット500個)贈る(9月) 北部3県支部合同災害救護訓練(青森)(9月) 第3回全国ボランティアフェスティバル岩手(10月) 三陸はるか沖地震発生(マグニチュード7.5 震度八戸6、盛岡、青森5)(12月28日)		
7年	1995	三陸はるか沖地震義援金募集開始(1月4日) 兵庫県南部地震災害(阪神・淡路大震災)発生。直ちに義援金募集開始(1月17日) 兵庫県南部地震災害被害者救援として支部職員2名派遣(1月21日～1月27日) 兵庫県南部地震災害医療救護班第1陣(8名)現地派遣(1月28日～2月4日) 兵庫県南部地震災害医療救護班第2陣(5名)現地派遣(2月17日～2月21日) 雫石町赤十字奉仕団結成(2月) 川崎村赤十字奉仕団結成(2月) 釜石地区大槌町分区有功会結成(3月) 有功章社員章等贈与規則の一部改正(4月) 支部受託雫石町在宅介護支援センター事業開始(4月) 盛岡赤十字病院開院75周年記念式典(4月) 日本赤十字社岩手県支部工藤巖支部長退任(4月28日) 日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長就任(4月29日) 世界赤十字デー周知キャンペーンの一環として瀬戸内寂聴氏の講演会開催(5月)		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 7年	1995	赤十字日韓職員交換研修のため支部職員を韓国に派遣(6月8日～6月17日) 病院問診項目の全国統一(7月) ボランティアによる在宅訪問サービス事業開始(一関市)(7月) 日赤同方会桐花会殉職会員等慰霊祭(9月) 岩手県赤十字血液センター創立30周年記念式典(9月) 本社主催海外視察研修(ヨーロッパ)のための支部職員派遣(9月24日～10月9日)		
8年	1996	遠野地区宮守村分区有功会結成(2月) 花泉町赤十字奉仕団結成(3月) 沢内村赤十字奉仕団結成(3月) 盛岡赤十字病院、岩手県における基幹災害拠点病院に指定(4月) 献血ルーム「メルシー」献血者10万人達成(4月) 秋山ちえ子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーンの一環として)(5月) 北上川上流水防演習に医療救護班派遣(5月) 釜石市地区有功会結成(6月) 救護用エアーテント2張りを配置(8月) 阪神・淡路大震災被災者に対する支援活動に対し菅厚生大臣からの感謝状受賞(8月) 盛岡赤十字病院、血液センター主会場に第1ブロック合同災害救護訓練の実施(9月) 県支部特別企画「赤十字の創始者アンリー・デュナンの足跡を訪ねて」初の海外研修視察(10月5日～15日) 大槌町赤十字奉仕団結成(11月)		
9年 (110周年)	1997	日赤鶯鳴荘で、デンマーク介護専門職員招聘による介護技術研修開催(2月) 阪神・淡路大震災への支援活動続く 石鳥谷、紫波町山林火災に救援物資(炊き出し資材、毛布40枚、タオル40枚)支部職員4名派遣(5月) 海老名香葉子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーン)の開催(5月) 県内献血協力者延べ200万人を達成(6月)(200万人達成謝恩キャンペーンを実施) 村上タマオさん(朝鮮民主主義人民共和国在住日本人配偶者)盛岡市へ帰郷(1月)		
10年	1998	岩手県赤十字大会(岩手県支部創立110周年・同有功会連合会結成10周年記念) 名誉副総裁高円宮妃殿下ご臨席宮妃殿下より有功章のご授与62名 盛岡赤十字病院、岩手県赤十字血液センターご視察(11月) 日赤岩手県支部広報業務連絡調整要綱制定。赤十字施設関係者による広報委員会発足(1月) 家庭に眠る善意で“世界の子供を救おう!” 75.50全国統一バザーの開催(5～6月) 岩手県内20会場でバザー収益金 1,818,987円 (青少年赤十字創設75周年・赤十字奉仕団創設50周年記念行事として実施)		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成10年	1998	家族計画組織活動セミナー(12カ国13人)が盛岡赤十字病院を視察研修(5月) 岩手山西側の大地獄谷周辺で火山性地震が断続的に発生していることから岩手県では災害警戒本部を設置。支部においても災害警戒本部を設置。各施設においては防災体制を強化(6月) 盛岡赤十字病院が厚生省臨床研修病院に指定(8月) 東北地方に停滞した前線の影響で、岩手県南部と沿岸地域に洪水被害 一関市、川崎村、平泉町、東山町に毛布、日用品セット、バスタオル等を搬送。福島県支部には700枚の毛布を搬送(8月) 9月3日午後4時58分雫石町長山で震度6を記録。岩手山周辺で火山活動が活発化 赤十字講習(家庭看護法・救急法)専用室を設置し、普及活動の充実を図る(9月) 二戸市地区有功会結成(11月)		
11年	1999	献血推進専門員制度が発足。県内6ブロックに6名配置(4月) 沿岸地方の大雨災害で、陸前高田市、大船渡市、釜石市、遠野市、大槌町に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(7月) 日赤鶯鳴荘創立20周年記念式典(10月) 大雨により軽米町に災害救助法が適用されるなど、県北部に大きな被害が発生したため二戸市、久慈市、軽米町、山形村に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(10月) 軽米町大雨災害義援金の募集を開始。(10月) 274件 20,212,192円が集まり、義援金配分委員会の決定のもと、二戸市、久慈市、軽米町、山形村、九戸村、普代村に配分 水沢市地区有功会創立20周年記念式典(11月)		
12年	2000	支部初の青少年赤十字国際交流事業の準備として、シンガポール赤十字社を事前視察(3月) 北海道有珠山噴火(3月)。岩手県支部救護班(班長以下7名)伊達赤十字病院内赤十字現地対策本部へ派遣。避難所の巡回診療にあたる(4月) 盛岡市ふれあいランド岩手において「第1回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 台風3号の影響により、野田村、普代村地域の避難所へ毛布、日用品 セット、バスタオルの救援物資を緊急輸送(7月) 青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月) 住田町赤十字奉仕団結成(9月) 赤十字幼児安全法講習が開始され、救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法と併せて、5大講習となる		
13年	2001	久慈ライフセービング赤十字奉仕団結成(2月) 防災ボランティア地区リーダー養成研修会開催(3月) 盛岡市川徳デパート前広場において「第2回赤十字フェスティバル」を開催(5月)		

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成13年	2001	青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月) 種市町において支部初の水上安全法「海」講習開催(8月) 大船渡市地区と三陸町分区合併(11月)
14年	2002	江刺市赤十字芸能奉仕団解団(3月) 一関市地区赤十字奉仕団と一関市地区婦人赤十字奉仕団が一本化し、一関市赤十字奉仕団として再結成(5月)北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第3回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会(東京都:明治神宮会館)に岩手県から25名が出席(5月) 台風6号大雨災害により東山町に災害救助法が適用(7月) 赤十字防災ボランティアリーダー1名を現地に派遣(7月19日～21日) 東山町大雨災害義援金の募集を開始(7月) 222件8,403,504円が集まり、義援金配分委員会の決定のもとに被災した29市町村に配分 青少年赤十字岩手県賛助会から岩手県青少年赤十字賛助奉仕団に移行(7月) 富士大学学生赤十字奉仕団結成(10月)
15年	2003	青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(1月8日～12日) 北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第4回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 宮城県沖地震(三陸南地震)18時24分発生。県南部を中心に震度6弱を記録。19時10分盛岡赤十字病院医療救護班待機。同日21時20解散。被災者に対し、大船渡市地区から救援物資(毛布・日用品セット・バスタオル)配布(5月) 宮城県北部地震発生。宮城県支部に日用品セット(200セット)を送付(7月) 岩手県消防学校、盛岡赤十字病院を主会場に第1ブロック合同災害救護訓練を実施(10月)
16年	2004	盛岡赤十字看護専門学校閉校(3月) 盛岡赤十字看護専門学校学生奉仕団解団(3月) 遠野市ショッピングセンターとぴあにおいて、「第5回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 地域高齢者生活支援の一環として、新たに「セラピューティック・ケア」講座を開始 青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月7日～12日) 青少年赤十字国際交流事業「パプアニューギニア国」RCYメンバー受入れ(11月13日～19日) 新潟県中越地震発生(10月23日 17:56 震度7) 小千谷市に2個班の救護班を派遣し、緊急仮設診療所(ERU)における医療活動、被災者のこころのケア等を行うとともに、日赤現地災害対策本部への要員と、救援物資搬送要員を派遣

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 17 年	2005	愛知県で開催された愛・地球博(3月～9月)の「愛知万博赤十字パビリオン」の運営スタッフとして支部職員を派遣(4月10日～16日) 水沢グランドホテルライブラリーホールにおいて、水沢市商人まつりと併催し「第6回赤十字ふれあいフェスティバルを開催(6月) 青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月9日～14日) 第3回「献血スタンド・バイ・ミー」親と子の血液センター見学会を実施(7月) 支部、関係施設、防災ボランティア合同による災害救護訓練の実施(10月) いわぎん健康クラブから赤十字血液センターの血液運搬車の寄贈(購入経費の一部)(11月)
18 年	2006	「こころのケア」研修の実施(2月) バイク奉仕団の結成(2月) 第一ブロック事業国際活動対象国(ベトナム)視察事業に青少年賛助奉仕団副委員長参加(2月20日～25日) 支部国民保護計画の策定(3月)。保護計画に伴うNBC災害除染セット整備(3月) 岩手県ライフセービング赤十字奉仕団結成(7月) 「第7回赤十字ふれあいフェスティバル」を県立福祉の里センター(大船渡市)で開催(7月) 地区分区有功会の再編(解散有功会：江刺市地区、宮守村分区、水沢市地区、水沢地区、千厩地区、花巻地区)(結成有功会：奥州市地区) 山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団結成(10月)
19 年 (120 周年)	2007	AED(自動体外式除細動器)を旧市町村に58台配備(1月) 八幡平市赤十字奉仕団結成(3月) 救急法基礎講習始まる(4月) 日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長退任(4月29日) 日本赤十字社岩手県支部増達拓也支部長就任(4月30日) 新潟県中越沖地震発生(7月16日) 岩手県支部救護班(7名)を現地に派遣(7月20日～22日) 前線停滞の影響による大雨被害発生。盛岡市、紫波町、石鳥谷町に救援物資輸送(9月) 「第8回赤十字ふれあいフェスティバル」を浄法寺文化センターで開催(11月)

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 20 年	2008	岩手・宮城内陸地震発生（6月14日） 岩手県支部救護班（7名）を一関市に派遣（6月14日） こころのケア班（延べ15名）を奥州市に派遣（6月23日～27日） 岩手県沿岸北部を震源とする地震発生（7月24日） 岩手県支部救護班（7名）を洋野町に派遣（7月24日） 防災ボランティアのためのこころのケア研修開始（10月、12月、3月実施） A E D（自動体外式除細動器）を J R C 加盟の2高等学校に配備（11月） 柔道整復師会赤十字奉仕団結成（11月） 赤十字奉仕団基礎研修開催（二戸市、宮古市、釜石市、久慈市、岩泉町） 岩手県赤十字大会（岩手県支部創立120周年・同有功会連合会結成20周年記念（11月8日） 岩手県支部創立120周年記念事業国内交流派遣事業（本社・東京都支部へ7名高校生）
21 年	2009	「第9回赤十字ふれあいフェスティバル」を花巻市総合体育館で開催（5月） 盛岡赤十字病院緩和ケア病棟竣工記念式典（5月） 岩手大学学生赤十字奉仕団・イーハトーブ学生赤十字奉仕団合同結団式（7月） 岩手県議会議員連盟盛岡赤十字病院緩和ケア病棟視察（9月） 日赤鷺鳴荘創立30周年記念式典（9月）
22 年	2010	国内型緊急対応ユニット【dERU】盛岡赤十字病院へ配備（3月） 国内型緊急対応ユニット【dERU】実技研修 盛岡赤十字病院（4月） 社員増強運動月間街頭キャンペーン【カワトク前・クロステラス】（5月） NBC訓練【盛岡駅・盛岡赤十字病院】（7月） 「第10回赤十字ふれあいフェスティバル」を宮古市シートピアなあとで開催（8月） 「第1ブロック支部合同災害救護訓練」岩手産業文化センターアピオ（10月）
23 年	2011	東日本大震災発生（3月11日） 東日本大震災（3月11日）に対する義援金の受付（3月12日～） 「第11回赤十字ふれあいフェスティバル」を一関市総合体育館サブアリーナで開催（10月）
24 年	2012	東日本大震災復興支援事業「こころのケア」（平成23年9月～平成25年3月まで） 東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキング」（平成23年10月～） 東日本大震災復興支援事業「青空教室」（6月・9月・11月） 東日本大震災復興支援事業「炊き出し交流会」（5月～平成25年3月） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）

平成 24 年	2012	「第12回赤十字ふれあいフェスティバル」を八幡平市さくら公園で開催(9月)
平成 25 年	2013	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成25年4月～) 東日本大震災復興支援事業「ふれあい炊き出し交流会」(平成25年4月～平成26年3月) 東日本大震災復興支援事業「被災地の赤十字講習普及とこころのケア」(平成25年4月～平成26年3月) 岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所業務開始(5月) 「第13回赤十字ふれあいフェスティバル」開催 盛岡市イオンモール盛岡 (5月) 「赤十字150年写真展」地方巡回展をいわて県民情報交流センターで開催(7月) 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(7月) 大雨災害に伴い盛岡市、花巻市、矢巾町、紫波町へ救援物資配送(8月9日～10日) 岩手県平成25年豪雨・大雨災害義援金の受付(8月14日～9月30日) 東日本大震災復興支援事業「赤十字キャリア教育支援」(8月) 台風18号に伴う大雨災害により盛岡市へ救援物資配送(9月) 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月)
26 年	2014	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成26年4月～継続) 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成26年4月～平成27年3月) 日赤岩手乳児院盛岡市三本柳へ移転新築(4月) 盛岡市林野火災に伴い盛岡市玉山区総合福祉センターへ救援物資配送(4月) 「第14回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。 盛岡市イオンモール盛岡(5月) 東日本大震災復興支援事業「JRC赤十字ふれあいコンサート」(6月) 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2014inいわて」(7月29日～31日) 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月) 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月) 防災教育プログラムパイロット事業実施(1月) 防災ボランティア養成研修開催(2月) 日本赤十字社岩手県支部盛岡市三本柳へ移転新築(新社屋落成式2月20日、新社屋業務開始3月1日)
27 年	2015	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成27年4月～) 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成27年4月～平成28年3月)

平成 27 年	2015	「第15回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡（5月） 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2015inいわて」（7月） 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」（8月） 日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（8月） 東日本大震災復興支援事業「赤十字ふれあいコンサート」（8月） 東ティモール赤十字社救急法等普及支援事業支部職員派遣（10月17日～25日） 防災教育プログラムパイロット事業実施（10月） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月） カンボジア赤十字社救急法普及支援事業支部救急法ボランティア指導員派遣（11月6日～15日）
28 年	2016	日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（1月） 東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」（平成28年4月～） 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」（平成28年4月～平成29年3月） 熊本地震災害発生（4月） 岩手県支部第1救護班（7名）を現地に派遣（4月19日～24日） 盛岡赤十字病院医師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣（4月25日～5月1日） 盛岡赤十字病院看護師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣（4月29日～5月5日） 岩手県支部第2救護班（7名）を現地に派遣（5月1日～6日） 「第16回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡（5月） 盛岡赤十字病院看護師1名を熊本地震被災者健康支援事業に2名派遣（7月15日～22日） 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2016inいわて」（7月） 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」（8月） 日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（8月） 台風10号災害発生（8月） 岩手県支部救護班6班（33名）を矢巾消防学校SCUに派遣（8月31日～9月2日） 久慈市、宮古市、岩泉町、住田町に救援物資輸送（8月） 日赤災害医療コーディネーター（6名）を岩泉町に派遣（9月6日、9日） 第71回国民体育大会・第16回全国障害者スポーツ大会臨時救護に救護員45名を派遣（9月25日～10月24日） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）
29 年 (130 周年)	2017	日本赤十字社定款の一部変更（4月1日） 年額2,000円以上の会費を納めるものを会員と定め、会員を社法上の社員と規定

平成 29 年 (130 周年)	2017	日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成29年4月～)
		東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成29年4月～平成30年3月)
		釜石市林野火災に伴い釜石市立平田小学校避難所及び旧県立釜石商業高校体育館避難所に救援物資配送(5月)
		「第17回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)
		赤十字奉仕団岩手県支部委員会増沢委員長が赤十字奉仕団中央委員会委員長に就任(6月)
		東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月)
		日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(8月)
平成 30 年	2018	日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月)
		東日本大震災支援国赤十字・赤新月社会議(2月)
		東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(4月～平成31年3月)
		東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(4月～平成31年3月)
		「第18回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)
		特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘:雫石町南畑へ新築移転(落成式6月26日・業務開始7月1日)
		東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月)
平成 31 年 令和元年	2019	平成30年7月豪雨災害発生に伴い、こころのケア班(4名)を広島県呉市に派遣。(8月9日～16日)
		北海道胆振東部地震発生に伴い、盛岡赤十字病院DMAT班、救護班2班、こころのケア班1班、こころのケア調整班1班を現地に派遣。(9月6日～10月1日)
		岩手県赤十字大会(岩手県支部創立130周年・同有功会連合会結成30周年記念)(11月2日)
		赤十字レッドライトアッププロジェクト初参加 盛岡城跡公園の石垣の一部を赤くライトアップ。(5月)
		「第19回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)
		ラグビーワールドカップ2019釜石開催に係る岩手県国民保護共同訓練(7月11日)、7月27日、9月25日のラグビーワールドカップ試合にテロ災害等に備え救護班を派遣
		東日本大震災被災地支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」開催(7月13日～12月17日まで のべ13回)

平成 31 年 令和元年	2019	令和元年東日本台風(台風第19号)災害発生(10月12日) 被災した市町村に救援物資配送(10月13日～11月8日) 宮城県丸森町に岩手県支部救護班1班(7名)を派遣(10月16日～19日) 宮城県支部支援のため岩手県支部職員2名を派遣(10月19日～23日) ボランティアセンターを開設し、沿岸被災地に防災ボランティア等26名を派遣(10月18日～11月17日) 12月下旬 新型コロナウイルスが中国湖北省武漢市で発生し、全世界に感染拡大。日本でも2020年1月に初の感染者が確認 2月末 今年度の救急法等の講習を全て中止 新型コロナウイルス感染症対応(ダイヤモンドプリンセス号の乗船者(PCR陰性2週間隔離対象者)の健康管理のため、税務大学校へ救護班(医師1名・看護師長1名・看護師1名・薬剤師1名)を派遣(2月28日～3月1日) 3月3日～4日開催予定の赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議を中止
令和 2 年	2020	新型コロナウイルス感染症拡大のため、支部災害対策警戒本部を設置(4月17日) 職員を2班に分け隔日勤務とし、在宅勤務時にはリモートアクセスを利用 (4月20日～5月10日) 赤十字レッドライトアッププロジェクトに参加し、盛岡城跡公園の一部を赤くライトアップ(5月8日～5月28日) 6月から各種短期講習、11月から救急法基礎講習を再開 JRCリーダーシップ・トレーニング・センターが新型コロナウイルス感染症の影響で中止(2020年で70周年であったが初の中止) 第1回評議員会(6月10日予定)、第2回評議員会(2月10日予定)とも新型コロナウイルス感染症の影響により文書審議 第1ブロック支部合同災害救護訓練を盛岡市で実施(11月6日～7日) 災害救助犬のユキとサチに岩手県支部のロゴ入りハーネス用ワッペンを贈呈 災害救助犬のハーネスに赤十字マークのワッペンを付けるのは全国初(1月) 日本赤十字社が東日本大震災義援金の募集を3月31日で終了(約10年間募集)
令和 3 年	2021	青少年赤十字創設100周年記念岩手県ポスターコンクール実施(5月～11月) 全国赤十字大会(明治神宮会館:5月20日開催予定)が新型コロナウイルス感染症の影響で中止 第1回評議員会を盛岡市において開催(6月15日) 青少年赤十字スタート・プログラムを滝沢市において実施(7月29日～30日) 宮城県において実施予定の第1ブロック支部合同災害救護訓練(10月8日～9日)は、新型コロナウイルス感染症の影響で翌年度に延期

令和 3 年	2021	釜石市で開催された「防災推進国民」大会に出展(11月6日～7日) 復興支援事業として陸前高田市、釜石市、大槌町の地域住民を対象に、平泉町にてノルディックウォーキングと交流会を実施(11月17日) 第2回評議員会(2月10日予定)は新型コロナウイルス感染症の影響により文書審議「次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー」(遺贈・相続財産寄付)を盛岡市にて開催(2月23日) ウクライナ人道危機救援金の募集を開始(3月2日～)
令和 4 年	2022	第1回評議員会を盛岡市において開催(6月20日) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(滝沢市にて7月26日から7月28日実施予定)が新型コロナウイルス感染症の影響で中止 大雨災害で青森県支部に救援物資支援(8月10日・25日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを北上市において実施(9月1日) 岩手県支部有功会感謝の集いを盛岡市において実施(9月9日) 赤十字ふれあいフェスティバルを北上市において実施(10月9日) 管内施設合同災害救護訓練を盛岡市において実施(10月14日) 赤十字ふれあいフェスティバルを盛岡市において実施(10月16日) 明治安田生命と連携協定締結(2月9日) 第2回評議員会を盛岡市において開催(2月13日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを盛岡市において実施(2月1日) 第28回日本災害医学会総会・学術集会で演題発表:盛岡市(3月10日) いわて防災サミットに防災ブース出展:盛岡市(3月10日)
令和 5 年	2023	第1回評議員会を盛岡市において開催(6月6日) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを滝沢市において実施(7月27日～28日) 秋田県大雨災害被害へこころのケア・避難所アセスメントチームを派遣予定だったが、ニーズ減少のため派遣中止(7月28日～31日) さんさ踊り参加(管内全施設) 管内施設合同災害救護訓練を盛岡市において実施(9月22日) 盛岡市長選挙の結果により副支部長が交代することに伴い、評議員会文書審議を実施(9月上旬) 地域包括ケア推進に関する協定書締結(支部・盛岡赤十字病院)宮古市、陸前高田市(9月) 第1ブロック支部合同災害救護訓練を石巻市において実施(10月19日～21日)

令和 5 年	2023	次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを釜石市において開催(10月29日) 岩手県支部有功会感謝の集いを盛岡市において開催(12月14日) 第2回評議員会を盛岡市において開催(2月6日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを盛岡市において開催(3月2日) R6年能登半島地震(1月1日)発災 救護班第1班派遣(1月10日～14日)、第5班(2月13日～17日)まで派遣 日赤災害医療コーディネートチーム派遣2班(1月24日～30日、2月13日～25日) こころのケア班1班派遣(3月18日～24日)
--------	------	---

日本赤十字社現勢

日本赤十字社の使命				わたしたちは、 苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、 いかなる状況下でも、 人間のいのちと健康、尊厳を守ります。				日本赤十字社スローガン 人間を救うのは、人間だ。				赤十字の基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性			
1949年のジュネーブ四条約締結国				196カ国				世界の赤十字社・赤新月社等（発行日（令和5年7月3日）現在）				191社			
1. 沿革				明治10年(1877) 5月 1日 博愛社設立 明治20年(1887) 5月20日 日本赤十字社に改称 昭和27年(1952) 8月14日 日本赤十字社法制定				12. 国内災害救護				救護員数 8,077人(常備救護班要員を含む) 常備救護班 487班 5,231人 無線局 (令和5年3月31日現在) 3,130局 救護車両 2,206台 赤十字飛行隊(特殊奉仕団) 99人 災害における救護員出動数(令和4年度) 244人 救援物資配分数(毛布・安眠セット・緊急セット)(令和4年度) 11,314個 令和4年度受付義援金額(令和5年3月31日現在) 6億2,424万3,358円			
2. 名誉総裁・名誉副総裁				名誉総裁 皇后陛下 名誉副総裁 秋篠宮皇嗣妃殿下 常陸宮殿下・同妃華子殿下 三笠宮妃百合子殿下 寛仁親王妃信子殿下 高円宮妃久子殿下				13. 医療事業				施設数 診療所 5 老人保健施設 4 介護医療院 5 病床総数 34,777床 (令和5年3月31日現在) 総患者数(令和4年度) 1日平均 入院 951万人 2.6万人 外来 1,600万人 6.5万人			
3. 会員				個人 20.1万人 (令和5年3月31日現在) 法人 8.1万法人				14. 血液事業				施設数 地域血液センター 47 ブロック血液センター 7 附属施設 169 附属施設(製造所) 4 (献血ルーム116を含む) 分室 1 献血者数(令和4年度) 供給本数(令和4年度) 成分献血 158万人 輸血用製剤 1,724万本 400mL 献血 330万人 車両台数(令和5年3月31日現在) 200mL 献血 12万人 献血運搬車 769台 計 501万人 移動採血車 282台			
4. 評議員				2,004人				15. 社会福祉事業				児童福祉施設数(定員) 乳児院 8(291) 医療型障害児入所施設 3(286) 保育所 3(348) 児童養護施設 1(40) 老人福祉施設数(定員) 特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む) 8(773) 障害者福祉施設数(定員) 複合型施設 1(定員) 障害者支援施設 1(50) 特別養護老人ホーム (110) 視聴覚障害者情報提供施設 2 介護老人保健施設 (100) 補装具製作施設 1 高齢者グループホーム (18) 障害者支援施設 (10)			
5. 代議員				223人				16. 職員数(施設数)				職員数 本社(1) 538人 支部(47) 721人 医療事業(116) 59,091人 血液事業(228) 5,819人 社会福祉事業(28) 1,234人 計 67,403人			
6. 役員				社長 清家 篤(常勤) 副社長 鈴木 俊彦(常勤) 十倉 雅和(非常勤) 理事 61人(常勤5人、非常勤56人) 監事 3人(常勤1人、非常勤2人)				17. 会計(令和5年度当初予算)				一般会計 本社 147億8千万円 支部 211億8千万円 医療施設特別会計 1兆1,940億7千万円 血液事業特別会計 1,630億2千万円 社会福祉施設特別会計 159億4千万円			
7. 青少年赤十字(令和5年3月31日現在)				幼稚園・保育所等 1,780校 147,304人 小学校 7,099校 1,947,234人 中学校 3,459校 973,227人 高等学校 1,753校 370,874人 特別支援学校 210校 20,279人 その他 137校 35,237人 計 14,438校 3,494,155人 指導者 288,355人											
8. 赤十字ボランティア(令和5年3月31日現在)				地域赤十字奉仕団 2,088団 806,027人 青年赤十字奉仕団 150団 5,111人 特殊赤十字奉仕団 622団 28,566人 個人ボランティア等 - 11,130人 計 2,860団 850,834人											
9. 救急法等の講習				資格登録者数(令和5年3月31日現在) 受講者数(令和4年度) 指導者 救急員等 救急法基礎講習 10,765人 273,336人 33,611人 救急法 6,827人 148,147人 262,265人 水上安全法 1,465人 11,361人 30,167人 雪上安全法 203人 1,220人 367人 幼児安全法 2,270人 21,988人 46,386人 健康生活支援講習 1,709人 15,349人 30,059人 計 23,239人 471,401人 402,855人											
10. 看護師等の教育				施設数 一学年養成定員 大学(大学院併設) 6 看護師 16校 1,145人 短期大学 1 助産師 6校 88人 看護専門学校 10 保健師 6校 149人 助産師学校 1 幹部看護師 1校 120人 幹部看護師研修センター 1 介護福祉士 1校 30人 計 19											
11. 国際活動				国際救援・開発要員派遣(令和4年度) 16カ国 のべ61人 国際赤十字・赤新月社連盟出向 2人(スイス、マレーシア) 国際活動費(令和4年度) 78億円											

(特に断りのない統計数字等は、令和5年4月1日現在)

用 語 解 説

(令和6年4月1日現在)

代議員会

本社における議決機関。各支部の会員の中から選出された 223 人の代議員で構成されている。

評議員会

支部における審議機関。各地区・分区の会員の中から選出された 32 人の評議員で構成されている。

会員・協力会員

赤十字の理念や活動にご賛同いただき、毎年継続して 2,000 円以上ご支援(会費という)いただける方を「会員」、500 円以上 2,000 円未満のご支援(会費という)をいただける方を「協力会員」と呼んでいます。個人・法人を問わず、どなたでも「会員」、「協力会員」になることができます。

有功章

多額の会費を納めた個人・法人又は団体及び赤十字の業務について特別な功労があった個人・法人又は団体に対し、日本赤十字社有功章等贈与規則に基づき贈られる表彰。銀色(ぎんしょく)と金色(きんしょく)があり、金色有功章は最高の荣誉章とされている。

有功会

日本赤十字社の社旨に賛同し多額の金品を拠出し、あるいは功労により有功章を贈られた会員で構成する任意団体。

赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織。

青少年赤十字(Junior Red Cross : JRC)

将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら作り上げることを目的とした事業。

RCY(Red Cross Youth : 青年赤十字)とともに世界共通。

リーダーシップ・トレーニング・センター

合宿生活を通じ、青少年赤十字精神と奉仕活動を学ぶリーダー養成研修会。

国際赤十字

赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社・赤新月社の総称。

赤十字国際委員会(International Committee of the Red Cross : ICRC)

戦時救護事業の中心機関で、中立を保つことができるよう委員は永世中立国のスイス人で構成されている。ジュネーブに本部を置く。

国際赤十字・赤新月社連盟(International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies : IFRC)

平時における赤十字事業の中心となる各国赤十字社の国際的連合体。最高議決機関は通常 2 年ごとに開催される総会。本社所在地ジュネーブ。

各国赤十字社・赤新月社

各々の国における人道的事業の実施機関。使用する標章の違いから、赤十字社と赤新月社の 2 種の呼称があるが、権利・義務、役割等は全く同じ。令和6年4月 1 日現在で 192 社。

赤十字・赤新月国際会議

国際赤十字・赤新月運動の最高議決機関。赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字社及びジュネーブ条約加入国政府の代表によって構成され、原則として 4 年ごとに開催される。それぞれの国の赤十字社代表と政府代表等が一票ずつの投票権をもっている。

ジュネーブ条約

赤十字の目的を達成するには国家間の取り決めが必要で、戦場で負傷した兵士を敵、味方の区別なく救助することとし、救助する人たちの活動の安全保障をするために 1864 年成立した条約。赤十字条約とも国際人道法ともいわれる。

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

赤十字標語一覧

- 1980年（昭 55）赤十字：みんなのためにどこにでも
- 1981年（昭 56）あなたとともに赤十字
- 1982年（昭 57）あなたの身近に赤十字
- 1983年（昭 58）とっさの手当てが命を守る！覚えよう救急法
- 1984年（昭 59）人道を通じて平和へ
- 1985年（昭 60）あなたの若さを一赤十字
- 1986年（昭 61）いのちを救う愛の献血一赤十字
- 1987年（昭 62）幼い生命に愛の手を一赤十字
- 1988年（昭 63）伝統を明日への力に一赤十字
- 1989年（平 元）愛の手を世界に広げる赤十字
- 1990年（平 2）守ろう！人のいのちと尊さを
- 1991年（平 3）救おう！災禍にあえぐ人々を
- 1992年（平 4）災害に備えて守る尊い生命一赤十字
- 1993年（平 5）すべての人々に人間の尊厳を
- 1994年（平 6）すべての人々に人間の尊厳を
- 1995年（平 7）すべての人々に人間の尊厳を
- 1996年（平 8）すべての人々に人間の尊厳を
- 1997年（平 9）すべての人々に人間の尊厳を
- 1998年（平 10）すべての人々に人間の尊厳を
- 1999年（平 11）すべての人々に人間の尊厳を
- 2000年（平 12）すべての人々に人間の尊厳を
- 2001年（平 13）人道は限りない力
- 2002年（平 14）人道は限りない力
- 2003年（平 15）人道は限りない力
- 2004年（平 16）守ろう人間の尊さを
- 2005年（平 17）守ろう人間の尊さを
- 2006年（平 18）守ろう人間の尊さを
- 2007年（平 19）守ろう人間の尊さを
- 2008年（平 20）人間を救うのは、人間だ。
- 2009年（平 21）人間を救うのは、人間だ。
- 2010年（平 22）人間を救うのは、人間だ。
- 2011年（平 23）人間を救うのは、人間だ。
- 2012年（平 24）人間を救うのは、人間だ。
- 2013年（平 25）人間を救うのは、人間だ。
- 2014年（平 26）人間を救うのは、人間だ。
- 2015年（平 27）人間を救うのは、人間だ。
- 2016年（平 28）人間を救うのは、人間だ。
- 2017年（平 29）人間を救うのは、人間だ。
- 2018年（平 30）人間を救うのは、人間だ。
- 2019年（平 31）人間を救うのは、人間だ。
- 2020年（令 2）人間を救うのは、人間だ。
- 2021年（令 3）人間を救うのは、人間だ。
- 2022年（令 4）人間を救うのは、人間だ。
- 2023年（令 5）人間を救うのは、人間だ。
- 2024年（令 6）人間を救うのは、人間だ。